

**2024年度
日本語学校ブリッジ
プログラム科目
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

〔発行日：2024/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【A0001】 憲法Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring.....	1
【A0002】 憲法Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall.....	2
【A0003】 憲法Ⅰ [國分 典子] 春学期授業/Spring.....	3
【A0004】 憲法Ⅱ [國分 典子] 秋学期授業/Fall.....	4
【A0031】 民法法総論 [大澤 彩] 秋学期授業/Fall.....	6
【A0032】 契約法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring.....	8
【A0041】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall.....	10
【A0044】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall.....	11
【A0077】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸、佐野 文彦] 秋学期授業/Fall.....	12
【A0079】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸、佐野 文彦] 秋学期授業/Fall.....	13
【A0089】 概説刑事法 [今井 猛嘉] 春学期授業/Spring.....	14
【A0131】 法思想史 [大野 達司] 秋学期授業/Fall.....	15
【A0140】 法学入門 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring.....	16
【A0141】 法学入門 [青柳 由香] 春学期授業/Spring.....	18
【A0197】 概説刑事法 [今井 猛嘉] 春学期授業/Spring.....	19
【A0445】 国際政治学入門 [大野 知之] 春学期授業/Spring.....	20
【A0446】 国際政治の理論と現実 [川名 晋史] 春学期授業/Spring.....	21
【A0512】 政治学入門Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring.....	22
【A0513】 政治学入門Ⅱ [新川 敏光] 秋学期授業/Fall.....	23
【A0645】 国際協力講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall.....	24
【A0667】 中東の政治と社会Ⅰ [木村 正俊] 春学期授業/Spring.....	26
【A0668】 中東の政治と社会Ⅱ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall.....	27
【A0723】 中国の政治と社会Ⅰ [熊倉 潤] 春学期授業/Spring.....	28
【A0731】 中国の政治と外交Ⅰ [福田 円] 春学期授業/Spring.....	29
【A0732】 中国の政治と外交Ⅱ [福田 円] 秋学期授業/Fall.....	30
【A0771】 朝鮮半島の政治と社会Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring.....	31
【A0772】 朝鮮半島の政治と社会Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall.....	32
【A0773】 台湾の政治と社会Ⅰ [塚本 元] 春学期授業/Spring.....	33
【A0774】 台湾の政治と社会Ⅱ [塚本 元] 秋学期授業/Fall.....	34
【A0848】 ロシアの政治と外交Ⅰ [溝口 修平] 春学期授業/Spring.....	36
【A0849】 ロシアの政治と外交Ⅱ [溝口 修平] 秋学期授業/Fall.....	37
【A0904】 北アメリカの政治と社会Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring.....	38
【A0905】 北アメリカの政治と社会Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall.....	39
【A0985】 法学入門 [川村 洋子] 春学期授業/Spring.....	40
【A0986】 法学入門 [大野 達司] 春学期授業/Spring.....	41
【A2665】 日本文芸研究特講 (3) 中世A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring.....	42
【A2666】 日本文芸研究特講 (3) 中世B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall.....	43
【A2703】 日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A [ステイーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring.....	44
【A2704】 日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B [ステイーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall.....	45
【A2907】 英米文学講義ⅠA [波戸岡 景太] 春学期授業/Spring.....	46
【A2908】 英米文学講義ⅠB [波戸岡 景太] 秋学期授業/Fall.....	47
【A3401】 地理学概論 (1) [前空 英明] 春学期授業/Spring.....	48
【A3402】 地理学概論 (2) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall.....	49
専門入門科目100番台 【A4001】 組織論入門 [長岡 健] 春学期授業/Spring.....	50

専門入門科目 100 番台 【A4002】 組織論入門 [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall	52
専門入門科目 100 番台 【A4003】 組織論入門 [橋本 諭] 春学期授業/Spring	53
専門入門科目 100 番台 【A4004】 組織論入門 [橋本 諭] 秋学期授業/Fall	54
専門入門科目 100 番台 【A4005】 戦略論入門 [安藤 直紀] 春学期授業/Spring	55
専門入門科目 100 番台 【A4006】 戦略論入門 [吉田 健二] 春学期授業/Spring	56
専門入門科目 100 番台 【A4007】 戦略論入門 [福島 英史] 秋学期授業/Fall	57
専門入門科目 100 番台 【A4008】 戦略論入門 [吉田 健二] 秋学期授業/Fall	58
専門入門科目 100 番台 【A4024】 簿記入門Ⅰ [大下 勇二] 春学期授業/Spring	59
専門入門科目 100 番台 【A4025】 簿記入門Ⅱ [大下 勇二] 秋学期授業/Fall	60
専門入門科目 100 番台 【A4026】 簿記入門Ⅰ [川島 健司] 春学期授業/Spring	61
専門入門科目 100 番台 【A4027】 簿記入門Ⅱ [川島 健司] 秋学期授業/Fall	63
専門入門科目 100 番台 【A4028】 簿記入門Ⅰ [神谷 健司] 春学期授業/Spring	65
専門入門科目 100 番台 【A4029】 簿記入門Ⅱ [神谷 健司] 秋学期授業/Fall	66
専門入門科目 100 番台 【A4030】 簿記入門Ⅰ [近藤 大輔] 春学期授業/Spring	67
専門入門科目 100 番台 【A4031】 簿記入門Ⅱ [近藤 大輔] 秋学期授業/Fall	68
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall	69
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall	71
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	72
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	73
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1019】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	74
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	75
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	77
建築学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	79
建築学科_基盤科目_留学生科目 【B1067】 日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	81
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目 【B1067】 日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	82
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目 【B1067】 日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	83
システムデザイン学科_専門科目_導入科目 【B2342】 システムデザイン入門 [田中 豊] 春学期前半/Spring(1st half)	84
【C0210】 統計処理法 [吉田 一星] 春学期授業/Spring	86
【C0211】 システム論 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	87
【C0212】 デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	88
【C0213】 文化情報学概論 [前田 圭蔵] 秋学期授業/Fall	89
【C0214】 情報産業論 [今和泉 仁] 春学期授業/Spring	91
【C0215】 ネット文化論 [神戸 雅一] 秋学期授業/Fall	93
【C0220】 表象文化概論 [岡村 民夫、林 志津江、甲 洋介、竹内 晶子] 春学期授業/Spring	95
【C0221】 メディアと情報 [君塚 洋一] 春学期授業/Spring	96
【C0222】 社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	98
【C0230】 比較文化 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	101
【C0231】 言語文化概論 [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	102
【C0232】 現代思想 [押山 詩緒里] 秋学期授業/Fall	103
【C0233】 ジェンダー論 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	104
【C0234】 異文化間コミュニケーション [副島 健作] 秋学期授業/Fall	106
【C0235】 国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	108
【C0236】 国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	110
【C0241】 国家と民族 [石森 大知] 春学期授業/Spring	112
【C0242】 国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	113
【C0243】 平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	114
【C0244】 宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	115
【C1001】 異文化適応論 [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	117
【C1501】 デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	118
【C1503】 文化情報学概論 [前田 圭蔵] 秋学期授業/Fall	119
【C2008】 国際関係論 [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	121
【C2104】 現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	122
【C2106】 経営学入門 [金藤 正直] 春学期授業/Spring	124
【C2110】 環境経済論Ⅰ [杉野 誠] 春学期授業/Spring	125
【C2111】 環境経済論Ⅱ [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	126

【C2112】環境経営論Ⅰ [金藤 正直] 春学期授業/Spring	127
【C2113】環境経営論Ⅱ [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	129
【C2116】CSR論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	131
【C2117】CSR論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	133
【C2200】現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	135
【C2201】現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	136
【C2202】現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	137
【C2210】地域形成論 [小島 聡] 秋学期授業/Fall	138
【C2217】環境社会論Ⅰ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	140
【C2218】環境社会論Ⅱ [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	142
【C2219】環境社会論Ⅲ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	144
【C2220】労働環境論Ⅰ [櫻井 洋介] 春学期授業/Spring	146
【C2221】労働環境論Ⅱ [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	148
【C2312】日本環境史論Ⅰ [芳賀 和樹] 春学期授業/Spring	150
【C2313】日本環境史論Ⅱ [芳賀 和樹] 秋学期授業/Fall	152
【C2316】環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	154
【C2317】環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	155
【C2322】環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	156
【C2323】環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	158
【C2401】サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	160
【C2406】エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期授業/Spring	161
【C2411】気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	162
【C2412】気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	163
【C2416】環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	164
【C2417】環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	165
【C2418】環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	166
【C2419】衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	167
【C2420】衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	168
【C2421】衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	169
【C2422】エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	170
【C2429】サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	171
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7050】発達・教育キャリア入門A [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring	173
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7051】発達・教育キャリア入門B [田澤 実] 秋学期授業/Fall	175
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7052】発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門Ⅰ) [久井 英輔] 春 学期授業/Spring	176
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7053】発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門Ⅰ) [朝岡 幸彦] 春 学期授業/Spring	178
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7058】ビジネスキャリア入門A [妹尾 渉] 秋学期授業/Fall	179
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7059】ビジネスキャリア入門B [武石 恵美子] 春学期授業/Spring ..	180
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7060】ビジネスキャリア入門C [中野 貴之] 春学期授業/Spring	182
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7061】ビジネスキャリア入門D [酒井 理] 秋学期授業/Fall	183
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7062】ライフキャリア入門A [八田 益之] 春学期授業/Spring	185
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7063】ライフキャリア入門B [齋藤 嘉孝] 秋学期授業/Fall	186
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7064】ライフキャリア入門C [安田 節之] 春学期授業/Spring	187
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7065】ライフキャリア入門D [金山 喜昭] 秋学期授業/Fall	189
基幹科目_選択【C7081】ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	190
基幹科目_選択【C7082】若者の自立支援 [大山 宏] 秋学期授業/Fall	192
基幹科目_選択【C7088】キャリアモデル・ケーススタディ [なかむら アサミ] 春学期授業/Spring	193
展開科目_選択必修(体験型)【C7134】多文化教育Ⅰ [村田 晶子] 春学期授業/Spring	194
展開科目_選択必修(体験型)【C7135】多文化教育Ⅱ [村田 晶子] 秋学期授業/Fall	196
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群(社会分野)【Q2133】社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授業/Spring	198
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群(社会分野)【Q2134】社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall	199
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群(社会分野)【Q2137】社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授業/Spring	201
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群(社会分野)【Q2138】社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall	202
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2327】経済学L A [小峯 敦] 春 学期授業/Spring	204

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2328】 経済学LB [小峯 敦] 秋 学期授業/Fall	205
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2372】 政治学LB [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	206

LAW100AB (法学 / law 100)

憲法 I

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台を成す立憲主義とそれが成立した歴史的経緯を概観した上で、国民民主権などの日本国憲法の基本原理、および人権の分類や主体などの人権に関わる総論的な事項について学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①立憲主義の内容およびその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の基本原理、特に国民民主権の規範内容について理解する。
- ③人権の分類と個々の権利の特質について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（Hoppii）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	立憲主義の意義	法体系における憲法の意義と機能、および立憲主義の意義について学ぶ。
第3回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と憲法の特質および憲法の類型について学ぶ。
第4回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家と近代憲法の成立過程について学ぶ。
第5回	憲法の歴史②：現代憲法の成立	近代国家から現代国家への変容と、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第6回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法の対比、および日本国憲法成立の法理について学ぶ。
第7回	天皇制	象徴天皇制の意義および天皇の国事行為について学ぶ。
第8回	国民民主権	国民民主権の意義とその規範的意味について学ぶ。
第9回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持規定の意義について学ぶ。
第10回	人権の類型	人権の類型と個々の人権の特質、および新しい人権について学ぶ。
第11回	人権の享有主体	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性について学ぶ。
第12回	人権の限界	人権の限界、特に公共の福祉の規範的意味について学ぶ。
第13回	人権の私人間効力	人権の私人間効力に関する学説と判例について学ぶ。

第14回 人権の国際的保障 国際人権条約の意義と人権条約の国内適用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はHoppiiを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学 [第4版]』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法 I・II [第2版]』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法 I・II』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I・II』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う試験の点数によって成績を評価する（100%）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当者が変更されたため、フィードバックできない。

【その他の重要事項】**【実務経験のある教員による授業】**

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の経験がある、授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】

In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB (法学 / law 100)

憲法Ⅱ

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本国憲法に規定された個々の人権について、保障内容と特質を明らかにした上で、その権利に関する学説・判例を学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①日本国憲法が保障する人権の体系について理解する。
- ②個々の人権の保障内容について理解する。
- ③個々の人権に関する論点と、その論点に関する学説・判例を理解する。
- ④現代社会の様々な人権問題について、憲法学的な視点から分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（Hoppii）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	人権の種類	日本国憲法が保障する人権の体系と類型について学ぶ。
第3回	法の下での平等（平等権）	法の下での平等の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第4回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第5回	信教の自由	信教の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第6回	政教分離原則	政教分離原則の内容、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第7回	表現の自由①：表現の自由の内容	表現の自由およびそこから派生する権利の内容について学ぶ。
第8回	表現の自由②：表現の自由の限界	表現の自由の限界について、それに関する学説・判例を中心に学ぶ。
第9回	経済的自由権	経済的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第10回	身体的自由権	身体的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

第11回	社会権①：生存権	生存権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第12回	社会権②：教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利と労働基本権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第13回	参政権	参政権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第14回	国務請求権	国務請求権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はHoppiiを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う試験の点数によって成績を評価する（100%）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当者が変更されたため、フィードバックできない。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の経験がある、授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the content and characteristics of the individual human rights guaranteed by the Constitution of Japan, and then study theories and judicial precedents concerning these rights.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB (法学 / law 100)

憲法 I**国分 典子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H・N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、国家とは何か、憲法とは何かを考察することからはじめ、憲法の基礎を学びます。日本の憲法史の特徴および日本国憲法の基本原理を理解し、現代の立憲主義の課題について考える能力を養うことを目的とします。この授業は全てのコースに配置されています。

【到達目標】

憲法総論・人権総論を学び、日本の法体系の中での憲法の位置づけを理解できるようにします。また現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜オンラインでアップロードないし配布し、レジュメに沿って進行します。学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は授業内・授業後にお受けするほか、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	憲法の学び方	授業の進め方や学び方についてのガイダンスを行う。
第2回	憲法の意味	憲法の内容や立憲主義とは何かを考える。
第3回	日本憲法史	立憲主義が日本の歴史の中でどのように受容されたかを考える。
第4回	憲法の基本原理（1）	国民主権と天皇制について考える。
第5回	憲法の基本原理（2）	憲法9条と平和主義について考える。
第6回	憲法の基本原理（3）	「基本的人権の尊重」とは何か、および憲法上の権利・義務について考える。
第7回	人権の主体（1）	外国人の人権について考える。
第8回	人権の主体（2）	国民、天皇・皇族、法人の人権について考える。
第9回	人権の主体（3）	公務員の人権について考える。
第10回	人権の限界	人権と「公共の福祉」の関係を考える。
第11回	人権の私人間適用	憲法上の人権が私人間の問題にどのように適用されるかを考える。
第12回	憲法13条の位置づけ（1）	「包括的基本権条項」と捉えられる憲法13条の意味について考える。
第13回	憲法13条の位置づけ（2）	憲法13条から導き出される具体的な人権の諸問題について考える。

第14回 平等

平等問題についての基本的な考え方を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
 佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
 などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすいものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）

また判例集として、

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選I・II』第7版（有斐閣、2019年）

やコンパクトなものとして、

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

などがあります。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）及び2回の理解度確認テスト（20%）により評価します。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

話し方が早口になりがちなので、気を付けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

理解度確認テストをHoppii上で受けられるように準備してください。

【その他の重要事項】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this course, students will learn the basics of constitutional law, beginning with a consideration of what a state is and what a constitution is.

< Learning Objectives >

The objective of this course is to understand the characteristics of Japan's constitutional history and the basic principles of the Japanese Constitution, and to develop the ability to think about contemporary issues of constitutionalism.

< Learning activities outside of classroom >

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW100AB (法学 / law 100)

憲法Ⅱ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権の各論を概説します。
 現代社会における人権に関する具体的な問題について理解し、人権に関する学説や判例についての理解を深めることを目的とします。
 この科目は全てのコースに配置されています。

【到達目標】

1. 人権についての具体的な事例を通して人権問題についてのアプローチの方法を理解することを目指します。
2. 憲法判例を読み、違憲審査基準論の課題を理解することを目指します。
3. 以上の理解を通じて、実際の社会において提起される人権問題に関して、法的解決方法を提示することができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜Hoppiiにアップロードないし配布し、レジュメに沿って進行します。
 学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は質問コーナーの時間を設けてお答えするほか、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび人権総論	授業の進め方について説明するとともに、憲法Ⅰを振り返って基本的人権の体系を概観する。
第2回	思想・良心の自由	内心の自由とその限界について考える。
第3回	信教の自由と政教分離	判例を通じて信教の自由と政教分離の問題を考える。
第4回	表現の自由（1）	表現の自由とはどのようなものかを考え、表現の自由を巡る違憲審査基準の問題を考える。
第5回	表現の自由（2）	プライバシーや名誉棄損。性表現等と表現の自由の限界の問題を考える。
第6回	表現の自由（3）	メディアの自由や集会の自由とその限界を考える。
第7回	結社の自由・学問の自由	結社の自由や学問の自由を巡る具体的な問題、大学の自治の位置づけを考える。
第8回	職業選択・居住移転の自由	職業選択の自由を巡る判例の検討、および居住移転の自由の範囲、国籍離脱の自由等について考える。
第9回	財産権	財産権の憲法上の位置づけについて考える。

第10回	人身の自由	人身の自由と適正手続の保障を巡る憲法条項を考える。
第11回	婚姻・家族形成の自由	憲法24条を巡る諸問題を考える。
第12回	生存権	憲法25条から社会権の問題を考える。
第13回	教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利を巡る学説や労働基本権の法的位置づけを考える。
第14回	国務請求権・参政権	国務請求権および参政権の権利としての性格と具体的な問題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。
 新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
 佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
 などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすそうなものを選んで頂ければと思います。適宜、使いやすいものをいくつか挙げておきます。
 〈入門的なもの〉
 中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
 〈標準的なもの〉
 新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法Ⅰ 総論・統治』『憲法Ⅱ 人権』（日評ベアシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
 〈発展的なもの〉
 毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ 総論・統治』『憲法Ⅱ 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
 また判例集として、
 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）
 やコンパクトなものとして、
 小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
 などがあります。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）及び2回の理解度確認テスト（20%）により評価します。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

早口になりがちなので、気を付けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを使って、学期の途中でオンライン上で理解度確認テストを行いますのでそのための機器をご準備ください。

【その他の重要事項】

レジュメはHoppiiにアップする予定ですので、それをダウンロードしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course provides an overview of individual specific human rights.

< Learning Objectives >

The purpose of this course is to deepen students' understanding of specific issues related to human rights in contemporary society and to deepen their understanding of theories and judicial precedents related to human rights.

< Learning activities outside of classroom >

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

〈Grading Criteria〉

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW100AB (法学 / law 100)

民事法総論

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考(履修条件等)：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2~4年(他学科他学部はクラス指定なし)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

主として民法総則を中心に扱い、民法の基本制度、基本原則、さらには消費者問題、高齢者問題といった現代社会特有の問題に対処する上で民法が果たす役割について学ぶ。「裁判と法コース」など全コースに属している。

【到達目標】

民法総則のうち、特に信義則・権利濫用、権利外観法理、法人、時効の基本的知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。また、消費者問題、高齢者問題など現代社会特有の問題に民法が果たす役割について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることができる。

以上の学習にあたり、実際の紛争の内容およびその解決の在り方(条文の解釈・適用の仕方)について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事法総論では、主として民法総則を講義の対象とし、民法の定める基本原則の意味のほか、物の概念、無効と取消し、時効といった民法の基本知識に加え、権利外観法理や法人制度など、これまでの民法の講義で学んだ分野の発展的問題をとりあげる。毎回の講義において、これらの分野の基本知識・考え方を説明するとともに、関連する判例を読んで民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかを理解する。

また、民法は私たちの生活にとって身近かつ重要な法律であることを踏まえ、現代社会における民法の役割、重要性についても発展的な講義を行う。これらについても、関連する判例をもとに説明する。具体的には、①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること。②授業日はWebexまたはZOOMで解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。WebexまたはZOOMでの解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板(毎回の講義毎にトピックを設定する)で受け付ける。WebexまたはZOOMでも質問を受け付ける。また、隔週になると思われるが、対面での質問受付の機会を設けるので、進路相談や学習相談に活用して欲しい。事前課題や小テストの解説、および、学生からの質問への回答は授業内で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	民法とは何か・民法上の基本概念(物とは何か)	民法とは何か、民法の「物」概念および関連規定についての講義
第2回	民法の基本原則①	民法の信義則概念についての講義・判例分析
第3回	民法の基本原則②	民法の権利濫用法理についての講義・判例分析

第4回	権利の主体・発展問題①民法における外観法理	民法94条2項と110条をめぐる判例の解説
第5回	権利の主体・発展問題②法人	法人とは何か、法人の設立についての講義
第6回	権利の主体・発展問題③法人	法人の対外関係についての講義
第7回	無効と取消しについて	無効・取消しの意義、両者の違いをめぐる講義
第8回	時効①	時効とは何か、時効の援用についての講義
第9回	時効②	時効の完成猶予、更新についての講義
第10回	時効③	消滅時効についての講義
第11回	時効④	時効の起算点をめぐる判例の分析
第12回	民法と特別法の関係-消費者契約法	消費者契約法についての解説・民法との関係についての説明
第13回	現代における民法の役割①消費者問題と民法	消費者契約法が適用された裁判例の分析
第14回	現代における民法の役割②高齢者問題と民法	高齢者問題をめぐる裁判例の分析・成年後見制度についての講義

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業2日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所(毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する)を読むとさらに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日にWebexまたはZOOMでの解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。

特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして具体的に把握する。

本授業の予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

佐久間毅『民法の基礎1総則(第5版)』(有斐閣、2020年)(講義の予習・復習用として必ず購入すること)。

潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選I(第9版)』(有斐閣、2023年)以上2点ともに、開講時の最新版を購入すること。

六法(出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である)

【参考書】

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法1総則(第2版)』(有斐閣、2019年)。

滝沢昌彦『民法がわかる民法総則(第5版)』(弘文堂、2023年)その他の参考書は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う(行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること)。このテストによる評価を20~30%とする。

また、学期末に定期試験(対面での試験が可能である場合)を行う。この学期末試験による評価を70~80%とする。

つまり、小テストと定期試験の合計(100%)で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで小テストを行う場合には、問題文が見やすくなるよう、工夫する。また、小テストを行う時間が授業終了後、次の時限にからないようにするなど、工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答はWebexまたはZOOMで行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

レジュメ、板書に頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。少なくとも「契約法Ⅰ」を受講した上でこの科目を受講すること。学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the general provisions of Civil Code, especially, the juridical person and the prescription. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination(40%) and term-end examination(60%).

LAW100AB (法学 / law 100)

契約法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法のうち、契約の成立、有効要件、および、契約の主体に関する法的問題を扱う。「裁判と法コース」など全コースに属している。民法には家族、契約、物の所有といった、私達にとって身近な事柄に関する規定が設けられているが、このうち、この授業では私達が日々行っている契約に関する基本ルールを学ぶ。

大学に入学して初めて民法を学ぶ機会でもあることから、民法とは何か、契約とは何かといった民法の基本的な考え方はもちろん、判例の調べ方、文献の調べ方といった民法の学習方法も身につける。

【到達目標】

契約の成立、有効要件、および契約の主体にかかわる民法総則、契約総論部分の知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。

また、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民法総則は、民法全体にわたる規定であり、しかも、抽象的な規定が多いことから、必ずしも理解が容易な分野ではない。講義では契約における法的問題を中心に学説・判例の考え方を示すとともに、判例を実際に読むことで紛争を解決するための法的思考方法や民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかについても説明する。具体的には、①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日はWebexあるいはZOOMで解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。WebexあるいはZOOMでの解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。WebexあるいはZOOMでの解説終了後にも質問を受け付ける。また、隔週になると思われるが、対面での質問受付の機会を設けるので、進路相談や学習相談に活用して欲しい。

事前課題や小テストの解説、および、学生からの質問への回答は授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	契約とは何か（ガイダンスも兼ねて）	民法とは何か、契約法とは何か
第2回	契約の成立	民法における契約の成立に関する規定
第3回	契約の解釈・契約の内容	契約の解釈、公序良俗規定
第4回	契約の有効要件①意思表示総論、意思の不存在	意思表示総論、心裡留保、虚偽表示①
第5回	契約の有効要件②意思の不存在	虚偽表示②、錯誤

第6回	契約の有効要件③意思表示の瑕疵	詐欺、強迫
第7回	契約の主体①自然人	権利能力、失踪宣告
第8回	契約の主体②自然人	意思能力、行為能力①行為能力とは何か、未成年者
第9回	契約の主体③自然人	行為能力②成年被後見人、被保佐人、被補助人、取引の相手方の保護
第10回	代理①	代理とは何か、代理の種類、代理人の義務
第11回	代理②	代理権の濫用、代理行為、無権代理①
第12回	代理③	無権代理②、無権代理と相続
第13回	代理④	表見代理①民法109条、110条
第14回	代理⑤	表見代理②民法112条、109条と110条の重畳適用、110条と112条の重畳適用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例百選の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日にWebexあるいはZOOMでの解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例百選の指定箇所を読むと理解が深まる。特に民法判例百選に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして把握するよう努めること。本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎1 総則（第5版）』（有斐閣、2020年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。
潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選I（第9版）』（有斐閣、2023年）以上2点ともに、開講時の最新版を購入すること。
六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法1 総則（第2版）』（有斐閣、2019年）
滝沢昌彦『民法がわかる民法総論（第5版）』（弘文堂、2023年）
その他、詳しくは開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。このテストによる評価を20～30%とする。
また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を70～80%とする。
つまり、小テストと定期試験の合計（100%）で評価する。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで小テストを行う場合には、問題文が見やすくなるよう、工夫する。また、小テストを行う時間が授業終了後、次の時限にかからないようにするなど、工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答はWebexまたはZOOMで行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。
学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the juristic acts, the agency, and the formation of contracts of Civil Code. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination (20 - 30%) and term-end examination(70 - 80%).

LAW100AB (法学 / law 100)

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律1,3,4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もある）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性—主観的要件と権利侵害
第3回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性—客観的過失
第4回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①—医療過誤
第5回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②—交通事故と工作物責任
第6回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③—名誉・プライバシー侵害等
第7回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第8回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714条）
第9回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲

第10回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第11回	基本型不法行為の効果論③	減額調整—過失相殺と損益相殺
第12回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第13回	複合型不法行為	使用者責任（715条）と共同不法行為（719条）
第14回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第4版、2021年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第4版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』（第2版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について授業支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

【Learning Objectives】

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB (法学 / law 200)

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律1,3,4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性—主観的要件と権利侵害
第3回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性—客観的過失
第4回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①—医療過誤
第5回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②—交通事故と工作物責任
第6回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③—名誉・プライバシー侵害等
第7回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第8回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714条）
第9回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲

第10回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第11回	基本型不法行為の効果論③	減額調整—過失相殺と損益相殺
第12回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第13回	複合型不法行為	使用者責任（715条）と共同不法行為（719条）
第14回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第4版、2021年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第4版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』（第2版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について授業支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

【Learning Objectives】

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW100AB (法学 / law 100)

刑法総論 I

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Iと刑法総論IIが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Iでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論IIで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。

開高時限の異なるクラスが別途設定されているので、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・刑法総論とは（佐藤）	授業の進め方、教材等の説明。 刑法総論の意義
第2回	刑法の基本原則（佐藤）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第3回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第4回	違法性I（佐藤）	刑法における違法の意義
第5回	違法性II（佐藤）	緊急避難
第6回	違法性III（佐藤）	正当防衛
第7回	違法性IV（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第8回	責任I（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第9回	責任II（佐野）	故意後半
第10回	責任III（佐野）	過失、責任能力
第11回	責任IV（佐野）	その他責任要素
第12回	不作為犯論（佐野）	不作為犯の意義と作為義務
第13回	未遂犯論（佐野）	実行の着手、不能犯、中止犯
第14回	共犯（佐野）	共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくこと。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習しておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（2023、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での抜き打ちの小テスト20%、期末試験80%の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、昨年度レポートや試験の質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるため、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。

分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

初回のガイダンスはオンライン講義であるため、初回についてはPCや通信設備等が必要となる。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the in-class test (20%) and term-end exam (80%).

LAW200AB (法学 / law 200)

刑法総論 I

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H・N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Iと刑法総論IIが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Iでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論IIで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。

開高時限の異なるクラスが別途設定されているので、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・刑法総論とは（佐藤）	授業の進め方、教材等の説明。 刑法総論の意義
第2回	刑法の基本原則（佐藤）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第3回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第4回	違法性Ⅰ（佐藤）	刑法における違法の意義
第5回	違法性Ⅱ（佐藤）	緊急避難
第6回	違法性Ⅲ（佐藤）	正当防衛
第7回	違法性Ⅳ（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第8回	責任Ⅰ（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第9回	責任Ⅱ（佐野）	故意後半
第10回	責任Ⅲ（佐野）	過失、責任能力
第11回	責任Ⅳ（佐野）	その他責任要素
第12回	不作為犯論（佐野）	不作為犯の意義と作為義務
第13回	未遂犯論（佐野）	実行の着手、不能犯、中止犯
第14回	共犯（佐野）	共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくこと。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習しておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（2023、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での抜き打ちの小テスト20%、期末試験80%の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、昨年度レポートや試験の質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるため、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。

分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

初回のガイダンスはオンライン講義であるため、初回についてはPCや通信設備等が必要となる。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the in-class test (20%) and term-end exam (80%).

LAW100AB (法学 / law 100)

概説刑事法

今井 猛嘉

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G（他学科はクラスの指定なし/他学部は学年・クラスの指定なし）
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各コースに共通の選択必修科目である。法律学科で学ぶ刑事法の分野としては、刑法（総論・各論）のほか、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策などがある。この授業は、これらの各分野を関連付けながら個々の学問領域のおおよその内容と基本的な考え方を紹介するものであり、この授業を終えた学生が興味を持ったそのうちの科目の本格的な勉強に取り組もうとするときに役立つ刑事法入門であるとともに、刑事実用法学を習得する前提として必要となるリベラル・アーツ科目でもある。

【到達目標】

刑事法をめぐるさまざまな社会事象（犯罪現象）について幅広い視点で自分なりに分析検討できるようになることを到達目標とするが、まずは、あまり普段の生活に縁がなく、とかく理屈っぽく、とっつきにくいと思われがちな刑事法への親しみを感じてもらい、理屈っぽい面を面白さを発見したり、犯罪というもののイメージを新たに、刑事法という学問分野を身近に感じてもらうことが第1の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では刑事法の各分野を総合的に紹介するとともに、わが国及び世界の刑事法をめぐる最新の問題についても、比較法的な視点から紹介し、検討の仕方を共有することを目指す。講義内容はオンデマンドで配信する（授業支援システムを利用する）。授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要、授業の受け方、犯罪白書の読み方
第2回	犯罪とその原因	犯罪原因論、わが国の犯罪現象
第3回	民事責任との違い、 刑罰理論	刑法の機能と目的 応報刑論と目的刑論
第4回	刑罰の種類、刑法学	刑罰と保安処分 わが国の死刑制度 刑法の解釈 第1回レポート提出
第5回	刑法各論	個人的法益の罪（殺人、窃盗、 名誉棄損） 社会的法益の罪 国家的法益の罪
第6回	犯罪論、構成要件	実体法、手続法、処遇法 法的要件と法的効果
第7回	犯罪論、違法性と責任	正当業務行為 正当防衛、緊急避難 責任能力
第8回	故意と過失	故意犯と過失犯 錯誤 第2回レポートの提出

第9回	未遂犯と共犯、刑の量定	正犯と共犯 共同正犯、教唆と幫助 共謀罪 量刑、罪数論
第10回	刑事訴訟法（捜査）	刑事訴訟法の目的 憲法の人権規定と捜査
第11回	刑事訴訟法（公判・ 上訴・再審）	公訴の提起 公判手続 証拠能力と証明力 確定判決と再審
第12回	各種犯罪の特徴と対策	暴力団犯罪 ホワイトカラー犯罪 高齢者犯罪 ヘイト・スピーチ 第3回レポートの提出
第13回	犯罪者の処遇、少年法	施設内処遇 社会内処遇 非行少年の処遇手続
第14回	比較法	日本の刑法学の歴史的背景 英米法型の刑法理論 大陸法型の刑法理論 条約による犯罪の新設 死刑存廃論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備と復習に要する時間は、各2時間を想定している。授業前の予習として教科書の担当部分を読むこと。分からない用語は法律学辞典で調べるとよい。分からない部分は読み飛ばしても構わない。

授業の理解度は、レポートにて確認する。

質問は、Hoppiiの機能を利用して行う。

【テキスト（教科書）】

令和5年版犯罪白書

<https://www.moj.go.jp/content/001410095.pdf>

最新の六法（出版社は問わない）。

【参考書】

参考図書

ベッカーリーア著『犯罪と刑罰』（岩波文庫）

ミル著山崎洋一訳『自由論』（光文社文庫2006年）

【成績評価の方法と基準】

レポート提出（全体の30%）と期末試験（全体の70%）で評価する。

Report submission (30% of total) and final exam trials (70% of the total).

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドで教材を配布する形式を取る。同様の方法で、これまでも多くの講義を担当したが、学生の皆さんからの質問等は、授業支援システムを通じて提出可能である。

【学生が準備すべき機器他】

連絡事項は、授業支援システムを利用してする。

【その他の重要事項】

刑事立法の動向、国際的な刑事政策の動向についても、随時、触れる予定である

【Outline (in English)】

In this course, you can learn the basic knowledge for the criminal law, the criminal procedure law and the criminology. Through the study of the course, you are supposed to acquire the necessary information and the way of thinking for the further study of the above mentioned subjects deeper.

The time required for the preparation and review of this class is assumed to be 2 hours each.

Report submission (30% of total) and final exam trials (70% of the total).

Attendance will be confirmed on the reaction paper.

LAW100AB (法学 / law 100)

法思想史

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「文化・社会と法コース」に属する。
近代日本の法思想・法制度に対する海外法思想の影響と理解を概観する。

【到達目標】

近代日本法思想の海外法思想の受容と歴史的背景を理解し、近代化の意味とともに、とくに西欧法思想をわたしたちが学ぶ意味をとらえ、一般に目にする西欧中心の法思想史を学ぶきっかけをうる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、学習支援システムで配布するレジュメに基づいて授業を進める。

対面授業ができない場合は、概要について動画・または音声ファイルをシステムにアップする予定。同システムを通じて、授業時間内・また一定の期間質問を受け付ける。次回授業か、学習支援システムで応答する。授業各回のあとで、内容確認のため、オンラインクイズを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	第一章法と権利	近代初期日本への法と権利概念の継受
第三回	際2章自然法の思想	西欧自然法論の概要
第四回	第3章公と知識人	明治期の「市民社会」＝公共圏のありか
第五回	第4章憲法と自治	明治憲法制定期の議会制と自治をめぐる議論
第六回	第5章初期明治憲法理論 第12章天皇機関説事件の法思想	穂積八東・美濃部達吉・上杉慎吉らの法思想
第七回	第6章明治民法学	日本とドイツの法典論争
第八回	第7章刑法理論の対立	初期刑法学以降の旧派と新派の対立と意味
第九回	第8章大正デモクラシー	大正デモクラシーの法・政治思想と初期フェミニズム
第十回	第9章マルクス主義法学	社会法の法思想のはじまりと、思想弾圧
第十一回	第10章国際法と国際政治	第一次大戦後の国際法・政治思想とケルゼン・シュミット
第十二回	第11章国粹主義の法思想	昭和初期の政治基盤の変容と右派法思想
第十三回	第13章総動員体制（新体制）の構築と法思想 第14章戦時体制下の法思想	第二次大戦に突入するころの法思想
第十四回	第15章新憲法体制の法思想	第二次大戦直後の法思想の対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに基づいて予習復習をすること。教科書を利用する場合は、事前に指示した箇所を確認しておくこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016年

【参考書】

教科書にあげられているものの他、西欧法思想史について
森村進編『法思想の水脈』法律文化社、2016年
西村清貴『近代ドイツの法と国制』成文堂、2017年
中山・浅野・松嶋・近藤『法思想史』有斐閣、2019年
西村清貴『法思想史入門』成文堂、2020年
戒能通弘・神原和宏・鈴木康文『法思想史を読み解く』法律文化社、2020年
日本思想史について、山口種臣／福家崇洋編『思想史講義』明治1、大正、戦前昭和篇、ちくま新書、2022年（明治2は2023年刊予定とのこと）。
授業では触れられないかもしれないが、
オリヴァー・リーマン『イスラム哲学への扉』中村廣治郎訳、ちくま学芸文庫、2002年
小嶋祐馬『中国思想史』KKベストセラーズ、2017年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)とオンラインクイズ(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし
学習支援システムが使えるように。またgoogle classroomも使えるように。

【その他の重要事項】

授業で話しきれない部分は、オンデマンドで提供します。必要に応じて視聴してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) This lecture focuses on the modern Japanese legal thoughts and their receptions from foreign legal thoughts as their backgrounds.
(Learning Objectives) To understand origins and backgrounds of modern legal thoughts and their historical importance and reality in Japan.
(Learning activities outside of classroom) Before each lesson participants should read the relevant capitals by themselves.
(Grading Criteria/Policy) Grade evaluation is based on answers to quizzes after each lesson (30%) and term-end reports (70%).

BSP100AB (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

法学入門

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考 (履修条件等)：クラス指定科目 ※法律1年H-K

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

〈概要〉この授業は、これから法律学を学ぶ学生のための入門科目です。「法学入門演習」と同時に履修することを強く推奨します。この授業は、全てのコースに属しています。

〈目的〉この授業は、次の3つのことを目的とします

①歴史的順序に沿って、憲法や民法、刑法など4年間で学ぶ法律学の全体像を概観します。専門的・体系的知識の基礎を習得することを目指します。

②法体系の多様性を学ぶための初歩的トピックを学びます。文化や社会・経済システムなどの多角的視点から法を考える能力を養う第一歩として、トピックを2つ以上の観点から説明できることを目指します。

③条文・判例などの法技術に関する初等的知識を学びます。「法的な問題の妥当な解決」とは何か、具体的な意味を説明できることを目指します。

【到達目標】

・法体系の全体像について、歴史的なプロセスにそって基礎的な説明ができる (DP2)。

・初等的なトピックについて、多角的な観点から法的問題をいちおう説明できる (DP3)。

・法技術的な基礎知識を理解して、法的問題の解決のための道筋をいちおう説明できる (DP1・DP4)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・レジュメ (参考資料・参考文献含む) を配布し、スライドを板書代わりにして説明します。

・原則として対面授業で実施します。ただし、感染症の拡大状況等必要に応じて、オンライン授業を適宜導入することがあります。

・進捗/評価方法は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム (Hoppii) で必要に応じて示します。確認を怠らないようにお願いします。

・第13回のみ、アクティブラーニングの可能性がります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・シラバス、授業の受け方について ・法と強制装置 ・法律学は科学か
第2回	前近代 (1)	・不法行為法・刑事法の源流 ・前近代国制の全体像 ・フェーデと自力救済
第3回	前近代 (2)	・訴訟法の源流 ・裁判の分権性 ・当事者主義と糾問主義の変遷 ・法は命令か契約か

第4回	近代 (1)	・法哲学・法思想史の土壌 ・自然法思想と社会契約 (ロック、ルソー、モンテスキュー) ・デモクラシーと立憲制
第5回	近代 (2)	・近代憲法 (統治機構) の出発点 ・近代的国制の成立 ・「個人」の析出 ・主権の担い手と〈国民〉
第6回	近代 (3)	・人権保障のカタログ ・個人の保護 - 精神的自由、人身の自由 ・経済的自由は人権か
第7回	近代 (4)	・近代民法と経済秩序 ・一物一権主義 ・契約自由の原則
第8回	現代	・社会法による契約自由の修正 ・日本における展開
第9回	レポートの書き方	・要約とは何か ・レポートの目的と書き方
第10回	法の分類	・これまでの復習 (法は命令か契約か) ・実体法と手続法・公法と私法 ・法源論
第11回	法系論と法曹養成	・大陸法と英米法 ・法曹養成の仕組み ・日本における法継受
第12回	紛争解決と法文化	・裁判の仕組み ・法の文化と法意識
第13回	法の解釈	・法「解釈」の手法 ・法的三段論法とIRAC ・答案の「書き方」を考えよう
第14回	法学と社会科学	・自然法思想、概念法学、純粋法学、リアリズム法学 ・社会科学と社会政策にかかわる認識の客観性

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
・事前レジュメの確認や、事後的な小テストの受講、授業中に提示する参考文献の積極的な読書が求められます。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

・緒方桂子ほか『日本の法 [第2版]』日本評論社 (2020年)
・勝田有恒/森征一/山内進編著『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房 (2004年)
・その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回のウェブ小テスト (40点)
・期末レポート (60点)

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料については比較的評価が良かったので、拡充に努めます。
・毎回の授業の参考資料を明記することについて比較的評価が良かったので、今年も継続します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

[授業を受ける姿勢]

・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。

・六法/法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。

・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。

・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

[感染症対策]

・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。

・対面授業においては、感染防止の観点から、マスクの着用を推奨します（義務ではありません）

【Outline (in English)】

Course outline

This class is an introductory course for students who will be studying jurisprudence.

Learning Objectives

It provides students with a systematic understanding of the legal system as a whole.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Web quiz: 40% (to be taken at any given time in class)

Final report: 60% (to confirm class content)

BSP100AB (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

法学入門

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考(履修条件等)：クラス指定科目 ※法律1年A-D

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法学部に入学して初めて法学に触れる受講生に対して、法学という学問への道案内をすることが本講義の目的である。本講義では、法学を学ぶ上で知っておくべき事柄等を取りあげて知識を拡充し、また法的思考の特徴等についての理解を得る。本講義の履修を通じて、様々な法分野の学習に必要な基盤の構築を図る。

法学の勉強は大学に入ってから始まるものという一般的な理解があるが、実はそれに先立つ教育課程において、様々な知識をすでに得ている。それらについて、意味付けを行い、有機的な理解につなげていきたい。

【到達目標】

- ①法とは何かを多角的に説明できる。
- ②裁判制度に関する基本的な概念を説明できる。
- ③法系について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。論点ごとに可能であれば事例や資料を扱うことによって理解を深める。事例の検討等において学生の挙手や発言を求めることがある。積極的な参加を歓迎する。

教場での対面授業を原則としてつつ、数回オンライン授業を実施する可能性を予定している(未定)。オンライン授業を実施する場合、日程や実施方法については授業と学習支援システムHoppii等で周知する。

いずれの授業形式においても、受講者は各授業の受講後にリアクションペーパーを提出されたい。これに基づいて、授業中にフィードバックを行う。またレポート課題を複数課することを予定している。

法曹をゲストスピーカーとして迎えて、実務について学ぶ授業を1回予定している。講義計画の記載の都合上、第8回に記載しているがこれは決定ではなく、講師とのスケジュール調整により授業期間のどこかで実施する。実施予定日は授業等を通じて周知する。対面を予定している。ゲストスピーカーの都合により日程、開催の方法、開催の是非等が変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	法へのアプローチ
第2回	法とは何か(1)	法の形式
第3回	法とは何か(2)	法の機能
第4回	法とは何か(3)	法と強制
第5回	法とは何か(4)	法と道徳
第6回	法とは何か(5)	法と正義
第7回	法と裁判(1)	裁判制度、手続き等
第8回	法と実務	ゲストスピーカーによる講演
第9回	法と裁判(2)	裁判の機能
第10回	法と裁判(3)	裁判過程と法の適用
第11回	法とは何か(6)	法解釈論
第12回	法系と法文化(1)	法系、法学の歴史、日本の法文化
第13回	法系と法文化(2)	法系、法学の歴史、日本の法文化
第14回	学問としての法学	法学の諸分野

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

以下のうちいずれかを用意されたい。初回授業で教科書の紹介をするので、購入はそれ以降で構わない。

本講義では多様な論点を取り上げるので、必ずしも1冊の教科書で講義内容をカバーすることができない。購入した教科書が扱わない論点については、図書館等を利用されたい。

田中成明『法学入門』(有斐閣、第3版、2023年)

五十嵐清『法学入門』(日本評論社、第4版、新装版、2017年)

南野森『ブリッジブック法学入門』(信山社、第3版、2022年)

【参考書】

君塚正臣『法学部生のための選択科目ガイドブック』(ミネルヴァ書房、2011)

澤木敬郎=荒木伸怡=南部篤『ホーンブック法学原理』(北樹出版、第4版、2015年)

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 80%、平常点 20%。

レポート課題は複数回課することを予定している。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からはおおむね好意的な評価を受けた。学生の法学についての理解を促すべく、授業をより充実させていきたい。受講生の意見を受けて、ゲストスピーカーによる講義を継続させたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回条文を確認するので、六法を持参されたい。

学習支援システム(Hoppiii等)を利用することがあるので、インターネット環境と、パソコン、スマートフォン等の機器の準備が必要である。レポート作成に当たって必要な機器へのアクセスも準備されたい。

【Outline (in English)】

(1)Course Outline

This lecture will provide first year law students with guides for studying law. In this lecture, students will expand their knowledge and gain an understanding of the characteristics of legal thinking by taking up concepts and issues that are necessary in studying law. This lecture will help students to build a foundation for studying law subjects further.

Although there is a general understanding that the study of law begins after entering university, in fact, students have already acquired a variety of knowledge in prior education. This lecture makes sense of them and connects them to an organic understanding.

(2)Learning Objectives

Understanding followings:

(a)Characteristics of laws from various perspectives

(b)Basic concepts of the court system

(c)Basic concepts of the legal system

(3)Learning Activities Outside of Classroom

Students are expected to study the textbook and other contents as instructed in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(4)Grading Criteria /Policy

Report assignment: 80%, class participation and others: 20%.

Several report assignments will be given. Students will be asked to submit a reaction paper in each class, which is subject to class participation grade.

LAW100AB (法学 / law 100)

概説刑事法

今井 猛嘉

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N（他学科はクラスの指定なし/他学部は学年・クラスの指定なし）
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各コースに共通の選択必修科目である。法律学科で学ぶ刑事法の分野としては、刑法（総論・各論）のほか、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策などがある。この授業は、これらの各分野を関連付けながら個々の学問領域のおおよその内容と基本的な考え方を紹介するものであり、この授業を終えた学生が興味を持ったそのうちの科目の本格的な勉強に取り組もうとするときに役立つ刑事法入門であるとともに、刑事実用法学を習得する前提として必要となるリベラル・アーツ科目でもある。

【到達目標】

刑事法をめぐるさまざまな社会事象（犯罪現象）について幅広い視点で自分なりに分析検討できるようになることを到達目標とするが、まずは、あまり普段の生活に縁がなく、とかく理屈っぽく、とっつきにくいと思われがちな刑事法への親しみを感じてもらい、理屈っぽい面を面白さを発見したり、犯罪というもののイメージを新たに、刑事法という学問分野を身近に感じてもらうことが第1の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では刑事法の各分野を総合的に紹介するとともに、わが国及び世界の刑事法をめぐるアップ・ツー・デートな問題についても、比較法的な視点を加えつつ幅広くその要点を紹介する。それにより実用法学ないし法解釈学の領域を超えたりベラル・アーツ教育としての色彩が加わることとなるが、このように視野を広げることが法学に本格的に取り組んでいく上で必ず役に立つと思われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要、授業の受け方、教員自己紹介 本論「刑事法とは」
第2回	犯罪とその原因	犯罪原因論、わが国の犯罪現象
第3回	民事責任との違い、 刑罰理論	刑法の機能と目的 応報刑論と目的刑論
第4回	刑罰の種類、刑法学	刑罰と保安処分 わが国の死刑制度 刑法の解釈 第1回レポート提出
第5回	刑法各論	個人的法益の罪（殺人、窃盗、 名誉棄損） 社会的法益の罪 国家的法益の罪
第6回	犯罪論、構成要件	実体法、手続法、処遇法 法的要件と法的効果
第7回	犯罪論、違法性と責任	正当業務行為 正当防衛、緊急避難 責任能力

第8回	故意と過失	故意犯と過失犯 錯誤 第2回レポートの提出
第9回	未遂犯と共犯、刑の量定	正犯と共犯 共同正犯、教唆と幫助 共謀罪 量刑、罪数論
第10回	刑事訴訟法（捜査）	刑事訴訟法の目的 憲法の人権規定と捜査
第11回	刑事訴訟法（公判・上訴・再審）	公訴の提起 公判手続 証拠能力と証明力 確定判決と再審
第12回	各種犯罪の特徴と対策	暴力団犯罪 ホワイトカラー犯罪 高齢者犯罪 ヘイト・スピーチ 第3回レポートの提出
第13回	犯罪者の処遇、少年法	施設内処遇 社会内処遇 非行少年の処遇手続
第14回	比較法	米国刑法 陪審制と裁判員裁判 死刑存廃論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備と復習に要する時間は、各2時間を想定している。授業前の予習として教科書の担当部分を読むこと。分からない用語は法律学辞典で調べるとよい。分からない部分は読み飛ばしても構わない。

授業の理解度は、レポートにて確認する。
質問は、Hoppiiの機能を利用して行う。

【テキスト（教科書）】

令和5年版犯罪白書

<https://www.moj.go.jp/content/001410095.pdf>

最新の六法（出版社は問わない）。

【参考書】

参考図書

ベッカーリア著『犯罪と刑罰』（岩波文庫）

ミル著山崎洋一訳『自由論』（光文社文庫 2006年）

【成績評価の方法と基準】

レポート提出（全体の30%）と期末試験（全体の70%）で評価する。

Report submission (30% of total) and final exam trials (70% of the total).

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドで教材を配布する形式を取る。同様の方法で、これまでも多くの講義を担当したが、学生の皆さんからの質問等は、授業支援システムを通じて提出可能である。

【学生が準備すべき機器他】

連絡事項は、授業支援システムを利用してする。

【その他の重要事項】

刑事立法の動向、国際的な刑事政策の動向についても、随時、触れる予定である。

【Outline (in English)】

In this department of law, you can learn as criminal law in a broad sense Criminal Law, Criminal Procedure, Criminology, Criminal Justice Policy. This is an introducing subject of Japanese criminal law in a broad sense.

The time required for the preparation and review of this class is assumed to be 2 hours each.

Attendance score (20% of total). Report submission (20% of total) and final exam trials (60% of the total).

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際政治学入門

大野 知之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻や中国の台頭などによって第二次世界大戦後の国際秩序が大きく動揺していると言われます。今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。この科目は3つのパートで構成されています。まず前半部は国際政治学の基本的な概念や基礎理論について学びます。その後、中間部では国際政治学の代表的なテーマについて前半部で学んだことを踏まえながら考えます。そして、後半部では、昨今の国際情勢についてこれまでの議論を踏まえながら考えます。また授業では、定期的リアクションペーパーを提出してもらい、授業期間中に1回小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学入門の入門	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	アナキーとは何か？	国際政治の最も基本的な概念の一つであるアナキーについて考えます。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論のうち、リアリズムと呼ばれる理論について扱います。
4	リベラリズム	リベラリズムと呼ばれる国際政治理論について、経済的相互依存、国際制度、民主主義の3つの柱という観点から考えます。
5	国際政治における価値の役割	国際社会における規範の形成を中心に国際政治における価値の役割を考えます。
6	対外政策決定過程	外交政策はどのように決定されるのか？ 政策決定の理論のうち、アリソンモデルとパットナムの2層ゲームモデルを中心に考えます。
7	安全保障	安全保障について、同盟と抑止の2つの概念を取り上げて議論します。

8	国際政治経済	国際経済の政治的側面について、前半部で扱ったリアリズムとリベラリズムの視点から考えます。
9	国際機構の役割	国際連合を中心に国際機構の機能と役割について考えます。
10	戦後日本外交の展開	現在の日本外交について議論する際に欠かせない、戦後日本外交の歴史的展開について概観します。
11	冷戦後の東アジア国際関係	冷戦後の東アジアの国際政治について、朝鮮半島情勢と中国の台頭の2つを中心に検討します。
12	国境を超えた人の移動を取り巻く問題	難民や移民などの人の移動をめぐる問題が各国の内政と対外政策にどのような影響を与えているのか考察します。
13	理論からみた現代の国際紛争	合理的選択論など近年、日本でも取り上げられるようになってきた理論を中心にウクライナや中東での戦争について検討します。
14	学習のまとめ	半期の学習を振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細な文献リストは講義内で紹介します。

○国際政治学の入門書・教科書

・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）

・佐渡友哲、信夫隆司、柑本英雄著『国際関係論（第3版）』（弘文堂 2018年）

・草野大希、小川裕子、藤田泰昌『国際関係論入門』（ミネルヴァ書房 2023年）

・宮岡勲『入門講義 安全保障論（第2版）』（慶應義塾大学出版会 2023年）

○国際政治史・外交史

国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史、外交史の知識が役立ちます。参考文献としては、下記のを挙げておきます。

・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ』（有斐閣 2018年）

・添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』（慶應義塾大学出版会 2023年）

・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

【成績評価の方法と基準】

授業中に1回小テストを行います。（30%）

また最後に学期末試験を行います。（70%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics / international relations. The impact of Russian aggression against Ukraine and the rise of china is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際政治の理論と現実

川名 晋史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際政治を捉える基本的な理論枠組であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムについて考察していく。そしてそれらを第二次世界大戦後の具体的な事象の説明に適用し、理論の射程と限界を明らかにすることで、国際政治の構造と多元性を炙り出そうとする。そのねらいは、第一に、複雑な国際政治を理解するための相対的な視点を養うことにあり、第二に、理論と実際の反復作業をつうじて、応用範囲の広い問題解決型の思考を形成することにある。

【到達目標】

本講義を履修することで次の能力を修得する。1) 個別の国際政治現象を、一般的な国際関係理論の枠組みを用いて理解できるようになる。2) 理論と実際の相互作用を意識することで、国際関係に対するバランス感覚を養うとともに、個別の問題解決のための手立てを得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義を中心に進める。状況次第では、少人数グループと教員との間のディスカッション・セッションを設ける。詳細は、学習支援システムを通じて告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	現代の国際政治を理解するために理論を学ぶ意義を理解する。
2	社会科学のなかの国際政治学	国際政治学は「科学」か。その目的を理解する。
3	リアリズム—自然状態とアナーキー、クラシカルリアリズム	リアリズムの思想的基盤と初期のリアリズムの特徴を理解する。
4	リアリズム—ネオリアリズム	合理的アクターたる国家が織りなす国際政治力学を理解する。
5	リアリズム—ネオクラシカルリアリズム、リアリスト・コンストラクティビズム	国際政治と国内政治の再接近を理解する。
6	リベラリズム—自然調和	リベラリズムの思想的基盤を理解する。
7	リベラリズム—相互依存とレジーム	リベラリズムの新潮流と70年代国際関係の諸相を理解する。
8	リベラリズム—制度とネオ・リベラリズム	「原因」としての制度とはなにか。ゲーム理論の援用とともに理解する。
9	コンストラクティビズム—合理主義の陥穽	主要理論はなぜ冷戦の終結を予見できなかったか。その陥穽を理解する。
10	コンストラクティビズム—間主観性、規範、適切性の論理	国際関係を規定する非物質的な要因とはなにか。理論の新展開を理解する。
11	応用—対外政策決定論①	キューバ危機の事例を用い、国際政治理論の妥当性を考察する。

12	応用—対外政策決定論②	同盟の形成と運用を手がかりに、国際政治理論の妥当性を考える。
13	応用—対外政策決定論③	米国の海外基地政策と国際政治理論の平仄を考える。
14	総括	国際政治学の理論は「現実」と、どう折り合いをつけるのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持ったトピックについて、新聞記事や図書で関連用語を調べてください。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

以下を購入する義務はないが、要すれば適宜参照されたい。

・川名晋史『在日米軍基地—米軍と国連軍、「2つの顔」の80年史』（中公新書、2024年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題（100%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】**【Outline (in English)】**

In this course, we will consider Realism, Liberalism and Constructivism, which are the basic theoretical frameworks that understand international relations. Then, by applying them to the explanation of specific events after World War II, clarifying the range and the limit of the theory. Through it we try to understand the structure and pluralism of international relations. Its objective is to cultivate relative and problem-solving thinking to understand complex international relations.

BSP100AC (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

政治学入門 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目は政治について考えるための「ものの見方」を身につけ、社会を自由でありながらまとまりのある空間として作っていく政治の働きを考えることを目的とします。

【到達目標】

高校での「政治経済」や「世界史」、「日本史」の授業で学んだことと、政治学の専門科目との橋渡しをすることをめざします。また、市民として政治とどのように関わるべきかを考える材料を身につけることもめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。

授業についてのコメント・疑問・意見などがあればHOPPIIにアップしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	政治学への道案内	政治と政治学 ーどっちも politicsなのに・・・
2	政治が生まれるとき	社会にはなぜ政治が生まれるのか？
3	人間と社会の関係を考える	個々人の利害と社会全体の利害
4	所与としての社会	政治に無自覚な人間
5	伝統と自然	秩序の正統化1
6	作為される社会	社会を作る人間
7	自然法と実定法	秩序の正統化2
8	国民主権と議会主義	議会主義とデモクラシー
9	社会生活と政治	政治は「在る」のか「現われてくる」のか
10	権力と公共性1	個人の政治への関わり方
11	権力と公共性2	個人の政治への関わり方
12	友愛と友敵1	協調としての政治
13	友愛と友敵2	対立としての政治
14	政治と非政治	政治の可能性と政治の限界を考える

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習：講義の内容に関連する新聞雑誌記事、授業中に紹介した著作・映画・テレビ番組などを読み、見て、政治について考える練習をしてみてください。

一回の授業につき4時間の学習を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

【学生の意見等からの気づき】

政治学と現実の政治の結びつきを説明し、学生の知的好奇心を刺激したい。

【Outline (in English)】

This course aims to have your own perspective of politics by acquiring basic conceptions and knowledge about it.

2 Obligation

Students are required to read assigned articles after the lecture, and try to adapt various concepts and tools explained in the lecture to actual politics.

3 Grading

Grading will be based on term-end examination(100%).

BSP100AC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

政治学入門Ⅱ

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後日本の政党政治と政策を、「55年体制」期を中心に、戦後から安倍政権まで概観する。

【到達目標】

戦後日本政治の特徴と変化について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く
関連。**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行う。質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民主化	憲法制定、農地解放などの戦後 占領改革など
第2回	逆コース	政治家田中角栄誕生 東西冷戦下での保守支配体制の 確立
第3回	55年体制の形成	左右社会党の統一と保守合同
第4回	自由民主党	派閥と保守本流 田中角栄の台頭
第5回	日本社会党：抵抗政 党への道	護憲平和主義とマルクス主義
第6回	高度経済成長の政治	生産第一主義、所得倍増、補助 金行政、過疎化、公害 利益誘導・田中型政治
第7回	日本型福祉社会	保守支配体制の危機から日本型 福祉社会へ
第8回	行政改革の時代	田中角栄の指導力 福祉見直しと民営化 田中角栄の影
第9回	日本社会党の現実主 義化	マルクス主義との訣別
第10回	政治改革の時代	自民党単独支配体制の終焉と政 党再編
第11回	新自由主義的改革	労働市場の規制緩和、少子高齢 化と女性の労働緑化、
第12回	二大政党制の夢	民主党の政権党としての失敗 大衆迎合の政治
第13回	小泉構造改革からア ベノミクスへ	自公連立政権とは何か 新自由主義から新国家主義へ
第14回	フィードバック	これまでの授業について簡単に まとめ、全体に関する質疑応答 を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】授業前にアップロードされる教材に事前に目を通し、講義の後はわ
からない点や疑問点について調べ、ノートをまとめる。
本授業の準備・復習時間は、各々二時間を標準とします。**【テキスト（教科書）】**

石川真澄・山口二郎『戦後政治史 第四版』岩波新書

【参考書】中北浩爾『自公政権とは何か』ちくま新書
新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』ミネルヴァ書房。**【成績評価の方法と基準】**

平常点と筆記試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義の最後に質問時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】This course surveys party politics and policy development in
Postwar Japan.

POL200AD (政治学 / Politics 200)

国際協力講座

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】

- ・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。
- ・国際協力分野の実態と課題について知る。
- ・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ゲストスピーカーによる講義と学生からの質疑応答で授業を構成する。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出を求める。
 ゲストスピーカーの予定によってシラバスに変更が生じる場合がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第2回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第3回	持続可能な開発のための2030アジェンダとSustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第4回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助 (ODA)	ODAの実務家による講義と質疑応答
第5回	国際協力機構 (JICA) の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第6回	国際協力機構 (JICA) の緊急援助活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第7回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第8回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第9回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第10回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答

第11回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第12回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第13回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第14回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし。レジュメ、資料を適宜Hoppii上で配布する。

【参考書】

- ・山田満ほか編著『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』(第3版) 明石書店、2023年
- ・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
- ・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
- ・蟹江憲史『SDGs (持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
- ・勝間靖 (編)『持続可能な地球社会をめざしてわたしのSDGsへの取り組み』国際書院、2018年
- ・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第3版』有斐閣選書、2016年
- ・浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年
- ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
- ・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】

質疑応答への積極的な参加などの平常点 (30%)、課題の提出状況と内容 (70%) から総合的に判断する。

* 遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。

* 4回以上課題未提出の場合は単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

日々国際社会で起る出来事に関心を持ち、関連文献を積極的に読んだり、セミナーや講演会への参加が望ましい。随時、必要に応じて紹介する。

【担当教員の専門分野】

- <専門領域>
 国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
- <研究テーマ>
 国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
- <主要研究業績>

主な著書として、『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）（明石書店、2023年）；『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）、『国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して』『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、『平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して』『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、『国連による経済制裁と人道上の諸問題：「スマート・サンクション」の模索』（国際書院、2013年）、『北東アジアの「永い平和」：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012年）、『『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," COVID-19 and Atrocity Prevention in East Asia(Routledge, 2023);"Smart Sanctions' by United Nations and Financial Sanctions," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020),"Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating'universal'norms and values on the local,"Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), "The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874," East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline (in English)】

This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

中東の政治と社会 I

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中東イスラーム世界の宗教と国家の歴史的展開に関する基本的知識を身につけることを目的とする。同時に、第一次大戦後の中東世界の政治を考えることに必要な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。
中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。
中東地域と他の地域 (特にヨーロッパ) との関係についての理解。
国際政治学や比較政治に関する基本的な知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To understand the relationship between the Middle East and other regions (especially Europe)

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。
交通事情や天候その他の理由でオンライン (Zoom) のみの授業になる時があります。
ただし初回はオンラインのみで授業を行います。
授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	古代末期文明	古代末期文明における宗教
#3	疫病、国家、宗教	ユスティアヌスのペスト
#4	イスラームの出現	古代末期文明とイスラームの出現
#5	初期イスラームとペスト	ペスト/疫病に対するイスラームの原則
#6	イスラームの確立	スンナ派とシーア派
#7	聖戦と正戦	宗教と戦争
#8	黒死病とその後	中東と西ヨーロッパのペストに対する対応の比較
#9	中東の火薬帝国	オスマン朝とサファヴィー朝
#10	預言者の医学	イスラームと医学の関係
#11	国家と疫病	疫病対策に関するオスマン帝国とヨーロッパ諸国の相違
#12	エジプトの近代化	ムハンマド・アリー登場以降のエジプト
#13	オスマン帝国の近代化	オスマン帝国の近代化とヨーロッパ外交
#14	第一次世界大戦へ	講義のまとめと第一次世界大戦後の中東世界の展望

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。
新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト (教科書)】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。
小レポート20%、期末レポート80%
出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

Final grade will be calculated according to short reports and term-end report.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。
必要であれば個別にZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』(ちくま新書、2019年)を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with political and religious history of the Middle East from roughly 600 to 1914. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

中東の政治と社会 II

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の基本的知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域の関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	第一次世界大戦と中東世界	イスラーム帝国の解体と国民国家の登場
#3	アラブ・ナショナリズム	アラブ・ナショナリズムの思想・運動と第一次中東戦争
#4	ナセルのエジプト	ナセル時代のエジプトとアラブ世界
#5	ナセル後のエジプト	エジプトの権威主義体制の特徴
#6	イスラームと政治	エジプトのムスリム同胞団とアラブの春
#7	シリア	シリアのバアス党体制
#8	イラク	イラクのバアス党体制とその後
#9	サラフィー主義	サラフィー主義の思想・運動
#10	USと中東	UAの中東政策
#11	湾岸諸国	ガルフ資本主義と湾岸地域国際政治
#12	イラン	革命国家イランと地域国際政治
#13	パレスチナ問題	パレスチナとイスラエル
#14	Outro.	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

講義形式で行う。

対面授業は最低7回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

小レポート 20%、期末レポート 80%

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もありません。

Final grade will be calculated according to short reports and term-end report.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であればZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with domestic and regional politics in the Middle East

since WW II. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the

relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens

through which politics and public affairs can be viewed.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

中国の政治と社会 I

熊倉 潤

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、中国政治の基礎について学ぶ。本学は、党、国家、解放軍、法治、中央・地方関係に焦点をあてる。授業を通じて、中国政治についての基礎的な理解を養うことを目的とする。

【到達目標】

この授業を通じて、中国政治についての基礎的な理解を養い、今後中国に関するニュースに接した時に自己の見解を持てるようにすること、また将来中国への赴任など中国と関わる機会を想定し、現代中国政治の概要を説明できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業形式は、ひとまず対面授業を想定している。

基本的に講義形式で進めるが、毎回の授業の冒頭で学生数人によるニュース報告の時間を設ける。ニュース報告では、学生が主体的に選んだ中国関連のニュースについて、概要をとりまとめうえで、自己の見解を発表し、その後質疑応答、教員のコメントを受ける (別途オフィス・アワーの時間に講評を受けることもできる)。原則として1学期に1回、ニュース報告を担当することが望ましい。授業後には教科書・参考書をよく読んで、学期末レポートの作成を準備する必要がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	本授業概要、講義予定、参考文献ほか
第2回	中国とは何か	「中国」の由来ほか概観
第3回	中国共産党 (1)	党・国家体制
第4回	中国共産党 (2)	党内統治と党の組織
第5回	国家機構 (1)	国家主席と党主席
第6回	国家機構 (2)	立法機関、行政機関
第7回	国家機構 (3)	司法機関、諮問機関
第8回	中国人民解放軍 (1)	党軍関係、軍の組織機構
第9回	中国人民解放軍 (2)	核兵器、通常兵器、宇宙、サイバー
第10回	法制度と法治 (1)	憲法・法体系と立法過程
第11回	法制度と法治 (2)	裁判制度と信訪制度
第12回	中央地方関係	地方行政制度
第13回	民族統治	民族区域自治制度
第14回	期末試験	試験・まとめ解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習としては、教科書をよく読んで、地域についての理解を深める。また報告担当者はニュース報告を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

川島真、小嶋華津子編著『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年。

【参考書】

授業で適宜参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ニュース報告 (20%) および期末試験 (80%)

【学生の意見等からの気づき】

中国のインターネットサイトを多く紹介するようにしている

【学生が準備すべき機器他】

対面教室授業が実施できない場合のオンライン授業に備えるべく、Wi-Fi環境等の準備を進めておくこと。

【その他の重要事項】

本講義参加に際しては、中国現代史に関する基礎知識があることが望ましいが、必ずしも必須のものではない。なお、「中国の政治と社会 I」を受講しようとするものは、「中国の政治と社会 II」も併せて受講すること。

【Outline (in English)】

In this course, we will study the basics of Chinese politics. Especially we will focus on the party, state, army (PLA), rule of law, and the central-periphery relations. Our goal is to deepen understandings of the politics of China.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

中国の政治と外交 I

福田 円

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近現代中国の政治外交史についての基礎知識を付けた上で、現在の中国政治外交における種々の論点についての理解を深めることを目指す。国際社会において存在感を増す中国の外交について理解することで、アジアの国際関係やグローバルガバナンスについての専門知識がより深まることも期待される。

【到達目標】

近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国政治外交における個別の論点について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

今日の中国外交を理解するうえで、中華人民共和国成立以前や毛沢東時代、鄧小平時代の政治外交史の基礎知識は不可欠である。そのため、本授業「中国の政治と外交 I」は近現代中国の政治外交史に関する講義を中心とする。近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国外交における個別の論点について議論できるように、今日の中国外交をめぐる論点に関連する事柄に重点を置きながら授業を進める。

そのうえで、「中国の政治と外交 II」では、今日の中国外交に関わるアクターと政策決定の基本構造とその変遷について学び、各論点について考え、議論する。また、授業で提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか代表例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行うことも心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要、参考文献などの説明
第2回	近代中国の政治と外交（1）	東アジアの「伝統的」な国際秩序と列強の中国進出
第3回	近代中国の政治と外交（2）	日中戦争と国共内戦
第4回	毛沢東時代の政治と外交（1）	中華人民共和国の成立：社会主義建設と冷戦の進展
第5回	毛沢東時代の政治と外交（2）	「一辺倒」政策、脱植民地化、米国による封じ込め
第6回	毛沢東時代の政治と外交（3）	中ソ対立と文化大革命
第7回	毛沢東時代から鄧小平時代へ	西側諸国との関係改善と対外開放
第8回	鄧小平時代の政治と外交（1）	改革開放、全方位外交、政治体制改革の試み
第9回	鄧小平時代の政治と外交（2）	冷戦終結と天安門事件
第10回	鄧小平時代の政治と外交（3）	社会主義市場経済の発展と香港返還
第11回	江沢民政権期の政治と外交	市場経済の浸透と課題、東アジア地域主義の興隆、パートナーシップ外交
第12回	胡錦濤政権期の政治と外交	中国の大国化と「韜光養晦」の修正

第13回 習近平政権の政治と 集権化と「中国の夢」
外交

第14回 授業のまとめ 歴史から見る現代中国外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定する参考書の該当ページや配布資料を読んだうえで、次の授業に臨んで欲しい。課題として、文献や授業内容に関するミニ・レポートを提出してもらうこともある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島真・小嶋華津子編『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年

【参考書】

森聡・福田円編『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年

中村元哉・森川裕貴・関智英・家永真幸『概説 中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022年

川島真・小嶋華津子編『習近平の中国』東京大学出版会、2022年
 益尾知佐子・青山瑠妙・三船恵美・趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017年

中國和仁『中国がつくる国際秩序』ミネルヴァ書房、2013年
 福田円『中国外交と台湾ー「一つの中国」原則の起源』慶應義塾大学出版会、2013年

家近亮子、松田康博、唐亮編『5分野から読み解く現代中国（改訂版）ー歴史・政治・経済・社会・外交』晃洋書房、2009年

川島真・毛利和子『グローバル中国への道程ー外交150年』岩波書店、2009年

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年
 岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点が30%、最終試験（あるいはレポート）が70%で成績評価する。また、授業内で報告やディスカッションを行う場合は、それらを通じたクラスへの貢献度に関しても評価（加点）する。授業の方法やスケジュールに変更が生じる場合には、授業支援システムを通じて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業におけるテキストや参考書の活用方法を工夫する。授業時間における講義と議論のバランスを取り、時間に余裕を持った授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは水曜3限なので、この時間に個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡すること。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledge about the history of Chinese politics and international relations in 20th century, and to deepen understanding of current issues of China's diplomacy.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

中国の政治と外交 II

福田 円

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近現代中国の政治外交史についての基礎知識を付けた上で、現在の中国政治外交における種々の論点についての理解を深め、議論することを目指す。国際社会においても存在感を増す中国の外交について理解することで、アジアの国際関係やグローバルガバナンスについての専門知識がより深まることも期待される。

【到達目標】

近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国外交における個別の論点について議論できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は「中国の政治と外交 I」を履修していることを前提に行われる。「中国の政治と外交 I」では、近現代中国の政治外交史に関する講義を行った。この授業では、今日の中国外交を理解するために、中国外交に関わる政策決定の基本構造とその変遷に関する講義を行った後、近年注目を集めている様々な論点について授業を行う。この部分では履修者による報告やディスカッションを取り入れる予定なので、積極的な参加が期待される。議論を行う部分では、提出されたアクションペーパーや課題からいくつか代表例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「大国」としての中国外交
第2回	中国の政治体制と外交	中国共産党の執政体制と外交はどのように関係しているか
第3回	中国外交の基本方針	中国外交の基本方針はどのように変化してきたか
第4回	中国外交の決定過程	中国の外交政策は誰が決定しているか
第5回	中国政治外交と軍事力	中国の政治外交において軍はどのように関わっているか
第6回	米国との関係	対立と共存の大国関係
第7回	中国の「核心的利益」	チベット、ウイグル、香港をめぐる中国と国際社会
第8回	台湾との関係	「一つの中国」原則をめぐるポリテイクス
第9回	中国とインド太平洋	中国と周辺諸国の関係
第10回	中国とグローバルサウス	中国と発展途上地域の関係
第11回	中国と国際機関	国際機関での影響力発揮
第12回	中国外交のイメージ	ソフトパワーと戦狼外交
第13回	日本との関係	「友好」関係から「戦略的」関係へ
第14回	中国外交の未来	中国外交の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定するテキストの該当ページや配布資料を読んだうえで、次の授業に臨んで欲しい。課題として、文献に関するミニ・レポートを提出してもらうこともある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各回のテーマにあわせて適宜指定するので、必ずその授業回の前に読んでおくこと。

【参考書】

森聡・福田円編『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年
加茂具樹編『中国はどのように力を使うのか—「大国」としての中国—』一藝社、2022年
川島真・小嶋華津子編著『習近平の中国』東京大学出版会、2022年
川島真・遠藤貢・高原明生・松田康博編『中国の外交戦略と世界秩序—理念・政策・現地の視線』昭和堂、2020年
川島真・小嶋華津子『よくわかる中国政治』ミネルヴァ書房、2020年
益尾知佐子『中国の行動原理』中公新書、2019年
阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』新潮選書、2017年
岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年

【成績評価の方法と基準】

授業中に出席する課題（50%）および期末試験の結果（50%）によって評価する。授業中に出席する課題については、遅れての提出や代替するレポート提出などを認めない。また、授業内で報告やディスカッションを行う場合は、それらを通じたクラスへの貢献度に関しても評価（加点）する。

【学生の意見等からの気づき】

授業におけるテキストや参考書の活用方法を工夫する。授業時間における講義と議論のバランスを取り、時間に余裕を持った授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは水曜3限なので、この時間に個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡をすること。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledge about the history of Chinese politics and international relations in 20th century, and to deepen understanding of current issues of China's diplomacy.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】

朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第2回	朝鮮半島の分断	38度線の由来 分断の状況、分断の責任
第3回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第4回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第5回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第6回	4・19学生革命と5・16軍事クーデター	4・19学生革命と5・16軍事クーデターを解説
第7回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第8回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第9回	全斗煥政権	1979-88年
第10回	民主化運動とその実現	1987年新憲法成立
第11回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第12回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第13回	李明博、朴槿恵、文在寅、尹錫悦政権	その政策を中心に
第14回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考書や映像 (Youtube、映画、ドラマなど) を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト (教科書)】

開講時に開示する

【参考書】

1. 孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年
2. ドン・オーバードーフアー、ロバート・カーリン『二つのコリア (第三版) —国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2015年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (20%)、課題 (0~20%)、試験 (60~80%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the post-war political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course is to help students understand the political system and it situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】

南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第2回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、敵対国家論
第3回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第4回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第5回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第6回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第7回	韓国の経済制度1	財閥、不動産
第8回	韓国の経済制度2	税金、福祉、雇用
第9回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第10回	教育制度	受験戦争、就職難
第11回	韓国の社会問題1	地域対立、格差問題
第12回	韓国の社会問題2	女性関連
第13回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第14回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

1. 孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年
2. ドン・オーバードーフアー、ロバート・カーリン『二つのコリア [第三版] —国際政治の中の朝鮮半島—』共同通信社、2015年

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、課題（0～20%）、試験（60～80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

台湾の政治と社会 I

塚本 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1945年から現在に至るまで台湾は「中華民国政府」の実効支配下にある。1950年代から80年代に至るまでその統治は「権威主義体制」（リンズ）であった。この台湾における権威主義体制の在り方を解き明かすことを目指す。

【到達目標】

台湾という政治社会の在り方を、「権威主義体制」という角度から明らかにする。同時に世界各地に存在した、また存在する「権威主義体制」を理解していく足掛かりを見出す。

The goal of this course is to reflect the transition process: Taiwan has changed changed from "Authoritarian Regime" to democracy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前年度のリアクションペーパーを参考に授業中に講評する。授業中口頭で、授業外にメールで学生からの質問うけ回答する。

春学期の全期間リアルタイムのオンラインで授業を基本とする。具体的には学習支援システムでその都度提示する。変更ある場合にも学習支援システムで提示する。

「権威主義体制」は世界各地に存在するが、台湾における権威主義体制は以下のような特徴を持つ。中華民国政府・国民党とともに1949年前後に中国本土から台湾に移り住んできた少数派の「外省人」が1945年以前から台湾に居住する圧倒的多数を占める「本省人」に対し政治的優位に立つ外部支配の性格を持つ。エスニシティ（ethnicity）の問題がある。国共内戦が1950年以降東西冷戦と結合した、分裂国家であり、内戦体制を維持していた。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	台湾とは	地理的台湾と政治的台湾
第2回	分裂国家台湾	正統な中国中央政府と自己主張する中華民国政府の立場と台湾に限定される実効支配という現実の乖離・分裂
第3回	歴史的背景	先住民の生活、鄭氏政権、清朝支配
第4回	日本植民地	初期の武力鎮圧、「漢人」「先住民」、日本化、産業インフラの整備
第5回	中華民国への編入	第二次大戦における日本の敗戦、カイロ会談
第6回	二二八事件1947年	劣悪な中華民国統治、自然発生的暴動、弾圧、多数の死者
第7回	省籍矛盾	少数の「外省人」による圧倒的多数の「本省人」への政治的優位
第8回	「農地改革」と「公営企業」の払い下げ	農民への利益の配分、本省人上層との連合
第9回	東西冷戦と中国国共内戦の結合	アメリカによる「中華民国政府」への支援、朝鮮戦争（1950～53）

第10回	台湾式の「権威主義体制」①	内戦体制、「法統」、「万年国会」、長期戒厳令、国民党の大きな役割、アメリカという「外部正統性」、ストロングマン蒋介石・蒋経国父子
第11回	台湾式の「権威主義体制」②	「地方政治エリート」の存在、地方公職選挙の定期実施、地方派閥の存在。選挙クライアンティズム（恩顧・庇護関係）。無所属（党外）の存在、アメリカの影響（民主主義のウィンドー）
第12回	「大陸反攻」の挫折	1950年代の中国沿岸島嶼をめぐる武力衝突、1958年金門島砲撃事件
第13回	アメリカの台湾支持の限定性	中国内戦には関与せず、「中国包囲網」の拠点台湾
第14回	1960年代経済開発への志向	アメリカの政策変化、暴力的性格の減少

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献・書籍・マスメディア・インターネット等で現代台湾政治に関する知識を収集すること。前記につき授業期間全体で10時間程度行うことが望ましい。

Students will be expected to get the knowledge about the Politics of modern Taiwan by many kinds of information.

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない

【参考書】

野嶋剛『台湾とは何か』（ちくま新書、2016年）860円。

【成績評価の方法と基準】

基本的にオンラインでの開講となったことにともない、学習支援システムを通じてのレポート提出となる可能性が高い。詳しくは学習支援システムを通して連絡する。

Grading will be decided based on term-end paper (85%) ,and in-class contribution (15%) .

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The regime of "The Republic of China" on Taiwan from 1945 till 1980s was "Authoritarian Regime". The class indicate the characteristics of Authoritarian Regime on Taiwan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

台湾の政治と社会 II

塚本 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

台湾における「権威主義体制」が1980年代から90年代にかけて「民主化」していく過程を明らかにする。そして、「ボリアーキー」としての民主主義が定着していく過程も射程にいれる。

【到達目標】

台湾における民主化過程を明らかにするとともに、世界各地における民主化とその定着の過程を明らかにする足掛かりとする。

The goal of this course is to reflect the transition process : Taiwan has changed from "Authoritarian Regime " to democracy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前年度のリアクションペーパーを参考に授業中に講評する。授業中口頭で、授業外にメールで学生からの質問を受け、これに回答する。秋学期の全期間リアルタイムのオンライン授業を基本とする。具体的には学習支援システムで提示する。変更がある場合に学習支援システムで提示する。

1970年代以降台湾はアメリカ・日本などの主要国との外交関係を失い、国際的な孤立に直面する。分裂国家中国の片割れとして特殊な状況の中で台湾は民主化の過程を歩むことになった。そして、民主化過程は、「本土化 (台湾化)」=民主化という形で、エスニシティの問題と密接に関係することになる。すなわち、民主化の結果、住民の大多数を占める本省人が政権の主導権をにぎることになった。そして、「外省人」対「本省人」との対立の図式に代わって、「閩南」・「客家」・「先住民」・「外省人」という「四大エスニシティ」の図式が立ち現われてきた。このようなエスニシティを前提とした民主主義政治が展開されることになる。また、80年代までの台湾の権威主義体制が「国共内戦」によって正当化されたことから、民主化は同時に脱内戦化を意味する。台湾における民主化を可能にした前提条件は、その経済成長であった。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	蔣経国改革	対外的危機の到来、1970年代の蔣経国による体制手直し：個別的本省人の登用 (李登輝を含む)、国会の部分改選
第2回	「党外勢力」の形成	70年代地方選挙で「党外」は無視できない議席を獲得
第3回	「高雄事件」(1979年)	対米断交という決定的対外的危機、体制・「党外勢力」ともに危機感、高雄市における武力弾圧
第4回	「民主化」過程の開始・体制の強硬な弾圧路線の失敗	高雄事件弁護団の活躍、アメリカの圧力による裁判の公開、被告への重刑、翌年以降の選挙での高雄事件関係者の当選、体制及びその周辺によるテロ事件への批判

第5回	社会運動の展開	非政治的な様々な社会運動の展開：高度経済成長による諸矛盾への抗議。民主化運動への新たな人材の供給
第6回	制度的な民主化の具体化 (80年代後半)	民主化の実行か・再度強硬な弾圧かの二社択一が権威主義体制に迫られる 「ストロングマン」蔣経国は民主化を選択、自由化の先行：野党民進党結成・長期戒厳令解除・マスコミへの規制の撤廃・独立や二二八事件を含む「タブーの解消」
第7回	初めての本省人総統 李登輝の就任	1988年就任時には極めて脆弱な権力基盤、特に国民党内
第8回	「静かな革命」	李登輝その他の国民党本省人と野党民進党との暗黙の共闘、台湾における「一個半の党主席」
第9回	国民党内での権力闘争	「二月政争」：李登輝が自前の総統に就任。国民党主席としての権力 (総統より、ある意味で強力)
第10回	憲政改革：政治参加の問題の解決	民主化の決定的転換点、憲法の実質改正 (形式的には、増修条文の付加という部分改正)、内戦体制の法廷解消 (反乱鎮定動員時期の終結、同臨時条項の廃止)、対中国本土関係の破綻防止のため「国家統一綱領」の制定
第11回	一連の「出発選挙」	1991年「国民大会選挙」(台湾のみ、全員改選)、1992年「立法委員選挙」(実質的国会) 全員改選
第12回	初めての総統直接選挙1996年	国民党候補李登輝の圧勝、第三次台湾海峡危機と呼ばれる中国からの政治的・軍事的圧力
第13回	両義的な中国との関係	「台湾統一」を目指す中華人民共和国政府・台湾の中国への経済的依存関係の深化・台湾 (「中華民国」としての独自性、台湾にとつての狭い選択肢
第14回	民主化の定着？	国民党から民進党への政権交代 (2000年陳水扁総統)、民進党から国民党への政権交代 (馬英九総統)、再度の政権交代 (民進党、蔡英文総統、議会多数)、地方選挙の重要性

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献・書籍・マスメディア・インターネット等で現代台湾政治に関する知識を収集すること。前記につき授業全体で10時間程度行うことが望ましい。

Student will be expected to get the knowledge about modern Taiwan by many kinds of information.

【テキスト (教科書)】

特に指定はしない

【参考書】

野嶋剛『台湾とは何か』(ちくま新書、2016年) 860円

【成績評価の方法と基準】

基本的にオンラインでの開講となったことに伴い、学習支援システムを通じてのレポート提出となる可能性が高い。詳しくは学習支援システムを通じて連絡する。

Grading will be decided based on term-end paper (85%) ,and in-class contribution (15%) .

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

。

【Outline (in English)】

The regime of "the Republic of China" on Taiwan has changed from "Authoritarian Regime" to democracy(Polyarcy) " in 1980s and 1990s.The class reflect this transition process.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

ロシアの政治と外交 I

溝口 修平

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、20世紀以降のソ連・ロシア外交の展開を概観し、ソ連・ロシアが国際社会にどのような影響を及ぼしてきたかを検討します。前期の授業では、ロシア帝国末期からソ連崩壊に至るまでの時期を扱います。

この講義を通じて、受講者は、ソ連とロシアの外交政策がどのような変遷を辿ってきたかを理解するだけでなく、(超) 大国であるソ連・ロシアの外交が国際社会にどのような影響を与えたのかを理解することを目指します。

【到達目標】

1. ソ連がどのような国際環境を持ち、その中でどのような外交政策を行ってきたか、20世紀を通じたソ連・ロシア外交の変遷を説明できる。

2. ソ連・ロシア外交の変遷が、国際社会のあり方に対しどのような影響を及ぼしてきたかを理解し、国際社会の中でソ連・ロシアの立場の変遷を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使って講義形式で行います。パワーポイントは授業前日までに学習支援システムにアップするので、各自でダウンロードしてください。また、毎回質疑応答の時間も設けます。リアクションペーパーで提起された質問は翌週の授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画、参考文献リストの配布、ロシアの概要
2	第一次世界大戦とロシア革命	20世紀初頭の帝政ロシアの外交政策とロシア革命について
3	ソ連の成立と戦間期	ソ連という新生国家の誕生を国際社会はどのように受け止めたか
4	第二次世界大戦	第二次世界大戦においてソ連はどのような役割を果たしたのか
5	冷戦の起源 (1)	なぜソ連は冷戦を始めたのか。欧州の文脈から考える
6	冷戦の起源 (2)	なぜソ連は冷戦を始めたのか。アジアの文脈から考える
7	冷戦のグローバル化と緊張緩和	スターリンの死によって、ソ連の冷戦戦略や第三世界に対する政策がどのように変化したか
8	危機の時代	スエズ危機、ベルリン危機、キューバ危機などはなぜ起こったのか
9	デタント	なぜソ連は西側陣営との関係改善に乗り出したか。なぜ東側陣営内で対立が生まれたか
10	新冷戦	なぜデタントは崩壊し、米ソの軍拡競争が再燃したか

11	冷戦終結 (1)	冷戦はヨーロッパでいかに終わったか
12	冷戦終結 (2)	冷戦はアジアでいかに終わったか
13	ソ連解体と冷戦後の国際秩序	ソ連解体は冷戦後の国際秩序にいかなる影響を及ぼしたか
14	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業に関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

森聡、福田田編 (2022) 『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会。

小川浩之、板橋拓己、青野利彦 (2018) 『国際政治史—主権国家体系のあゆみ』有斐閣。

その他の参考文献は開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

中間レポート (30%)

学期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

毎回リアクション・ペーパーを配布し、そこで出された質問に次の授業でできる限り答えるようにしています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

<研究テーマ> 旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割

<主要研究業績>

『現代ロシア政治』法律文化社、2023年 (共編著)

『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年 (共著)。

『ロシア連邦憲法体制の成立—重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016年。

『連邦制の逆説? —効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016年 (共編著)。

など

【Outline (in English)】

This course is aimed at understanding sources of change and continuity in Soviet/Russian foreign policy. What factors, whether domestic or international, have developed Soviet/Russian foreign policy? And also, what role has the Soviet Union/ Russia played in the international arena? In the spring semester, we will explore Soviet/Russian diplomatic history in the twentieth century, especially focusing on the Cold War history from the Soviet perspective. Students will be required to write a mid-term paper and pass a final exam.

POL300AD (政治学/Politics 300)

ロシアの政治と外交Ⅱ

溝口 修平

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、20世紀以降のソ連・ロシア外交の展開を概観し、ソ連・ロシアが国際社会にどのような影響を及ぼしてきたかを検討します。後期の授業では、ソ連崩壊後のロシア外交がどのように展開してきたかを考えます。また、後半は、ロシアとウクライナの関係に焦点をあて、ロシア・ウクライナ戦争がなぜ生じたかを国際的文脈から考えます。

この講義を通じて、受講者は、ソ連崩壊後に国力が低下した時期を経て、ロシアが再び国際社会でいかに存在感を強めていったのか、そして現在ロシアは国際社会においてどのような立場にあるかを学びます。

【到達目標】

1. 冷戦後の新たな国際環境の中で、ロシア外交がどのように変化してきたかを説明できる。
2. ウクライナ危機およびロシア・ウクライナ戦争はなぜ起きたのかを国際的文脈から説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使って講義形式で行います。パワーポイントは授業前日までに学習支援システムにアップするので、各自でダウンロードしてください。また、毎回質疑応答の時間も設けます。リアクションペーパーで提起された質問は翌週の授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献リストの配布
2	ソ連の崩壊と国際環境の変化	ソ連崩壊後のロシアの国内政治情勢と国際環境の変化について
3	1990年代のロシア外交（1）	旧ソ連諸国との関係と「近い外国」という概念について
4	1990年代のロシア外交（2）	欧米諸国との接近と対立について
5	2000年代のロシア外交（1）	プーチン登場後のロシアの対欧米諸国との関係について
6	2000年代のロシア外交（2）	プーチン登場後のロシアの「近い外国」への政策について
7	ロシアとウクライナの関係	両国の関係の歴史について
8	ウクライナ危機（1）	ユーロマイダン革命の原因について
9	ウクライナ危機（2）	ロシアによるクリミア併合とドンバス紛争について
10	ウクライナ危機（3）	ドキュメンタリー視聴
11	ウクライナ危機（4）	ウクライナ危機後のロシアとウクライナについて
12	ロシア・ウクライナ戦争（1）	戦争の原因について
13	ロシア・ウクライナ戦争（2）	戦争の影響と今後について

14 総括

今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）

期末テスト（70%）

【学生の意見等からの気づき】

毎回リアクション・ペーパーを配布し、そこで出された質問に次の授業でできる限り答えるようにしています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

<研究テーマ>旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割

<主要研究業績>

『現代ロシア政治』法律文化社、2023年（共編著）

『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年（共著）。

『ロシア連邦憲法体制の成立－重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016年。

『連邦制の逆説？——効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016年（共編著）。

など

【Outline (in English)】

This course is aimed at understanding sources of change and continuity in Soviet/Russian foreign policy. What factors, whether domestic or international, have developed Soviet/Russian foreign policy? What role has the Soviet Union/Russia played in the international arena? In the autumn semester, we will explore the topics of Russian foreign policy in the post-Cold War period, such as the NATO enlargement, the Ukraine Crisis, and the territorial disputes with Japan. Students will be required to write a mid-term paper and pass a final exam.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

北アメリカの政治と社会 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映画鑑賞を通して、アメリカ社会の特質を考察します。具体的にどの映画を観るのかは、受講生の関心・理解度を踏まえながら決めます。

【到達目標】

アメリカ合衆国についての理解を深めるための視点の構築をめざします。

The goal of this course is to enhance your understanding of the social and political life of the U.S.A.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、(1) 映画 (DVD) の鑑賞、(2) それについての講義、(3) 鑑賞と討論を踏まえてのレポートの作成という3つの方法をつかって、アメリカ社会について理解するための視点を形成していくことをめざします。

本学期におけるテーマは、「人種」です。

In-person lecture

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	映画を利用してアメリカ社会の特質を考察する長所と問題点を解説します。
第2回	奴隷制と人種 1	南北戦争にかんする映画 (映画)
第3回	奴隷制と人種 2	南北戦争にかんする映画 (討論)
第4回	奴隷制廃止後の黒人 1	ジム・クロー法と「分離すれども平等」(映画)
第5回	奴隷制廃止後の黒人 2	ジム・クロー法と「分離すれども平等」(討論)
第6回	奴隷制廃止後の黒人 3	白人至上主義 (映画)
第7回	奴隷制廃止後の黒人 4	白人至上主義 (討論)
第8回	公民権運動 1	黒人たちの闘い (映画)
第9回	公民権運動 2	黒人たちの闘い (討論)
第10回	黒人の視点からみた黒人 1	黒人による黒人の描写 (映画)
第11回	黒人の視点からみた黒人 2	黒人による黒人の描写 (討論)
第12回	黒人の視点からみた白人 1	黒人の視線に現われた白人 (映画)
第13回	黒人の視点からみた白人 2	黒人の視線に現われた白人 (討論)
第14回	人種問題を捉える視線	人種問題を考察する自分の視点を捉え返す

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で鑑賞する映画とは別に、参考資料として映画・文献を紹介します。それらを観て読んで、理解を深めていってください。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

数回提出するレポート (100%)

Grading will be determined on the basis of report submissions(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「北アメリカの政治と社会」II は、この授業の続編です。テーマは、「エスニシティ」です。本授業と併せて履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

This class examines the basic characteristics of American society.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

北アメリカの政治と社会 II

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映画鑑賞を通して、アメリカ人の目に映る日本人・日本社会について考察をめぐらします。

【到達目標】

多民族社会アメリカ合衆国についての理解を深めるための視点の構築をめざします。

The goal of this course is to enhance your understanding of the social and political life of the U.S.A.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、(1) 映画 (DVD) の鑑賞、(2) それについての討論 (受講者が多い場合にはグループに分かれての討論)、(3) 鑑賞と討論を踏まえてのレポートの作成という3つの方法をつかって、アメリカ社会について理解するための視点を形成していくことをめざします。

本学期におけるテーマは、「エスニシティ」です。

In-person lecture

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ハリウッド映画におけるエスニシティ
第2回	新移民とアメリカ 1	19世紀末の「新移民」の大量流入1 「遥かなる大地」を手がかりにして
第3回	新移民とアメリカ 2	19世紀末の「新移民」の大量流入2
第4回	反ユダヤ主義 1	ユダヤ人の排除1 「紳士協定」を手がかりにして
第5回	反ユダヤ主義 2	ユダヤ人の排除2
第6回	エスニシティ間の対立	新移民同士の対立1 「ウエスト・サイド・ストーリー」を手がかりにして
第7回	エスニシティ間の対立 2	新移民同士の対立2
第8回	エスニシティ間の対立 3	新移民同士の対立3
第9回	「ヘイトクライム」 1	黒人コミュニティの異邦人1 「ドゥー・ザ・ライト・シング」を手がかりにして
第10回	「ヘイトクライム」 2	黒人コミュニティの異邦人2
第11回	多文化主義 1	異なるエスニシティの共存1 「ニューヨーク ジャクソンハイツへようこそ」を手がかりにして
第12回	多文化主義 2	異なるエスニシティの共存2
第13回	多文化主義 3	異なるエスニシティの共存3
第14回	ハイフン付きのアメリカ人	「アメリカ人とはなにか」を考え

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの該当部分を授業開始前に読んでおくこと。また、授業中に紹介する資料を復習として参照すること。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

参考文献・資料については、授業中、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

数回提出するレポート(100%)

Grading will be determined on the basis of report submissions(100%)

【学生の意見等からの気づき】

適宜ディベートの時間を設けて、理解度を確認する作業をおこないます。

【その他の重要事項】

北アメリカの政治と社会 I とセットになっている授業なので、両方を併せて履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

This class examines the basic characteristics of American society.

BSP100AB (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

法学入門

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考 (履修条件等)：クラス指定科目 ※法律1年L-N

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、法律学科でこれから法学を学ぶ学生に対して、「法とは何か」を理解する手助けをすることを目的として、法制度の構造・体系・役割について学習する。私たちの社会において法が具体的に機能する場を理解し、「法的に物事をとらえる」("think like a lawyer") 仕方に親しみ、4年にわたる法学の学習に必要な基礎的スキルを学ぶ。法律学科のすべてのコースに属する。

【到達目標】

- ①法学の基礎的な概念や原理を、その歴史的背景とともに、理解すること。
- ②裁判制度について説明できること。
- ③社会の実体にそくした法的枠組(実体法)と、その実現の手続(訴訟法)に関する基本的用語・知識を習得し、法的に問題を解決していくステップを理解すること
- ④判例の読み方を学び、具体的な事柄に法を適用するときに必要なとなる「法の解釈」の方法(論理的・実践的な推論)を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として対面の講義形式で授業を行うが、数回オンライン授業を実施する可能性もある。必要に応じて事例や参考資料を学習支援システムを通じて提供する。授業内容に応じてレポートを課す場合もある。

なお、各回の授業予定については、授業の進行状況等により、順序、内容が入れかわることがある。

質問や要望に対しては授業中にフィードバックを行う。また、授業後に小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方についての説明
第2回	法とは何か(1)	法と社会的秩序 法と規範
第3回	法とは何か(2)	法と道徳・慣習
第4回	法とは何か(3)	法の機能
第5回	法とは何か(4)	法と強制
第6回	法とは何か(5)	法の目的・法と正義
第7回	法の歴史と法系	法系と法の継受
第8回	法の形式	法源 制定法主義と判例法主義
第9回	法と裁判(1)	裁判制度とその役割
第10回	法と裁判(2)	裁判過程
第11回	法の解釈(1)	法の適用 基本的な解釈の技術
第12回	法の解釈(2)	民事判例の読み方
第13回	法の技術	法情報の検索方法 法学の学び方

第14回 法の分野と諸科学 法学の諸分野
法と他の学問分野との関連

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書、その他授業で指定された資料を予習・復習し、小テストその他の課題を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

以下の書籍のいずれかを使用する予定。初回授業時にテキストを指示するので、購入はその後でよい。

澤木敬郎・荒木伸怡・南部篤『ホーンブック法学原理』(北樹出版、第4版、2015年)

田中成明『法学入門』(有斐閣、第3版、2023年)

南野森『ブリッジブック法学入門』(信山社、第3版、2022年)

【参考書】

五十嵐清『法学入門』(日本評論社、第4版新装版、2017年)

中野次雄編『判例とその読み方』(有斐閣、3訂版、2009年)

【成績評価の方法と基準】

小テストその他の課題(40%)と期末試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム(Hoppiii)を利用するので、対応できるように備えておいていただきたい。

指示があるときは六法も持参すること

【Outline (in English)】

[[Outline]]

This course introduces students to legal concepts, principles and procedures. It deepens student understanding of what law is and how to "think like a lawyer." Students learn about the structure of the Japanese judicial system, the history of law, sources of law, categories of law. Students also learn how to read a case, using a real case.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students will be able to explain the history and sources of law, demonstrate an understanding of the structure and processes of the Japanese legal system, apply fundamental legal rules and principles in the selected areas of law, conduct legal research and analysis, and students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in law practice.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to have read the relevant chapters from the textbook, and other course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test & writing assignments (40%) and final examination (60%)

BSP100AB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

法学入門

大野 達司

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年E-G

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学入門は、法律学科で設けられている入門的な科目のひとつである。全てのコースに配置されている。本授業では、法律学を学ぶための導入科目として、法律学、裁判、裁判員制度などについての基礎的な内容を学ぶ。

【到達目標】

受講者が、法律学、裁判、裁判員制度などについて基本的な知識・理解を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面を予定していますが、オンラインと対面授業を組み合わせる可能性もあります（各回の「予定」は暫定です）。なお、初回はZOOMでの授業です。各回の授業形態に変更がある場合やZOOMのURL等は、学習支援システムの「お知らせ」で提示しますので、定期的に確認して下さい。各自、教科書を購入して下さい。①各回の課題として解説を付して指定する箇所および配付資料を、各自学習する、②ZOOMまたは対面の授業を受ける、③テストやアンケートを行う、という方法を予定しています。法律学の導入として、教科書に基づく講義を行う。法とは何か、法と道徳、法と裁判などの基礎的な知識および考え方を学ぶ上で、読みやすく、理解しやすい教科書を指定し、その理解を助ける授業を行います。

数回に一度、授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「法」とは何か
第2回	法の特徴	法の技術性
第3回	法と秩序の関係	秩序と法
第4回	法と道徳の関係・理論	法と道徳の共通点と相違点
第5回	法と道徳の関係・具体例	法と道徳の関係の具体例
第6回	権利と義務	権利と義務の種類
第7回	法と実力	法と実力の関係
第8回	法と論理	解釈とは
第9回	法の解釈	解釈理念と解釈技術
第10回	法の目的	正義と法的安定性
第11回	法の成立、形式	法の成立、形式の種類
第12回	法の形式・制定法と慣習法	制定法と慣習法とは
第13回	法の形式・判例法	判例法とは
第14回	裁判	裁判制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業及び教科書に基づく学習。教科書等の指定箇所を読み、疑問点を整理してくる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

澤木敬郎、荒木伸怡、南部篤『ホーンブック 法学原理』（北樹出版）各自、この本の最新版を入手し、講義の際には持参すること。

【参考書】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』、法律文化社、2016年（なお同書は『法思想史』でも教科書としています）。その他は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はテストによります（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行スピードや説明の方法などについて、学生の声を反映させていく予定で。特に、導入科目であることを意識して、より理解しやすい授業になるよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるように。

【その他の重要事項】

初回（4月7日）は、対面としながら、すでにシラバスで「オンライン」と連絡済みでもあるので、教室よりzoom発信もします。教室に来ることのできない方はそちらを利用してください。なお、zoomのアドレス、レジュメなどは学習支援システムで連絡しますので、確認してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a basic subject introducing the legal study. In this course, students will learn basic materials regarding the legal study, the judicial system and so on. (Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge and skills to study law. (Learning activities outside of classroom) Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare and understand the course content. (Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated according to Term-end examination (100%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (3) 中世 A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。歌人の閨歴、歌が詠まれた当時の解釈、『百人一首』編纂当時の解釈、当該歌の後世への影響等について解説します。そして、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注なども参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第3回	『百人一首』の謎	二条派歌人の動向
第4回	『百人一首』古注釈	中世・近世の古注釈について
第5回	『百人一首』講読	右大将道綱母「歎つゝ」歌 (53)
第6回	『百人一首』講読	大納言公任「滝の糸は」歌 (55)
第7回	『百人一首』講読	清原元輔「契きな」歌 (42)
第8回	『百人一首』講読	清少納言「よをこめて」歌 (62)
第9回	『百人一首』講読	『枕草子』清少納言と四納言
第10回	『百人一首』講読	紫式部「めぐり逢て」歌 (57)
第11回	『百人一首』講読	伊勢大輔「いにしへの」歌 (61)
第12回	『百人一首』解説	小式部内侍「大江山」歌 (60)
第13回	『百人一首』解説	「大江山」歌の後世への影響
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

- ・講談社学術文庫『百人一首』(有吉保、講談社、1983年)
 - ・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』(鳥津忠夫、KADOKAWA、1999年)
 - ・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首 (全)』(谷知子、KADOKAWA、2010年)
- その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (70%)、平常点 (30%) によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①~③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (3) 中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中世の宮廷に仕えた女房による日記文学に焦点をあて、それらの作品の特質を考察し、その面白さを学びます。

当科目では『弁内侍日記』『とはずがたり』をとりあげます。前者はまだ幼い後深草天皇に仕えた内侍、また後者は譲位後の後深草院に仕えた女房による日記文学です。二人の女性によって、後深草天皇・後深草院はどのように描写しているかに注目しながら、読解を進めます。

表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、それぞれの日記文学の特徴や文学史的な位置づけについて考察します。

【到達目標】

- ①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
- ②当時の歌壇の状況や歴史的背景を理解した上で作品を解釈する。
- ③和歌や物語の享受の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントに、できるかぎり回答していきながら、授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『弁内侍日記』概説	作品の概要
第3回	『弁内侍日記』	後深草天皇即位、宮廷を照らす月
第4回	『弁内侍日記』	閑院内裏炎上
第5回	『弁内侍日記』	「五節のまね」帝王教育、
第6回	『弁内侍日記』	廷臣の動向、歌壇状況
第7回	『とはずがたり』概説	作品の概要
第8回	『とはずがたり』巻一	後深草院との新枕
第9回	『とはずがたり』巻一	東二条院へのとりなし
第10回	『とはずがたり』巻二	粥杖事件、六条院の女楽事件
第11回	『とはずがたり』巻三	「有明の月」への仲介、御所からの追放
第12回	『とはずがたり』巻四	伏見での邂逅
第13回	『とはずがたり』巻五	熊野での夢想、後深草院の葬送
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート (70%)、平常点 (30%) によって評価します。レポートは【到達目標】①~③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *The Diary of Bennon-aishi* (弁内侍日記 *Ben no naishi nikki*) and *The Confessions of Lady Nijō* (とはずがたり *Towazugatari*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三 (1861-1930) *Representative Men of Japan* (代表的日本人, 1908. *Japan and the Japanese* [1894] の改訂版)。
・新渡戸稲造 (1862-1933) *Bushido: The Soul of Japan* (武士道, 1900)。
・岡倉天心 (1862-1913) *The Book of Tea* (茶の本, 1906)。
文学と芸術 (美術・音楽) にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会 (授業第5・9・13回) で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1~3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備 (続)
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞 (ザビエルとフロイス) 長崎 (出島) 歴代オランダ商館長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著 『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造 『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大作
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 テキスト pp. 10-17

第7回 テキスト pp. 18-23

第8回 テキスト pp. 64-69、70-77

第14回 テキスト pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ゴンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫 832 (本体780円、ISBN4-12-100832-4)

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (35%)、プレゼンテーションと議論への参加度 (25%)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したもの、40%)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀、1946)と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた*The Chrysanthemum and the Sword*の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
 ・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
 ・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会 (授業第5・9・12回) で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1~3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保 (『日本文化論』の変容) の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第7回	60~70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま (極論も含めて)
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧 (イ・オリオン)、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野教
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 テキスト pp. 182-187

第6回 テキスト pp. 214-219、266-271

第7回 テキスト pp. 248-253

第11回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

佐伯彰一、芳賀編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫 832 (本体 780 円、ISBN4-12-100832-4)

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』(中央公論社、1990) 中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (35%)、プレゼンテーションと議論への参加度 (25%)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したもの、40%)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students participate in one of three presentations on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict's book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英米文学講義 I A

波戸岡 景太

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ポストモダンとポストモダニズムの違いについて
第2回	戦争と文学	冷戦からベトナム戦争まで
第3回	大きな物語のあとで	ポストモダン思想の系譜
第4回	文理融合の物語	Thomas Pynchonの短編"Entropy" (前半) を読む
第5回	エントロピーとは何か	Thomas Pynchonの短編"Entropy" (後半) を読む
第6回	クィアと批評	Susan Sontagの批評"Notes on Camp"を読む
第7回	スタイルとコンテンツ	Susan Sontagの批評"On Style"を読む
第8回	SF的想像力の臨界点	Kurt Vonnegutの小説 <i>Slaughterhouse-Five</i> (前半) を読む
第9回	絶滅のナラティブ	Kurt Vonnegutの小説 <i>Slaughterhouse-Five</i> (後半) を読む
第10回	ナチスの表象	Susan Sontagの批評"Fascinating Fascism"を読む
第11回	隠喩と反隠喩	Susan Sontagの批評"Illness as Metaphor"を読む
第12回	軍産共同体の悪夢	Thomas Pynchonの長編 <i>Gravity's Rainbow</i> (前半) を読む
第13回	ポストモダニズムから ポストトゥルースへ	Thomas Pynchonの長編 <i>Gravity's Rainbow</i> (後半) を読む
第14回	まとめ/期末試験	国際社会の動きとアメリカ文学の関係について/筆記試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物をオンラインで配布しますので、授業準備の段階で各自ダウンロード/プリントアウトをして下さい。

【参考書】

- Pynchon, Thomas. *Gravity's Rainbow*. Viking, 1973.
 - *Slow Learner*. Brown, Little, 1984.
 Sontag, Susan. *Against Interpretation*. Picador, 2001.
 - *Under the Sign of Saturn: Essays*. Farrar Straus & Giroux, 1980.
 - *Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors*. Picador, 2001.
 Vonnegut, Kurt. *Slaughterhouse-Five*. Delacorte, 1969.

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果 (50%)、最終回に実施する期末試験 (50%) を合計し、60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英米文学講義 I B

波戸岡 景太

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ポストモダニズムの課題について
第2回	文学における「若さ」	ビート世代からZ世代まで
第3回	シミュラークルから ディープフェイクまで	ポストモダン美学の限界と可能性
第4回	レーガノミクスと文学	Thomas Pynchonの小説 <i>Vineland</i> を読む
第5回	サイボーグという隠喩	Donna Harawayの批評 <i>Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature</i> を読む
第6回	9/11以後のパラノイア	Thomas Pynchonの小説 <i>Bleeding Edge</i> を読む
第7回	コンパニオン・スピー ーズと文学	Donna Harawayの批評 <i>The Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness</i> を読む
第8回	人為災害とポストモダン	Don DeLilloの小説 <i>White Noise</i> を読む
第9回	視覚芸術とポストモダン	Don DeLilloの小説 <i>Point Omega</i> を読む
第10回	ポストモダンの語りの アクチュアリティ	Jonathan Safran Foerの仕事を分析する
第11回	ポストトゥルースと大 統領	Michiko Kakutaniの批評 <i>The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump</i> を読む
第12回	非暴力とヴァルネラビ リティ	Judith Butlerの批評 <i>The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind</i> を読む
第13回	生活の中のポストモダン	Lydia Davisの短編集 <i>Almost No Memory</i> を読む
第14回	まとめ／期末試験	世界的課題と文学の役割について／筆記試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物をオンラインで配布しますので、授業準備の段階で各自ダウンロード／プリントアウトをして下さい。

【参考書】

Butler, Judith. *The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind*. Verso Books, 2020.
 Davis, Lydia. *Almost No Memory*. Picador, 2001.
 DeLillo, Don. *White Noise*. Viking, 1985.
 -. *Point Omega*. Scribner, 2010.
 Foer, Jonathan Safran. *Extremely Loud and Incredibly Close*. Penguin, 2006.

Haraway, Donna. *Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature*. Routledge, 1991.

-. *Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness*. Prickly Paradigm, 2003.

Kakutani, Michiko. *The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump*. William Collins, 2018.

Pynchon, Thomas. *Vineland*. Little, Brown, 1990.

-. *Bleeding Edge*. Penguin, 2013.

その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果 (50%)、最終回に実施する期末試験 (50%) を合計し、60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

地理学概論 (1)**前 杢 英 明**

授業コード：A3401 | 曜日・時限：木1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は「地理」から「地理学」へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。この講義を受講すれば、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認でき、2. 高校の教科である「地理」と学問の一分野である「地理学」との違いを理解でき、3. 自然地理学の導入部分を学ぶことができる。科目名を自然地理学概論と読み替えてもよい。

【到達目標】

高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の教科としての地理と学問の一分野である地理学の違いを理解する。また、自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識を身につけ、今後の学年進行に伴う専門教育を受けるための基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週プレゼンファイルを使い、それを解説する形式である。プリントを配布するとともに、予習・復習に必要なプレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げる。課題(質問事項)等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	地理学と自然地理学について説明する。本学期のシラバスについて確認する。地球惑星科学の一分野としての自然地理学や自然史について説明する。
第2回	気候①<大気大循環と気候要素・因子>	地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する。
第3回	気候②<世界の気候区分と日本の気候区分>	ケッペンをはじめとした様々な気候区分、日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。
第4回	気候③<最終氷期以降の気候変動>	最終氷期以降の気候変動、自然環境の変化について講義する。
第5回	地形①<世界と日本の大地形>	大地形、地帯構造、プレートテクトニクスなどについて講義する。
第6回	地形②<平野と海岸の地形>	平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形について講義する。
第7回	地形③<変動地形>	内作用に起因する変動地形や火山地形について講義する。
第8回	地形④<第四紀と氷期>	第四紀、気候変動と地形、氷河・周氷河地形等について講義する。
第9回	水文①<水循環と流域、陸水>	水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について講義する。
第10回	水文②<水循環と流域、海洋>	水循環と水収支、海洋循環と気候変動などについて講義する。
第11回	土壌と植生<土壌の基礎・植生景観・文化>	土壌学の基礎を植生景観や文化景観と関連させながら講義する。
第12回	自然災害	さまざまな自然災害について、自然地理学との関連で講義する。
第13回	環境問題	地球環境史のふり返りとこれからの地球環境について講義する。
第14回	本学期の講義内容の振り返り	本学期の講義内容の振り返りとして確認試験などを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

高校で使った地図帳があれば、授業理解に役立つ。プレゼンファイルの圧縮版を学習支援システムに上げておくので、予習・復習に役立てて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しない。プリントもしくはスライドのPDFを配布する。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄(2008)：地理学基礎シリーズ2「自然地理学概論」、朝倉書店。

小野映介・吉田圭一郎(2021)：みわたす・つなげる自然地理学、古今書院。

【成績評価の方法と基準】

試験90%、平常点10%で総合的に評価する。平常点は出席状況や積極的な質問等で判断する。全回出席を原則とする。公欠等でやむを得ず休む場合でも開講回数2/3以上出席していないと評価しない。初回からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年の本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料は、学習支援システムでダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

【その他の重要事項】

地理学科の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、(変動)地形学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前杢英明ほか(2005)：沈み込み帯沿岸の地震変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.
 Maemoku, H. et.al. (1997)：Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
 Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97- 106, AGU, Washington, D. C.

By the end of the course, students should be able to do the followings:
 - A.getting knowledge on natural environments and natural hazards
 - B.getting ability to step up to the special education in the following grade.

【Outline (in English)】

The theme of this lecture is to confirm the foundation for shifting from "chiri" to "geography". The goal of this lecture is: 1. Reaffirming or reviewing geographical knowledge learned through the high school subject, 2.Understanding the differences Geography as a high school subject from Geography as a scientific discipline, 3. And learning the introductory part of Physical geography.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.getting knowledge on natural environments and natural hazards
 - B.getting ability to step up to the special education in the following grade.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO100BF (地理学 / Geography 100)

地理学概論 (2)

伊藤 達也

授業コード：A3402 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地理学でも特に人文地理学分野のテーマを中心にした全体的な概要把握が授業概要と目的です。

【到達目標】

授業で行う一つ一つのテーマ、内容が人文地理学細分野の入門となっており、今後、学生が地理学を学んでいく上での基礎となることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学とは何か	人文地理学とは何かについて、系統地理と地誌の関係、地域概念、地域スケール、を中心に説明します。
第2回	多様な国家	古典国家、現代国家の違い、現代国家の役割について説明します。
第3回	国境を超える政治経済	経済のグローバル化、政治のブロック化の中での社会変容について説明します。
第4回	アジアの経済発展 (1)	アジアの特徴、多様性について説明します。
第5回	アジアの経済発展 (2)	アジアの経済発展について説明します。
第6回	地域経済の論理 (1)	地域を構成する3要素について説明します。
第7回	地域経済の論理 (2)	地域経済の発展について説明します。
第8回	自然環境の理解と行政 (1)	行政の自然環境の理解について説明します。
第9回	自然環境の理解と行政 (2)	行政の理解のずれについて説明します。
第10回	都市とは何か	都市システムと中心地論について説明します。
第11回	世界都市のシステム化	東京とシンガポールの競争について説明します。
第12回	農業地域の経済力	日本農業の変化と農業問題について説明します。
第13回	文化と歴史の地理学	文化からの地域把握 (全国アホバカ分布、河童の地理学) について説明します。
第14回	まとめ	講義全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ありません。

【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著 (2020) 『経済地理学への招待』 ミネルヴァ書房

山崎 朗ほか (2022) 『地域政策 (第二版)』 中央経済社

藤井 正・神谷浩夫編 (2014) 『よくわかる都市地理学』 ミネルヴァ書房

浮田典良 (2010) 『地理学入門改訂版-マルチ・スケール・ジオグラフィ-』 原書房

R.J. ジョンストン著/立岡裕士訳 (1997, 1999) 『現代地理学の潮流 (上・下)』 地人書房

【成績評価の方法と基準】

定期試験100%

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

特ありません。

【Outline (in English)】

(Course outline) The outline and purpose of the course is to grasp the overall outline centered on the theme of human geography. (Learning Objectives) Each theme and content of the class is an introduction to the subfield of human geography, and the goal is to serve as a foundation for students to study geography. (Learning activities outside of classroom) Connect content of the class to the events in real life. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy) Regular Exam 100%

MAN100FA (経営学/Management 100)

組織論入門

長岡 健

専門入門科目100番台 1~4年次/2単位 [春学期授業/Spring]
営1年A~E

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、「経営という活動/現象を深く理解する」という視点と、「優れた経営活動をいかに実践するか」という問いを意識しながら、組織論の基礎を学んでいきます。具体的には、人材組織マネジメントに関連した経営学の概念・理論 (= 組織論) をもとに、組織における人々の行動や、組織を動かす仕組みについて考察を進め、「経営学的なモノの見方/考え方」を身につけると同時に、これからの企業活動や人々の働き方に対する問題意識を磨いていくことを目指します。

【到達目標】

学習目標については、この授業が経営学の初学者を対象としていることを踏まえ、以下の3点とします。

- (1) 組織論の基礎的な用語・概念を用いて、ビジネスやマネジメントに関わる様々な活動/現象について議論することができる。
- (2) 次年度以降の専門科目講義やゼミにおいて、「何を学んでいくか (= 学習の方向性)」に関する明確なビジョンをもつ。
- (3) 暗記するだけの勉強ではなく、「主体的に考えることを通じて学ぶ」という脱受験勉強型の学習スタイルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業では、①経営学的な視点からビジネスを考える、②組織における人々の行動と思考を理解する、③組織をうまく動かす仕組みと仕掛けをつくる、④組織のあり方と人々の働き方の未来を予測する、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、関連する概念や理論をもとに、「グループ/チーム/組織における人々の行動と思考」の諸側面を読み解いていきます。さらに、「グループ/チーム/組織のパフォーマンスをいかに高めるか」についての考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会 (旧 twitter を使用) をできる限り設けていく予定です。さらに、各モジュールの前後の事例研究 (ゲスト講義) では、授業のテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論/概念との関係を意識しながら、現実社会における企業活動や人々の働き方について考察します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学的なモノの見方について考える①	・「問題解決」という活動 ・視点/視野/視座の違い
第3回	経営学的なモノの見方について考える②	・政府/企業/家計の関係 ・利潤最大化と自己責任
第4回	事例研究①	組織とキャリアに関するゲスト講義
第5回	組織における人々の行動と思考を理解する①	・経営に求められる能力 ・動機付けの理論と実践
第6回	組織における人々の行動と思考を理解する②	・コミュニケーションの意味 ・リーダーシップの多様性
第7回	事例研究②	組織とキャリアに関するゲスト講義
第8回	組織を動かす仕組みと仕掛けをつくる①	・経営組織の生産性 ・分業と権限の設計
第9回	組織を動かす仕組みと仕掛けをつくる②	・企業組織の形態 ・組織設計の限界
第10回	事例研究③	組織とキャリアに関するゲスト講義
第11回	組織のあり方と働き方の未来を予測する①	・日本の経営とその変化 ・生産性から創造性へ
第12回	組織のあり方と働き方の未来を予測する②	・働き方改革の進展 ・SDGsと企業経営
第13回	事例研究④	組織とキャリアに関するゲスト講義

第14回 ラップアップ

授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、学習支援システムにアップされた資料を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
- (2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を授業中に適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
- (3) 第6回授業と第9回授業の終了後、授業内容に関する振り返りレポートを作成します (合計2回)。この振り返りレポートは成績評価の対象となります (成績評価中40%)。
- (4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップしますので、各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

- (1) 金井壽宏 『経営組織』 (日経文庫) 日本経済新聞社
- (2) 鈴木竜太 『経営組織論』 東洋経済新報社
- (3) 高尾義明 『はじめての経営組織論』 有斐閣

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート (1回) : 40%
- (2) 振り返りレポート (2回) : 20% x 2回 = 40%
- (3) ゲスト講義へのコメント (4回) : 5% x 4回 = 20%

【学生の意見等からの気づき】

今年度ではできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoomを使ったオンライン授業 (リアルタイム配信型) を受講するための機器と環境は各自で準備してください (詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください)。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧 twitter (X) を活用する予定です。受講者は旧 twitter (X) のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) フェイスブック
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) 旧ツイッター
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>
- (5) インスタグラム
<https://www.instagram.com/tnlabmel/>

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, we learn the basics of organisation studies, in order to understand what is called "management", and to answer the question of how to realise good management practice. Especially, our learning activities are going to analysing of human behaviours in organisations, and of mechanism of managing organisations, by using the conceptual tools of human resource and organisational management, which have been developed in the field of Management Studies. Through those learning activities, we try to deepen our understanding of the core perspectives of Management Studies, as well as to sharpen our insights into business corporations and individual work-styles in the post-Covid 19 world.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various activities and phenomena relevant to business and management, from the perspectives of organisation studies,
- (2) to sharpen the vision for further learning, especially in relation to the field of human resource and organisational management, and
- (3) to unlearn a passive attitude of just acquiring knowledge from text books, and to develop an active attitude toward learning.

[Learning Activities outside of Classroom]

Before/after each class meeting, the learners are expected to spend 2 hours to understand the course content, by reading the texts and references, and writing reflection papers about the guest lectures and the video materials.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), the mid term academic essay (20%), and 4 reflection papers about the guest lectures and video learning materials (40%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

組織論入門

小川 憲彦

専門入門科目100番台 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
営1年F～K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の企業経営は組織によって成り立っています。ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を経営目標の達成に向けて上手く活用するためには組織の力が不可欠です。組織、ここでは特にヒトの労働力を統合し、方向づけ、活用する仕組みとその過程について、基本的な知識を習得することを目的とします。This class aims to provide students with fundamental knowledge of organization and business administration theories including technical terms, major themes, and an overview of the field.

【到達目標】

大まかに言えば、組織論がどのような学問であるのかを理解します。そのためには経営学という学問体系の中において、それがどのような位置づけにあるのか知る必要があります。つまり他の専門領域との関係の中で組織論はどのような領域なのかを知ってほしいと思います。また、その歴史的な発展の流れについて学びながら、組織論の基本的な用語についても知ってほしいと思います。これらは経営学を学ぶ上でイロハになりますので、半期を通じて慣れていって下さい。

具体的には以下を目標とします。

- ①経営学の中で組織論がどのような位置づけにある領域かを説明できること
- ②組織論の基本的な言葉・概念を知っておりその意味が説明できること
- ③主要な理論について概要を知っていること

Students who complete this course will be expected to:

- (1) understand where the organization theories could be placed in the business administration academic field,
- (2) have the knowledge of the basic concepts and terms in this field and be able to explain the meaning of those terms.
- (3) have an overview of major organization theories.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

- ・初回の授業を除き、基本的に対面講義を実施します。それが難しい状況の場合はZoomを用いたりアルタイムのオンライン授業を行います。
- ・リアクションペーパー等を適宜課します。
- ・グループでの話し合いなども適宜行う予定です。
- ・The format for conducting the class is basically in person except the first lecture by online. However, the format (in person, online, or hybrid of them) depends on situations (such as COVID-19).
- ・Students will be required to submit reaction paper and/or some assignments as necessary.
- ・Group discussions might be held in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要や参加要件について
第2回	経営学と組織論	経営学はどのような学問か、組織論はどのような領域か
第3回	組織とは何か	組織の定義について
第4回	組織形態①	職能別組織、事業部制組織、マトリクス型組織など
第5回	組織形態②	その他の組織形態と、組織形態の発展
第6回	組織構造	官僚制と構造次元
第7回	組織の外部環境	組織のオープンシステム観、組織と戦略
第8回	組織構造のコンティンジェンシー理論	有機的組織、機械的組織
第9回	組織の変化①	組織のライフサイクル、組織変革
第10回	組織の変化②	組織学習
第11回	組織文化	価値体系としての組織
第12回	近代組織論①	バーナードの組織論 (組織均衡論)
第13回	近代組織論②	マーチ&サイモンの組織論
第14回	近年の組織論	ポストモダンの組織論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題を課すことがありますが、入門科目ですから、あまり難しい事は求めません。新聞、ニュース、アルバイトやインターンなどをきっかけにして、興味のある業界・会社について調べたりしながら参加すると理解が深まります。これを機会に、組織の中で働く経験を開始するのもよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments which include reaction papers to the lectures will be given at the instructor's discretion. Work experiences such as part-time jobs and/or internship will help you to understand this field.

【テキスト (教科書)】

坂下昭宣 (2014) 『経営学への招待 新装版』白桃書房。(分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。)

授業の説明で分かりにくい場合、信頼性の低いネット情報に頼るのではなく、まず教科書や参考書にあたってください。

【参考書】

金井壽宏 (1999) 『経営組織—経営学入門シリーズ』日経文庫。(分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。)

授業の説明で分かりにくい場合、信頼性の低いネット情報に頼るのではなく、まず教科書や参考書にあたってください。

【成績評価の方法と基準】

提出物やディスカッション、発言等を含む平常点50%、期末試験50%で評価します。ただしコロナの蔓延状況等により期末試験の実施の可否などが不明ですので、流動的です。

地震などの諸事情により試験が実施できなくなった場合は、各回のリアクションペーパーが評価の対象になると思います。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%). However, if the examination could not be conducted due to various circumstances, the reaction paper for each session will be the main target for evaluation.

【学生の意見等からの気づき】

可能な範囲で時々復習しながら進めたいと思います。

If possible, I would like to review what you learned previously from time to time.

【その他の重要事項】

- ・配られた資料を見るだけでなく、ノートを取る癖をつけて下さい。
- ・写真撮影、動画撮影、録音等の一切を禁じます。
- ・具体例を新聞等で探しながら復習をすると理解が深まります。
- ・出席状況は評価に加味しませんが、出席をせずにリアクションペーパーのみを提出することは不正とみなします。
- ・Take notes, not just looking at the handouts.
- ・Photography, video recording, or any other form of recording is strictly prohibited.
- ・Please review the material by looking for examples in newspapers, etc., for your understanding.
- ・Although attendance will not be taken into account in the evaluation, submission of reaction papers without attendance will be regard as a cheating.

【関連科目】

経営管理論、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

Learning objectives

Students who complete this course will be expected to:

- (1) have an overview of major themes in organization theories,
- (2) understand where the organization theories could be placed in the academic field of business administration,
- (3) have the knowledge of the basic concepts and terms in this field.

Learning activities outside of the classroom

Assignments which include reaction papers to the lectures will be given at the instructor's discretion.

Grading criteria/policy

Grading will be based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

組織論入門**橋本 諭**専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 L～Q

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織論入門は、3 つの特徴があります。

- 1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます
- 2) 経営学のモノの見方を学ぶ
現実の諸現象(たとえば企業を取り巻く諸現象)を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます
- 3) 今後の学習へのガイド
多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。

- 1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる
 - 2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる
 - 3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる
- また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業として実施します(授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインで実施することもあります)。
- ・授業内容に沿って小レポートおよびリアクションペーパーの提出を求めます。
- ・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。
- ・小レポートおよびリアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント (1-1)	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント (1-2)	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義(ゲスト講義1)	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント (2-1)	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント (2-2)	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント (1-1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント (1-2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点は何か
第11回	事例講義(ゲスト講義2)	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント (2-1)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (2-2)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

- 1) 平野 光俊 江夏 幾多郎 (2018)『人事管理』有斐閣。
 - 2) 桑田耕太郎 田尾雅夫 (2010)『組織論 補訂版』有斐閣。
- その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

最終レポート：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に課題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型 (zoom を利用) のオンライン授業形式を取り入れることがある。
オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】**Course outline**

This is an introductory course designed to help you develop an understanding and awareness of organizations. This course includes three topics; Basics of business management, organizational management, human resource management. It aims to become a course leading to future advanced learning.

Learning Objectives

- (1) Be able to explain with major keywords and concepts related to the basic content of organization theory.
- (2) Be able to explain everyday phenomena from the perspective of business administration.
- (3) Be able to develop a study plan that leads to the study of advanced content.

Learning activities outside of classroom**Review of each class****Grading Criteria /Policy**

Final report: 40% Sub-report: 60%

MAN100FA (経営学/Management 100)

組織論入門**橋本 諭**専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 R～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

組織論入門は、3 つの特徴があります。

- 1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます
- 2) 経営学のモノの見方を学ぶ
現実の諸現象(たとえば企業を取り巻く諸現象)を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます
- 3) 今後の学習へのガイド
多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 3 点です。

- 1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる
 - 2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる
 - 3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる
- また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業として実施します(授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインでも実施することもあります)。
- ・授業内容に沿って小レポートおよびリアクションペーパーの提出を求めます。
- ・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。
- ・小レポートおよびリアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント (1-1)	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント (1-2)	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義(ゲスト講義1)	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント (2-1)	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント (2-2)	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント (1-1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント (1-2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点とは何か
第11回	事例講義(ゲスト講義2)	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント (2-1)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (2-2)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【参考書】

- 1) 平野 光俊 江夏 幾多郎 (2018) 『人事管理』 有斐閣。
 - 2) 桑田耕太郎 田尾雅夫 (2010) 『組織論 補訂版』 有斐閣。
- その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

最終レポート：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に課題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型 (zoom を利用) のオンライン授業形式を取り入れることがある。

オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】**Course outline**

This is an introductory course designed to help you develop an understanding and awareness of organizations. This course includes three topics; Basics of business management, organizational management, human resource management. It aims to become a course leading to future advanced learning.

Learning Objectives

- (1) Be able to explain with major keywords and concepts related to the basic content of organization theory.
- (2) Be able to explain everyday phenomena from the perspective of business administration.
- (3) Be able to develop a study plan that leads to the study of advanced content.

Learning activities outside of classroom**Review of each class****Grading Criteria /Policy**

Final report: 40% Sub-report: 60%

MAN100FA (経営学/Management 100)

戦略論入門

安藤 直紀

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

好業績の企業と、そうでない企業を分けるものは何でしょうか。様々な要素が考えられますが、経営戦略が1つの要因として挙げられます。この講義では、大学で経営戦略を学んでいくために必要とされる基礎的な事項を学びます。企業の経営戦略を理解し、分析するための理論的な基礎を習得することを目指します。

【到達目標】

1. 外部環境分析の基礎を習得します。
2. 経営資源分析の基礎を習得します。
3. 経営戦略の基本類型を理解します。
4. 多角化戦略の基礎を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、対面形式とします。一部、オンライン形式でも行います。授業方式の詳細は、学習支援システム (Hoppii) に掲載しますので、開講前に確認してください。

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材フォルダーの中に置きます。理論の説明だけでなく、事例を交えて講義していきます。インタラクティブな講義にするために、講義中に意見等を求めます。また、授業の中で課題にも取り組んでもらいます。課題の提出は学習支援システムを活用します。課題や質問へのフィードバックは、講義内や学習支援システムを通して適宜行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関するオリエンテーション
第2回	経営戦略とは	経営戦略とは 競争優位とは
第3回	経営戦略の基本的な分析手法	SWOT分析
第4回	外部環境分析 (1)	外部環境とは
第5回	外部環境分析 (2)	ファイブ・フォース・モデルとは
第6回	外部環境分析 (3)	ファイブ・フォース・モデルからの示唆
第7回	内部環境分析 (1)	経営資源とは
第8回	内部環境分析 (2)	経営資源と競争優位
第9回	事業レベルの戦略 (1)	戦略の類型
第10回	事業レベルの戦略 (2)	コスト・リーダーシップ戦略とは
第11回	事業レベルの戦略 (3)	差別化戦略とは
第12回	企業レベルの戦略 (1)	多角化戦略とは
第13回	企業レベルの戦略 (2)	多角化戦略と企業業績
第14回	まとめ	これまでの学習のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

講義のための準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

井上達彦・中川功一・川瀬真紀『経営戦略ベーシック+』中央経済社、2019年
その他参考文献に関しては、講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：80%

講義内で出される課題：20%

講義内での発言等に対して、プラス点を加算します。プラス点が加算された場合、合計点が100点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

企業の事例を紹介する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形態で行う回がありますので、オンライン講義を受講するための情報機器が必要です。

【関連科目】

関連科目は、経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、マーケティング論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、製品開発論 I/II、グローバル経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II などです。

【Outline (in English)】**(Course outline)**

What determines firms' success? Among various factors, strategy is considered one of fundamental factors for firms' success. This course introduces students to key concepts and frameworks of strategic management. Students learn basic theoretical frameworks to understand and analyze firms' competitive strategy.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand basics of strategic management, which includes external environment analysis, the resource-based view, business-level strategy, and corporate-level strategy.

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to complete assignments, read assigned reading materials, and review the notes they took. Time for preparatory study and review for this class will be at least 2 hours each.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated on term-end examination (80%) and in-class assignments (20%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

戦略論入門

吉田 健二

専門入門科目100番台 1～4年次/2単位 [春学期授業/Spring]
 営1年R～U

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業形式で行います。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。授業内で、提出されたレポートに対してフィードバックを行います。講義を行います。時々ビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。板書されないことでも自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第2回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第4回	経営理念とドメイン	経営理念、ドメイン
第5回	外部環境分析 (1)	顧客分析、競争業者分析
第6回	外部環境分析 (2)	業界分析、マクロ環境分析
第7回	自社能力分析	自社能力分析
第8回	事業戦略 (1)	3つの基本戦略
第9回	事業戦略 (2)	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略 (3)	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略 (1)	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略 (2)	垂直統合戦略
第13回	企業戦略 (3)	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読むこと。
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔第3版〕』有斐閣、2023年。
 より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】

- ①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。
 - ②清水勝彦『戦略の原点』日経BP社、2007年。
 - ③伊丹敬之『経営戦略の論理 (第4版)』日本経済新聞出版社、2012年。
 - ④マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014年。
 - ⑤デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。
 - ⑥M. E. ポーター『競争の戦略 (新訂版)』ダイヤモンド社、1995年。
 - ⑦M. E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。
- ①～⑤は経営戦略論のテキストで、⑥と⑦は経営戦略論の古典と言われる本です。
 他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 (80%)、レポート (20%)
 詳細は、第1回目の授業で説明します。
 当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。
 また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】

「がっちりマンデー!!」(TBSテレビ、日曜日)、「カンブリア宮殿」(テレビ東京、木曜日)、「ガイアの夜明け」(テレビ東京、金曜日)のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【担当教員の専門分野等】

経営戦略論

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end examination(80%) and mid-term report(20%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

戦略論入門

福島 英史

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営戦略とは、「企業が実現したいと考える目標、およびそれを実現させるために何をどのように行っていくのか」という道筋を示す、基本的な構想や指針のこと」を意味しています。この授業では、こうした経営戦略に関する基礎的な内容を、さまざまな業界の実際の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

経営戦略論の基礎的事項が習得できる
競争戦略の概念・理論の基礎を理解できる
企業戦略の概念・理論の基礎を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。オンライン開講へ変更になる場合は学習支援システムでお知らせします。授業中に、トピックスに関連したエクササイズ (経営学クイズ) を解く課題があります。その際、発言を求められることがあります。教員のコメントや良答を紹介する等します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス、導入ストーリー
第2回	経営戦略論では何を学ぶか	経営学の中での経営戦略論の位置づけ、経営戦略の定義
第3回	経営戦略の基本的な考え方と分析手法 (I)	PEST分析および3C分析と、その考え方
第4回	経営戦略の基本的な考え方と分析手法 (II)	SWOT分析の考え方
第5回	業界構造分析	5 Forces分析と、その考え方
第6回	競争戦略の種類	三つの基本戦略の考え方
第7回	資源ベース論	VRIO分析と、その考え方
第8回	競争戦略の事例	事例による競争戦略の理解と確認
第9回	成長戦略と海外展開	成長ベクトルとグローバル経営の二軸
第10回	企業戦略 (I)	企業の境界、事業の多角化
第11回	企業戦略 (II)	事業ドメインと PPM 分析
第12回	知識のマネジメント	知識とイノベーション過程
第13回	ベンチャー企業と戦略	新興企業の戦略
第14回	まとめ、試験	学習のまとめ・成果の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を配布します。

【参考書】

- ・沼上幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略 (新版)』有斐閣。
- ・浅羽茂・牛島辰男(2010)『経営戦略をつかむ』有斐閣。
- ・M.E.ポーター(1995)『競争の戦略(新訂)』ダイヤモンド社。
- ・網倉久永・新宅純二郎(2011)『経営戦略入門』日本経済新聞出版。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (86%) と各回の課題 (14%) の合計 (100%) で評価します。期末試験を受けなかった場合、E 評価になりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズ課題の時間をしっかりと、企業等の事例を引き続き充実させていきます

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や、携帯電話の音声・撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。注意しても直らない場合、教室からご退席いただきます。授業中の迷惑行為が目に見える場合、本授業の単位を付与しません。関連科目は、戦略的意思決定論や経営戦略論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、マーケティング等です。

【Outline (in English)】

This course deals with introductory knowledge on strategic management, which is one of the core subjects in business administration. The goal of this course is to learn basic concepts and theories related to corporate strategy and business strategy as preparation for studying after the second grade. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on semester-end examination (86%), and each class assignments (14%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

戦略論入門

吉田 健二

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業 / Fall]
 営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業形式で行います。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。授業内で、提出されたレポートに対してフィードバックを行います。講義を行います。時々ビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。板書されないことでも自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面 / face to face

回	テーマ	内容
第1回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第2回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第4回	経営理念とドメイン	経営理念、ドメイン
第5回	外部環境分析 (1)	顧客分析、競争業者分析
第6回	外部環境分析 (2)	業界分析、マクロ環境分析
第7回	自社能力分析	自社能力分析
第8回	事業戦略 (1)	3つの基本戦略
第9回	事業戦略 (2)	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略 (3)	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略 (1)	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略 (2)	垂直統合戦略
第13回	企業戦略 (3)	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読むこと。
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 [第3版]』有斐閣、2023年。
 より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】

- ① 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。
 - ② 清水勝彦『戦略の原点』日経BP社、2007年。
 - ③ 伊丹敬之『経営戦略の論理 (第4版)』日本経済新聞出版社、2012年。
 - ④ マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014年。
 - ⑤ デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。
 - ⑥ M. E. ポーター『競争の戦略 (新訂版)』ダイヤモンド社、1995年。
 - ⑦ M. E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。
- ①～⑤は経営戦略論のテキストで、⑥と⑦は経営戦略論の古典と言われる本です。
 他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 (80%)、レポート (20%)
 詳細は、第1回目の授業で説明します。
 当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。
 また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】

「がっちりマンデー!!」(TBSテレビ、日曜日)、「カンブリア宮殿」(テレビ東京、木曜日)、「ガイアの夜明け」(テレビ東京、金曜日)のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【担当教員の専門分野等】

経営戦略論

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end examination(80%) and mid-term report(20%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

簿記入門 I

大下 勇二

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 L~Q

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門 I の受講により、学生は、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成することができる。具体的には複式簿記の原理、帳簿記入の方法および決算の概要を理解し、帳簿の作成とそれに基づいた決算書の作成方法を習得し、簿記入門 II とあわせて日商簿記検定の 3 級程度のレベルに到達することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度の授業は対面授業を基本としています(初回は Zoom によるオンライン授業です)。学習支援システムには、毎回テキストを要約した講義スライドと小テスト(全 12 回)をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記の意義としくみ(1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第 2 回	簿記の意義としくみ(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第 3 回	簿記の意義としくみ(3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第 4 回	仕訳と転記(1)	勘定の意義、勘定科目の分類、勘定記入を学習します。
第 5 回	仕訳と転記(2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第 6 回	仕訳と転記(3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」と「転記」について学習します。
第 7 回	仕訳帳と元帳(1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第 8 回	仕訳帳と元帳(2)	勘定記入、仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第 9 回	決算(1)	決算の意味と手続き、試算書の作成、合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第 10 回	決算(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算書の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きを学習します。
第 11 回	決算(3)	精算書の仕組み、6 桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第 12 回	現金と預金	現金・預金の記帳、現金出納帳、現金過不足、当座預金、その他の預金、小口現金の処理を学習します。
第 13 回	計算演習(1)	小テストとレポート課題の解答を解説します。
第 14 回	計算演習(2)	総合計算問題演習を実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストと講義スライド(パワーポイントのスライド)で予習・復習する形で学習を進めて下さい。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3 級』(最新版)中央経済社。
『検定 簿記ワークブック 3 級』(最新版)中央経済社。

【参考書】

最初の授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」(第 1 回~第 12 回)、「課題レポート」(1 回程度)および「最終テスト」の 3 つに基づいて評価します。各評価の配分は、小テスト(全 12 回)45%、課題レポート 5%、最終テスト 50%の予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解を深めながら授業を進めていきます。また、小テストの結果を定期的に観察して、授業の理解をその都度確認する取組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイント、さらに初回のオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

[関連科目]

この講義は、2 年次の会計学入門 I/II、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、監査論 I/II、原価計算論 I/II、管理会計論 I/II、経営分析論 I/II、経営分析論 III/IV など会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

[その他注意事項]

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the book-keeping of an introductory level. Accounting based on Bookkeeping is called the language of business. Income statements and balance sheets published by companies are prepared based on accounting books that record their economic activities according to bookkeeping technique and certain accounting rules. This course deals with this bookkeeping technique from journal entry to settlement of accounts.

Learning objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basics of bookkeeping technique from journal entry to settlement of accounts, the double-entry system and basic accounting process.

Learning activities outside of classroom

Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content. Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

簿記入門Ⅱ

大下 勇二

専門入門科目100番台専門基礎科目A群 1～4年次/2単位 [秋学期授業/Fall]

営1年L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。簿記入門Ⅱでは、簿記入門Ⅰで学習した仕訳から決算までの簿記の基礎を前提として、さまざまな取引を取り上げその具体的な処理を学習していきます。

【到達目標】

簿記入門Ⅱでは、受講生は、簿記入門Ⅰで学習した簿記の基礎に基づいて、複式簿記による帳簿記録のルールの理解と簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを出発点として、具体的な各種取引の会計処理、帳簿組織の仕組み、決算整理と8桁精算表および貸借対照表・損益計算書の作成方法を修得し、最終的に日商簿記3級程度のレベルへ到達することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

簿記入門Ⅱは対面授業を基本としています(初回、第8回および第11回はZoomによるオンライン授業の予定です)。学習支援システムには、毎回テキストを要約した講義スライドと小テスト(全12回)をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	繰越商品・仕入・売上(1)	3分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を学習します。
第2回	繰越商品・仕入・売上(2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第3回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳、売掛金・買掛金、人名勘定、売掛金元帳・買掛金元帳などを学習します。
第4回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券等の処理を学習します。
第5回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、受取手形記入帳・支払手形記入帳、手形貸付金・手形借入金、電子記録債権・電子記録債務等の処理を学習します。
第6回	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却、減価償却の計算と会計処理を学習します。
第7回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れの処理、貸倒れの見積りと引当りの処理を学習します。
第8回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金、配当等の処理を学習します。
第9回	収益と費用	収益と費用の未収・未払と前受けと前払いの処理とその意義、消耗品の処理等を学習します。
第10回	税金	税金の処理を学習します。
第11回	伝票	伝票を用いた記入方法を学習します。
第12回	財務諸表	決算手続き、決算整理の処理、8桁精算表および財務諸表の作成方法を学習します。
第13回	計算演習(1)	小テストと課題レポートの解答を解説します。
第14回	計算演習(2)	総合計算問題演習を実施します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストと講義スライド(パワーポイントのスライド)で予習・復習する形で学習を進めてください。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3級』(最新版)中央経済社。
『検定 簿記ワークブック 3級』(最新版)中央経済社。

【参考書】

最初の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」(第1回～第12回)、「課題レポート」(1回程度)および「最終テスト」の3つに基づいて評価します。各評価の配分は、小テスト(全12回)45%、課題レポート5%、最終テスト50%の予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めて行きます。また、小テストの結果を定期的に観察して、授業の理解をその都度確認する取組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイント、さらにオンライン授業ではZoomを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the book-keeping of an intermediate level and the preparation of balance sheet(B/S) and income statement(P/L).In this course,we will take up various transactions and learn the specific processing based on the bookkeeping technique learned in "Introduction to Bookkeeping I".

Learning Objectives

By the end of the course,students should be able to understand the introductory accounting practices for merchant(Nishou-Boki-kentei 3-kyu level).

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting(on-line test)and mid-term report.Before/after each meeting,students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting(on-line test)(45%),mid-term report(5%),term-end examination(50%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

簿記入門 I

川島 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 F~K

その他属性:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義の目的は、初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基礎的な事項を理解してもらい、日商簿記検定3級に合格することである。簿記の「なぜ?」に答えることを重視するため(なぜ日常の家計簿の延長では不十分・不合理なのか?、なぜ複式、なぜ借方・貸方なのか?、なぜ加法にこだわるのか?、なぜ決算整理が必要なのか? 等々)、資格試験の授業計画とは異なるが、学習の範囲、扱う内容、演習問題の量は日商簿記検定3級の標準的授業と同じである。

この授業では2、3年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習する。それは社会人になった時にビジネスの常識として必要となる基本的事項でもある。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである。

- 基本的な取引の内容を理解し、それを記帳・要約して財務諸表を作成する技術を習得する。
- 作成した財務諸表から、会社の実態を推論する技術を習得する。
- 財務諸表の作成と読解を通じて、会計上の諸論点の存在を理解し、それらを議論するために必要な概念を理解する。
- 日商簿記検定3級に合格できる知識、および同2級の受験準備としての知識を習得する。
- 簿記に関する一般教養的な知識を習得する(文化・歴史・経済との関係等)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。授業内容は簿記入門 I と簿記入門 II を合わせた年間28回の授業を以下の4つに分割し、それぞれテーマと問題意識を共有しながら授業を進める。

第1部 簿記の基礎概念を理解する(第2-7回)
 第2部 記録と要約の方法を理解する(第8-13回)、以上「簿記入門 I」
 第3部 簿記検定試験の対策(第16-21回)
 第4部 簿記検定試験から会計学への発展(第22-27回)、以上「簿記入門 II」
 なお、第1回・第15回はガイダンス、第14回・第28回は総合問題の解説にあてる。

本授業では単に簿記処理の技術を説明するだけでなく、簿記の歴史、文化的側面、経済発展への貢献などを解説することを通じて、簿記に関する教養的知識の習得を受講生に促す。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設ける。受講生は授業内容について理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し(任意)、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加算する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	簿記の役割、簿記会計を学ぶ意義等について説明する
第2回	会社経営に関する概念	簿記の記録対象となる会社の取引とその実態や仕組みについて概観する。
第3回	財政状態に関する概念	経営に必要な資金の調達源泉とその運用形態に関する記録を学ぶ。
第4回	収支計算に関する概念	日常生活の記帳の延長として、一般に認められた方法により現金出納帳と収支計算書を作成する方法を解説する。
第5回	利益計算に関する概念	利益計算の方法と損益計算書等について学習する。収益・費用の概念を収入・支出と対比させて解説する。
第6回	簿記一巡の手続きに関する概念	取引を記録・要約して財務諸表が作成されるまでの一連の手続きについて概観する。
第7回	決算整理に関する概念	合理的な期間損益計算のために行われる決算時の修正手続きについて学ぶ。
第8回	資金調達と現金預金	資金調達と現金預金について解説する。
第9回	商品の仕入/買掛金/販売/売上債権	商品の仕入/買掛金/販売/売上債権の各取引について解説する。

第10回	固定資産の購入と売却 / 未払金と未収金 / その他の債権・債務 / 税金 / 配当	固定資産の購入と売却 / 未払金と未収金 / その他の債権・債務 / 税金 / 配当の各取引について解説する。
第11回	決算① 売上原価の算定 / 貸倒引当金	売上原価の算定 / 貸倒引当金について解説する。
第12回	決算② 減価償却	減価償却について解説する。
第13回	決算③ 経過勘定項目	経過勘定項目について解説する。
第14回	総合的演習問題	仕訳、総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成等について総合的に学習する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回講義で学習した例題の復習と関連する部分の演習問題を解いておくこと。

【テキスト(教科書)】

教員が作成した資料を配信する。

【参考書】

- 川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年。
- 黒澤清『新講 商業簿記』千倉書房、1947年。
- 大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦『簿記講義ノート』白桃書房、1998年。
- 中村忠『新稿・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005年。
- 中村忠『簿記の考え方・学び方』六訂版、税務経理協会、2006年。
- 新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第12版、白桃書房、2014年。

【成績評価の方法と基準】

以下の5点にもとづいて評価する(括弧内はウエイト)。

①動画視聴履歴の状況(10%)
 ②対面授業の出席状況(10%)
 ③対面授業時の発言状況(10%)
 ④各授業回の確認テスト(40%)
 ⑤各授業回の質問票への記述状況(30%)
 質問票は、各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formを通じて提出する。その内容は全受講生に匿名で公表する。その提出状況と記述内容は、授業への参画と貢献に対する評価として、成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための課題をより多く課したい。また毎回の確認テストと質疑応答により、受講者の理解度を段階的に確かめていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画を視聴するためのPC。表計算ソフトウェアのExcelがあることが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式(動画配信)の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意されたい(対面形式の授業回に教室からの配信はしない)。具体的な日程や受講方法の詳細は、第1回授業の際に説明する。
 2. 本授業では、簿記処理の技術のみならず、簿記に関する一般教養的知識(文化・歴史・経済との関わり等)についても解説し、これらについても期末試験において多く出題する。本学の会計専門職講座をはじめ各種資格試験講座を受講している学生もぜひ受講してほしい。

【関連科目】

この科目はすべての会計関係の基礎となる科目であり、経営関係の科目の学習においても重要な科目である。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to get knowledge of fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance in the near future. This lecture includes technique, principle, history, and practice of bookkeeping. The goals of this class are as follows.

(1) Understand the contents of basic transactions, and acquire the technology to record and summarize them to prepare financial statements.
 (2) Learn the methods to infer business situations from the prepared financial statements.
 (3) Understand the existence of accounting issues and the concepts necessary to discuss them through the preparation and reading of financial statements.
 (4) Acquire the knowledge to pass the official business skill test in Book-keeping 3rd grade.
 (5) Acquire general liberal arts knowledge about bookkeeping.
 The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each, including solve the exercises learned in each lecture.
 Evaluate based on the following two points (weights in parentheses). (1) Viewing history status (20%)

(2) Confirmation test each time (40%)

(3) Questionnaire description status (40%)

Students submit questions and impressions through the Google Form after each class. The description will be announced anonymously to all students. The submission status and description will be reflected in the grades as an evaluation of participation and contribution to the class.

MAN100FA (経営学 / Management 100)

簿記入門Ⅱ

川島 健司

専門入門科目 100番専門基礎科目A群 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
営1年F～K

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義の目的は、初めて簿記会計を学習する学生を対象として、簿記の基本的な事項を理解してもらい、日商簿記検定3級に合格することである。この簿記入門Ⅱでは、簿記原理の知識を踏まえたうえで、日商簿記検定3級の合格を目指し、その受験対策を行う。ただし、専門学校の簿記教材とは異なり、日商簿記検定3級の問題を題材に、会計学や財務諸表分析といった簿記の発展や応用に関するテーマを扱う。試験対策をしながら、簿記の魅力について知ってもらうことに主眼をおいている。

簿記の「なぜ？」に答えることを重視するため (なぜ日常の家計簿の延長では不十分・不合理なのか？、なぜ複式、なぜ借方・貸方なのか？、なぜ加法にこだわるのか？、なぜ決算整理が必要なのか？ 等々)、資格試験の授業計画とは異なるが、学習の範囲、扱う内容、演習問題の量は日商簿記検定3級の標準的授業と同じである。

この授業では2、3年次で会計関係の専門科目を学習する際の基礎となる事項を学習する。それは社会人になった時にビジネスの常識として必要となる基本的事項でもある。

【到達目標】

- ・本授業の到達目標は以下のとおりである。
- ・基本的な取引の内容を理解し、それを記帳・要約して財務諸表を作成する技術を習得する。
- ・作成した財務諸表から、会社の実態を推論する技術を習得する。
- ・財務諸表の作成と読解を通じて、会計上の諸論点の存在を理解し、それらを議論するために必要な概念を理解する。
- ・日商簿記検定3級に合格できる知識、および同2級の受験準備としての知識を習得する。
- ・簿記に関する一般教養的知識を身につける (文化・歴史・経済との関わり等)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。授業内容は簿記入門Ⅰと簿記入門Ⅱを合わせた年間28回の授業を以下の4つに分割し、それぞれテーマと問題意識を共有しながら授業を進める。

- 第1部 簿記の基礎概念を理解する (第2-7回)
 - 第2部 記録と要約の方法を理解する (第8-13回)、以上「簿記入門Ⅰ」
 - 第3部 簿記検定試験の対策 (第16-21回)
 - 第4部 簿記検定試験から会計学への発展 (第22-27回)、以上「簿記入門Ⅱ」
- ※簿記入門Ⅱの履修にあたり、簿記入門Ⅰが履修済みであることを推奨するが、必須条件ではない。

本授業では単に簿記処理の技術を説明するだけでなく、簿記の歴史、文化的側面、経済発展への貢献などを解説することを通じて、簿記に関する教養的知識の習得を受講生に促す。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設ける。受講生は授業内容について理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し (任意)、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加点する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日商簿記検定の概要、学習方法、検定取得の意義等について説明する。
第2回	日商簿記検定3級 仕訳問題の対策	取引の仕訳問題の対策。問題文から取引の様子を具体的にイメージし、指定された勘定科目を用いて仕訳を行う。
第3回	日商簿記検定3級 補助簿の対策	勘定口座の作成や、商品有高帳をはじめとする補助簿の作成などの問題を扱う。
第4回	日商簿記検定3級 合計残高試算表の対策	残高試算表、合計試算表、または合計残高試算表を作成する問題を扱う。
第5回	日商簿記検定3級 伝票の対策	伝票について、示された伝票から仕訳を行う問題、または示された取引から伝票を作成する問題を扱う。

第6回	日商簿記検定3級 精算表の対策	精算表について、試算表が与えられて、それに決算整理事項を反映させて、精算表を作成させる問題、または与えられた精算表から試算表を推論させる問題を扱う。
第7回	日商簿記検定3級 総合模擬試験	日商簿記検定3級の第1問から第5問を通し、本番と同じ要領で解答することで、理解度を確かめる。
第8回	仕訳問題の復習と「費用収益対応の原則」	第1問の問題を題材に、会計学の中心テーマの1つである「費用収益対応の原則」について理解・考察する。
第9回	補助簿の復習と「資産の会計」	第2問の問題を題材に、会計学の中心テーマの1つである「資産とは何か」について理解・考察する。
第10回	合計残高試算表の復習と「収益の会計」	第3問の問題を題材に、会計学の中心テーマの1つである収益の認識について理解・考察する。
第11回	伝票の復習と「簿記の歴史」	第4問の問題を題材に、簿記の歴史について理解を深める。
第12回	精算表の復習と「財務諸表分析」	第5問で作成する財務諸表を題材に、財務諸表分析の手法を学び、実際に分析を試みる。
第13回	総合模擬試験と「会社の価値評価」	総合模擬試験の中で作成する財務諸表を題材に、会社の価値評価の考え方を学び、実際に分析を試みる。
第14回	簿記と会計学の専門科目との関係	この授業に続く発展的科目の内容を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業で学習した例題の復習と関連する部分の演習問題を解いておくこと。

【テキスト (教科書)】

教員が作成した資料を配信する。

【参考書】

- ・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年。
- ・黒澤清『新講 商業簿記』千倉書房、1947年。
- ・大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦『簿記講義ノート』白桃書房、1998年。
- ・中村忠『新編・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005年。
- ・中村忠『簿記の考え方・学び方』六訂版、税務経理協会、2006年。
- ・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第12版、白桃書房、2014年。

【成績評価の方法と基準】

以下の5点にもとづいて評価する (括弧内はウエイト)。

- ①動画視聴履歴の状況 (10%)
 - ②対面授業の出席状況 (10%)
 - ③対面授業時の発言状況 (10%)
 - ④各授業回の確認テスト (40%)
 - ⑤各授業回の質問票への記述状況 (30%)
- 質問票は、各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form を通じて提出する。その内容は全受講生に匿名で公表する。その提出状況と記述内容は、授業への参画と貢献に対する評価として、成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための課題をより多く課したい。毎回の確認テストと質疑応答により、受講者の理解度を段階的に確かめていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド動画を視聴するためのPC。表計算ソフトウェアのExcelがあることが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式 (動画配信) の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意されたい (対面形式の授業回に教室からの配信はしない)。具体的な日程や受講方法の詳細は、第1回授業の際に説明する。
2. 本授業では、簿記処理の技術のみならず、簿記に関する一般教養的知識 (文化・歴史・経済との関わり等) についても解説し、これらについても期末試験において多く出題する。本学の会計専門職講座をはじめ各種資格試験講座を受講している学生もぜひ受講してほしい。

【関連科目】

この科目はすべての会計関係の基礎となる科目であり、経営関係の科目の学習においても重要な科目である。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to get knowledge of fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance in the near future. This lecture includes technique, principle, history, and practice of bookkeeping.

The goals of this class are as follows.

- (1) Understand the contents of basic transactions, and acquire the technology to record and summarize them to prepare financial statements.
- (2) Learn the methods to infer business situations from the prepared financial statements.
- (3) Understand the existence of accounting issues and the concepts necessary to discuss them through the preparation and reading of financial statements.
- (4) Acquire the knowledge to pass the official business skill test in Book-keeping 3rd grade.
- (5) Acquire general liberal arts knowledge about bookkeeping.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each, including solve the exercises learned in each lecture.

Evaluate based on the following two points (weights in parentheses). (1)

Viewing history status (20%)

(2) Confirmation test each time (40%)

(3) Questionnaire description status (40%)

Students submit questions and impressions through the Google Form after each class. The description will be announced anonymously to all students. The submission status and description will be reflected in the grades as an evaluation of participation and contribution to the class.

MAN100FA (経営学/Management 100)

簿記入門 I

神谷 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学びます。簿記のレベルとしては、春季は日商簿記検定3級の範囲のうちの基礎的な部分を扱います。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容であると思います。大学で最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとってもこの科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の1つです。簿記の3級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門 I・II の授業内容を理解することによって、日商簿記検定の3級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	簿記の意義と仕組み	簿記の意義、簿記の基礎、貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係
第3回	仕訳と転記 (1)	勘定、取引の意義と種類、取引8要素と結合関係、
第4回	仕訳と転記 (2)	仕訳と転記
第5回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記
第6回	今までの範囲の問題演習	仕訳と転記の部分を中心とした演習を行う
第7回	決算 (1)	決算の意義と手続、試算表の作成
第8回	決算 (2)	帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表
第9回	現金と預金 (1)	現金、現金化不足の会計処理
第10回	現金と預金 (2)	当座預金と当座借越、小口現金
第11回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3分法、諸掛と返品
第12回	繰越商品・仕入・売上 (2)	仕入帳と売上帳、商品有高長
第13回	売掛金と買掛金 (1)	売掛金と買掛金、元帳、明細表
第14回	売掛金と買掛金 (2) と春学期の総括	クレジット売掛金、前払金、前受金と春学期でやった内容の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。3級レベルではそれだけの繰り返しで十分マスターできます。

【テキスト (教科書)】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編『検定簿記講義3級 (最新版)』中央経済社

【参考書】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編『検定簿記ワークブック3級 (最新版)』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト (30 点) と定期試験 (70 点) の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100 分授業であるので、説明した後に毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を行う予定であるので、特にありません。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の1年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Grading will be decided based on mid-term examination(30%),and term-end examination(70%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

簿記入門Ⅱ

神谷 健司

専門入門科目100番台専門基礎科目A群 1～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

営1年R～U

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、日商簿記検定試験3級の範囲の後半部分の各勘定科目各論と、決算、財務諸表の作成を中心とした部分を学習します。この授業までの部分が理解できるようになれば、簿記の基礎がマスターでき、3級の検定試験の問題もできるようになります。

【到達目標】

この授業の内容が理解できれば、簿記会計の基本的事項全体が理解できるようになり、3級の検定試験にも合格できる力が身につきます。また2年次以降の会計分野の学習をするための基礎も身につけることもできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

各回、重要項目を説明したのち、例題を解き、受講生の理解度確かめながら進めていきたいと思えます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	その他の債権債務	売掛金と買掛金以外の債権債務を学習する
第2回	受取手形と支払手形	手形の種類としくみについて学習する
第3回	有形固定資産と減価償却	有形固定資産の購入時、決算時、売却時の会計処理を学習する
第4回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒の意義、貸倒損失、貸倒引当金の計上を学習する
第5回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金の計上、配当の決議と支払に関する会計処理を学習する
第6回	収益と費用	収益・費用の意義、経過勘定項目、消耗品費と貯蔵品の会計処理を学習する
第7回	税金	利益額に基づいて貸される税金と利益以外の金額に基づいて貸される税金の会計処理を学ぶ
第8回	伝票	伝票を利用して取引の内容を記入する方法を学習する
第9回	財務諸表 (1)	決算と手続、試算表の作成、精算表の作成について学習する
第10回	財務諸表 (2)	精算表の作成について学習する
第11回	財務諸表 (3)	財務諸表の作成について学習する
第12回	問題演習	秋学期に学習した内容と3級の検定試験に出題された内容について問題演習を行う
第13回	基本的な財務諸表を読む	実際の企業の財務諸表を読んで、そこから何が理解できるかを学習する
第14回	秋学期の総括と問題演習	秋学期に学習した内容の総復習とその中の重要問題についての演習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

あらかじめ今回の授業では何をやるのかを確認しておき、講義を聞いた後は重要事項の確認をしたのち、ワークブックの基本的な問題を解きなすことが効率的にマスターするやり方である。1時間の講義を聞いた後、同じ時間で問題を解くことの繰り返しで、3級はマスターできます。

【テキスト (教科書)】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級 (最新版)』中央経済社

【参考書】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級 (最新版)』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業中に行われる3回の小テスト (30点) と定期試験 (70点) の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100分授業であるので、説明した後に毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

この科目は、経営学部1年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身につけて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【その他の重要事項】

授業においてわからない点があれば、その都度質問して確認して欲しい。また授業終了後の各自の講義内容の復習と、関連するワークブックの問題を解くことは、3級の内容を理解する上で最も効率的な学習のやり方です

【関連科目】

この授業は、2年次以降の会計関連科目を学習する際の小會となる科目である。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transaction. The objective of This class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

簿記入門 I

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門 I・II の授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第 2 回	簿記の必要性	貸借対照表・損益計算書
第 3 回	記帳のルール	仕訳と勘定記入
第 4 回	商品売買 I	掛け取引
第 5 回	商品売買 II	手付金・内金
第 6 回	商品売買 III	商品券・返品
第 7 回	商品売買 IV	諸掛り・有高帳
第 8 回	商品売買 V	有高帳・現金
	現金・預金 I	
第 9 回	現金・預金 II	当座預金
第 10 回	総合問題演習	これまでの論点の確認
第 11 回	現金・預金 III	当座借越
第 12 回	現金・預金 IV	小口現金
第 13 回	売掛金 I	クレジット売掛金・手形
	手形取引 I	
第 14 回	手形取引 II	手形

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver14.0』2023 年

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver14.0』2023 年

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト (30 点) と定期試験 (70 点) の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。本年度からの担当。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term examination (30%), and term-end examination (70%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

簿記入門Ⅱ

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の子生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。授業中のミニテストなどを見て改善点をフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	様々な取引Ⅰ	電子記録債権・債務、貸付金・借入金
第 2 回	様々な取引Ⅱ	利息、役員貸付金・借入金、手形貸付金・借入金
第 3 回	様々な取引Ⅲ	有形固定資産、未収入金・未払金、仮払金・仮受金
第 4 回	様々な取引Ⅳ	給与、さまざまな帳簿
第 5 回	試算表	残高試算表
第 6 回	決算整理Ⅰ	現金過不足、売上原価
第 7 回	決算整理Ⅱ	貸倒①
第 8 回	決算整理Ⅲ	貸倒②
第 9 回	決算整理Ⅳ	減価償却
第 10 回	総合問題演習	これまでの論点の確認
第 11 回	決算整理Ⅴ	貯蔵品、当座借越
第 12 回	決算整理Ⅵ	経過勘定項目①
第 13 回	決算整理Ⅶ	経過勘定項目②
第 14 回	精算表	精算表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver14.0』2023 年

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver14.0』2023 年

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト (30 点) と定期試験 (70 点) の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度からの担当。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

POL100NA (政治学 / Politics 100)

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGsを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。

第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンペーン・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協分野への参加や就職についても考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%。課題パワーポイント作成と発表課題50%、課題レポート：30%。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に關する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.

4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.

Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

POL100NA (政治学 / Politics 100)

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力 (1)	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGsを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明 (1)	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明 (2)	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明 (3)	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明 (4)	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明 (5)	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。

第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%。課題パワーポイント作成と発表課題50%、課題レポート：30%。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.

3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.
4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.
Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

SES100NA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100)

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【習得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.

Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

SES100NA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100)

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日(火曜日)の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA(米国航空宇宙局)、UNFCCC(国連気候変動枠組条約)及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認(80%)及びテーマ/内容ごとの受講状況(20%)により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

SOC100NA (社会学 / Sociology 100)

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、現代日本における安楽死（の是非）と障害者差別の問題を取り上げます。2つの問題に関連は認められないように思われるかもしれませんが、そうではないこと（強く関連すること）を授業を通して理解することが目的のひとつです。授業では、例えば、「(積極的)安楽死の是非」「そもそも「障害」とは何か」といった問いについて議論し、文献を読み（ドキュメンタリーを視聴することも考えています）、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深め探求すること。
2. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
 - ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
 - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
 - ②を学生が担当することもあります。
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死・尊厳死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死・尊厳死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、安楽死と尊厳死との違い	安楽死・尊厳死についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する

- | | | |
|---|------------------------------------|--|
| ⑥ | 「尊厳死法案」とその批判 | 「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える |
| ⑦ | 社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む） | 社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える |
| ⑧ | ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える | 障害者に対する「乗車拒否？」の事例について考える |
| ⑨ | 障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル | 「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える |
| ⑩ | 障害者差別解消法と合理的配慮 | 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める |
| ⑪ | みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む） | 「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」論を考える |
| ⑫ | マジョリティ／マイノリティの非対称性・交差性（学生の文献紹介を含む） | マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」「交差性」概念から考える |
| ⑬ | 「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む） | 「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する |
| ⑭ | 自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表） | 安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

（以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

- 有馬斉（2019）『死ぬ権利はあるか—安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値』春風社
 安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店
 荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房
 飯野由里子・星加良司・西倉実季（2022）『「社会」を扱う新たなモード』生活書院
 川島聡他（2016）『合理的配慮』有斐閣
 竹内章郎（2020）『いのちと平等をめぐる13章 優生思想の克服のために』生活思想社
 立岩真也（2001）『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』青土社
 西原和久他（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門』有斐閣
 松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』中央公論社
 宮下洋一（2017）『安楽死を逃げるまで』小学館
 その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までほんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

SOC100NA (社会学 / Sociology 100)

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、現代日本における安楽死（の是非）と障害者差別の問題を取り上げます。2つの問題に関連は認められないように思われるかもしれませんが、そうではないこと（強く関連すること）を授業を通して理解することが目的のひとつです。授業では、例えば、「(積極的)安楽死の是非」「そもそも「障害」とは何か」といった問いについて議論し、文献を読み（ドキュメンタリーを視聴することも考えています）、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深め探求すること。
2. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
 - ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
 - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
 - ②を学生が担当することもあります。
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死・尊厳死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死・尊厳死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、安楽死と尊厳死との違い	安楽死・尊厳死についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する

- | | | |
|---|------------------------------------|--|
| ⑥ | 「尊厳死法案」とその批判 | 「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える |
| ⑦ | 社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む） | 社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える |
| ⑧ | ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える | 障害者に対する「乗車拒否？」の事例について考える |
| ⑨ | 障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル | 「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える |
| ⑩ | 障害者差別解消法と合理的配慮 | 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める |
| ⑪ | みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む） | 「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」論を考える |
| ⑫ | マジョリティ／マイノリティの非対称性・交差性（学生の文献紹介を含む） | マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」「交差性」概念から考える |
| ⑬ | 「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む） | 「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する |
| ⑭ | 自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表） | 安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

（以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

- 有馬斉（2019）『死ぬ権利はあるか—安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値』春風社
 安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店
 荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房
 飯野由里子・星加良司・西倉実季（2022）『「社会」を扱う新たなモード』生活書院
 川島聡他（2016）『合理的配慮』有斐閣
 竹内章郎（2020）『いのちと平等をめぐる13章 優生思想の克服のために』生活思想社
 立岩真也（2001）『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』青土社
 西原和久他（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門』有斐閣
 松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』中央公論社
 宮下洋一（2017）『安楽死を逃げるまで』小学館
 その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までほんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

SOC100NA (社会学 / Sociology 100)

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、現代日本における安楽死（の是非）と障害者差別の問題を取り上げます。2つの問題に関連は認められないように思われるかもしれませんが、そうではないこと（強く関連すること）を授業を通して理解することが目的のひとつです。授業では、例えば、「(積極的)安楽死の是非」「そもそも「障害」とは何か」といった問いについて議論し、文献を読み（ドキュメンタリーを視聴することも考えています）、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深め探求すること。
2. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。

【修得できる能力】

総合デザ インカ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
 - ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
 - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
- ②を学生が担当することもあります。
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死・尊厳死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死・尊厳死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、安楽死と尊厳死との違い	安楽死・尊厳死についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える

- ⑤ 「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）
 - ⑥ 「尊厳死法案」とその批判
 - ⑦ 社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）
 - ⑧ ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える
 - ⑨ 障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル
 - ⑩ 障害者差別解消法と合理的配慮
 - ⑪ みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）
 - ⑫ マジョリティ／マイノリティの非対称性・交差性（学生の文献紹介を含む）
 - ⑬ 「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）
 - ⑭ 自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表）
- 「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
- 「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
- 社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
- 障害者に対する「乗車拒否？」の事例について考える
- 「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
- 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める
- 「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」論を考える
- マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」「交差性」概念から考える
- 「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
- 安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

（以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

- 有馬 斉（2019）『死ぬ権利はあるか—安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値』春風社
- 安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店
- 荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房
- 飯野由里子・星加良司・西倉実季（2022）『「社会」を扱う新たなモード』生活書院
- 川島聡他（2016）『合理的配慮』有斐閣
- 竹内章郎（2020）『いのちと平等をめぐる13章 優生思想の克服のために』生活思想社
- 立岩真也（2001）『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』青土社
- 西原和久他（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門』有斐閣
- 松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』中央公論社
- 宮下洋一（2017）『安楽死を遂げるまで』小学館
- その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%
発表（文献紹介）：20%
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

ECN100NA (経済学 / Economics 100)

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。

日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6～7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例)「台所に見られる伝統～出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例) 台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1) 出身国の伝統的な台所について調査(ネットなど利用)・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2) 出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1) 2) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	1) 2) 3) 3) 日本の伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
12	4) 日本の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
13	3) 4) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
14	レポート提出	13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%

講義中の質疑応答 20%

Report 80%

Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

Nothing in particular

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

ECN100NA (経済学 / Economics 100)

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6~7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例)「台所に見られる伝統~出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例) 台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1) 出身国の伝統的な台所について調査 (ネットなど利用)・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2) 出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1) 2)のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	1) 2) 3) 日本の伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
12	4) 日本の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
13	3) 4)のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
14	レポート提出	13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト (教科書)】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%

講義中の質疑応答 20%

Report 80%

Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

Nothing in particular

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

ECN100NA (経済学 / Economics 100)

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用能力	5%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	30%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。

日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6~7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例)「台所に見られる伝統~出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例) 台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1) 出身国の伝統的な台所について調査 (ネットなど利用)・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2) 出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1) 2) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	3) 日本の伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
12	4) 日本の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。

13 3) 4) のまとめレポート提出

14 レポート提出 提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト (教科書)】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%

講義中の質疑応答 20%

Report 80%

Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

Nothing in particular

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

BSP100ND (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

システムデザイン入門

田中 豊

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“システムデザイン（SD）”という新しい分野をこれから学ぼうとする学生として、システムデザインとはいったいどのような学問分野であり、何を学びそこから何が得られ、そして未来に向けてこれから何をしなければならないかについて学ぶ。また、従来からある学問領域と異なり、この“システムデザイン”という新しい分野は、常に変化し進化し続けている。自分たちの意思で新たに“創る”という意識を持つためにも、まず、システムデザインを全体的に理解することを授業の到達目標とし、クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系の各専門分野の概要を学ぶ。

【到達目標】

- ・システムデザインの概念を理解する。
- ・システムデザイン学科で行っている専門分野について、それぞれがシステムデザインという学問全体のどこに位置し、どのような関係によって成り立っているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

システムデザイン学科の全専任教員が担当する。クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系の各専門分野の講義を聴き、各回、与えられたテーマに沿って期限内に小論を記述し、提出する。なお、講義の順番はゲストスピーカーの都合等により入れ替わることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 授業支援システム・学習達成度自己評価システムの説明	この講義の概要説明 各回の小論テーマの取組み方、小論の記述の仕方、提出方法を説明する。また、授業支援システム、学習達成度自己評価システムの利用方法について説明する。
2	高機能メカトロデザインとは（田中教授）	環境と調和した高機能なメカトロシステムをデザインするための、人ともとのコンピュータの間のメカニズムやインタフェースについて説明する。
3	インタフェースデザインとは（土屋教授）	操作の身体的・認知的負荷の軽減はもとより、使う楽しさや操作の魅力などの高度な感性価値実現に向けたインタフェースデザインについて説明する。
4	キャリアデザインガイダンス （田中教授・キャリアセンター）	システムデザイン学科の学生が将来、どのような職業につきキャリアを積んで行くかについて実例をもとに説明する。

5	アントレプレナーシップデザインとは（姜教授）	社会に新しい価値や変革をもたらすアントレプレナーシップ（起業家精神）をコアとして、個人の創造性がイノベーションに変わるプロセス、イノベーションを実現する環境やマネジメントについて説明する。
6	ビジュアライゼーションデザインとは（大西教授）	身の回りには五感で感じられる情報ははじめ、大量な統計データやものごとの仕組みなど、目に見えない多様な情報が存在する。それらから伝えるべき価値を発見し、何をどのように視覚化するかについて説明する。
7	最適化マネジメントデザインとは（野々部教授）	「製品やサービスをつくり、顧客に届ける。」この一連の活動に求められる品質、費用、環境負荷、顧客満足度などさまざまな指標の最適化を実現する手法について説明する。
8	情報マネジメントデザインとは（西岡教授）	モノづくりにおけるモノと人と環境との総合的なデザインを生かすためのマネジメントについて、情報ソフトウェアの視点から講義を行う。
9	ヒューマニティデザインとは（安積教授）	生活・文化に関する考察分析を起点とし、社会に新たな価値を問うデザインについて説明する。
10	アフェクティブデザインとは（ソン教授）	人間の感情・情緒・感性に働きかけるインタフェースをデザインするために、関連する最新テクノロジーについて説明すると共に、複雑な人間感性を理解するための多面的な研究方法について紹介する。
11	スマートマシンデザインとは（岩月教授）	機械に外部環境を認識させることにより、実世界と融合した高次の情報を提供するインタフェースや従来実現できなかった機能をもつデバイスについて説明する。
12	メカニズムデザインとは（山田准教授）	人間や周辺環境を含めたシステム全体の調和、多様性やロバスト性を生み出すメカニズムデザインについて説明する。
13	外部講師による講演 1	外部からクリエイション・テクノロジー・マネジメントのプロフェッショナルをお招きし、話を伺う。
14	外部講師による講演 2	外部からクリエイション・テクノロジー・マネジメントのプロフェッショナルをお招きし、話を伺う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系分野野関係をよく理解し、ものづくりに関する様々な事柄について予備知識を身につけておく。

小論へのまとめ方について、自分の考えを適切に伝達できるよう文章力を高めること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、必要に応じて配布

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

各回の小論テーマ記述：合計100点

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, students aspiring to study the new field known as "system design (SD)" are encouraged to ask questions of what exactly is system design, what is gained by studying it, and what should be done to prepare for the future. As a new subject different to previous academic fields, system design is continually changing and progressing. For the purpose of obtaining independent ideas of what it means to "create", in this course students will first understand the overall concept of system design, learning concepts from creative, technological and management backgrounds.

Grading will be decided based on each lab reports.

PRI200GA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。

また、自然言語処理技術の研究開発の実務に携わっている講師が、現在チームとなっている生成AIに使われている確率統計の考え方を紹介したいと思います。

【到達目標】

- ・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・データを解釈する方法を身につける
- ・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
- ・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価の対象ではありませんが、次の回以降の授業は宿題の理解を前提として進めますので、次の回までに必ず自分で解いてみて下さい。

また、中間試験・期末試験（「成績評価の方法と基準」を参照）の採点について、単なる答え合わせでない内容の解説を行うために、中間試験に関しては授業中に詳しい解説の時間を確保します。期末試験に関しては、学習支援システム上に解説資料を掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとデータの理解方法1	授業の進め方についての説明・数値データの可視化・度数分布表とヒストグラム
第2回	データの理解方法2	データの代表値とその性質
第3回	データの理解方法3	散布図と相関係数
第4回	データの理解方法4	回帰分析
第5回	確率1	確率の定義
第6回	確率2	確率の様々な計算方法
第7回	中間試験・確率3	第1回から第6回までの授業内容に関する試験・条件付き確率
第8回	確率4	中間試験の解説・条件付き確率・ベイズの定理
第9回	確率分布1	確率変数と確率分布
第10回	確率分布2	期待値と分散
第11回	確率分布3	二項分布
第12回	確率分布4	連続型確率変数と正規分布
第13回	確率分布5	確率分布の応用
第14回	期末試験・まとめ	期末試験・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、本授業のそれぞれの回は前回までの宿題の内容の理解を前提として進めます。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】

以下の参考書をお勧めします。

"経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ", 竹内広直著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う中間試験と期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、中間試験30%、期末試験70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評ですので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。電卓がないと計算できないような問題は演習内では扱いませんが、授業に電卓などの情報機器を持ち込んでも構いません。ただし試験（中間試験・期末試験）での情報機器の持ち込みは不可です。

【その他の重要事項】

担当教員は、情報科学技術の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。これらの技術分野では確率統計の知識が必須です。本授業で学ぶ内容がどのように役立てられるのか、授業内で紹介したいと思います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

【Learning Objectives】

Students should be able to do the followings at the end of this course:

- Master basics of data visualization (graphs)
- Understand some ways of interpreting results of data analytics
- Understand basic statistical values (mean, variance, correlation coefficient, etc.)
- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUI200GA (人間情報学 / Human informatics 200)

システム論

甲 洋介

サブタイトル：人の営みと文化を的確に捉える、システムという考え方

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● あなたの身近な「システム」たち

コンピュータやSNSばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの「システム」に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

● 「家族」もシステム？

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国籍関係にしても、うまく機能している間は人々は気づかない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかなくなった時に問題は顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。

システムとは何か。文化の中の様々な物事をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きほぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、「家族」や「社会」も一種のシステムである。たとえば「家族」とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅するとか変わるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対するquestionsを整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらを発見する作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

- ・まずシステムの基本的な考え方を学び、要点を理解できるようにになる。
- ・次に、簡単な事例であれば、「システムの考え方」を用いて、問題を解きほぐしながら複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導く方法を組み立てられるようになる。
- ・本講義を終える頃には、社会の、またはあなたが着目する一見複雑に見える問題に対し、その問題を捉えやすく整理し直し、システムの考え方を用いて、自分なりの答えを系統立てて考えられるようになる、ことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。

- (1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション (約15分)
 - (2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説 (65分)
 - (3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成 (20分)
- 講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭(1)で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義(2)につなぐ。各自の内容理解を小演習(3)で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	システムは難しくない。本講義の狙いと、進め方
第2回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか

第3回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第4回	システム、という考え方	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第5回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムから捉えると、システムの見え方、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第6回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムの視点から理解すると
第7回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第8回	人と道具のシステム論 －文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第9回	社会というシステム ～個人から社会へ（パーソナルの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第10回	社会のシステム論(1) －ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第11回	社会のシステム論(2) －コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや「分化」をどのように捉えるか
第12回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第13回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第14回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いている。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

- ・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトウラーナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

- ・レポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60%）、
- ・期末レポートまたは期末試験（40%）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きほぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会、表象文化の専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory.

By the end of the course, students should be able to practice basic principles of "Systems Thinking," and to re-examine some selected social issues by applying the methods of "Systems Thinking".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (40%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (60%).

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ITを過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとにITの本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義はPowerPointと教科書を用いて行う。PowerPointの資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自学習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化
2回	情報の伝達	デジタルの利点と欠点 インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4回	安全な通信と暗号その1	安全な通信の要件(機密性と安全性) 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5回	安全な通信と暗号その2	安全な通信の要件(認証と否認防止) 電子署名 認証局と公証局
6回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTMLとXML

7回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12回	3次元CG、デジタルマップとGIS	3次元GC デジタルマップとGIS
13回	サイバービジネス、ユビキタスコンピューティング	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタスID
14回	人工知能、データサイエンス	人工知能、データサイエンス

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業で使用するPowerPointの資料(学習支援システムで配布する)

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版(2000)、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点10%、期末試験50%、レポート40%

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り(冬休み明けの最初の授業の日)までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPointを使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.

Grading Criteria

Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.

Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.

The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

FRI200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

文化情報学概論

前田 圭蔵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】 / Outline and Objectives

現代の情報社会では、物だけでなく知識や情報そのものが価値をもち、この傾向はデジタル化した社会やインターネットの普及などでますます増大している。それにとめない、現実世界だけでなく、デジタルワールドやインターネット上での情報の取り扱い、「情報倫理」(information ethics) や「パブリック・リレーションズ」(主体と公衆の理想的な関係構築)の問題としても認知されている。

本授業では、ポピュラー音楽や映画など、主に20世紀以降のサブカルチャーにおける作品やアーティストとその背景などを解説しつつ、それに関連した「情報倫理」や「パブリック・リレーションズ」の基本的な考え方について学び、ディスカッションやディベートなども行う。

【授業の意義】

音楽や映画、演劇やダンス、美術や写真、果ては文学など、ほぼすべてのアートアンドカルチャーが、“文化情報”として生産され、流通し、消費されている現代社会。さらに、インターネット・メディアの発達で、芸術文化を取り巻く環境に大きな変化が生じている。複製や流通が飛躍的に容易になった今、いかなる「情報倫理」が求められているのか。また、いかなる「パブリック・リレーションズ」の構築が可能なのか？ プライバシー侵害や著作権処理の問題、相互監視社会の強靱化などに晒される昨今、サブカルチャーの具体例を学びながら、同時に、問題解決に必要な「情報倫理」や「メディア・リテラシー」「パブリック・リレーションズ」についての基礎的な考え方を身につける。

【到達目標】

- (1) 主に1960年代以降のサブカルチャーにおける具体的事例を取り上げながら、21世紀の現在に至るまでの歴史のトピックスを検証し、それらの「情報倫理」の在り方を学習する。
- (2) 「情報倫理」と「パブリック・リレーションズ」の構築について具体的事例と共に考え、視覚文化や聴覚文化を含む情報文化領域への新しいアプローチの糸口を発見する。
- (3) 身近にあるサブカルチャーの歴史の一端を一般教養として身につけ、それらの社会や個々の価値観への影響やその未来について研究する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。

- (1) 基本的には「講義形式」で行いますが、AV機器を使用した音楽鑑賞や、受講生との対話や討議も行います。
- (2) 具体的なアーティストや、アーティストの表現事例について、音源や映像、図版や書籍なども使用します。また、諸作品についてさまざまな解釈や背景の説明などを行い、また受講者と議論もしていきます。
- (3) 必要に応じて、課外授業としてのフィールドワークや観劇体験なども行う可能性があります。(自由参加型)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明

第2回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ①	・ポピュラリティ／大衆性
第3回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ②	・テクノロジー／ミニマリズム
第4回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ③	・アナログとデジタル
第5回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ④	・コマーシャルリズム／キャピタルリズム
第6回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑤	・ポエジー／詩 I (続編としてIIあり)
第7回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑥	・ポエジー／詩 II
第8回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑦	・ジェンダー／セクシュアリティ
第9回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑧	・コロナリズム／ポスト・コロナリズム I アフリカの事例
第10回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑨	・コロナリズム／ポスト・コロナリズム II ラテンアメリカの事例
第11回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑩	・レイス／民族
第12回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑪	・ダンス／身体
第13回	まとめ	・「情報倫理」の現在と未来(ディスカッション形式)
第14回	まとめ	・「パブリック・リレーションズ」の可能性(ディスカッション形式)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがありますので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に、特定のテキストは用いませんが、講師が用意したテキストの抜粋などを事前に読んできてもらう、もしくは授業内で配布してその場で読んでもらうことがあります。

【参考書】

- ・情報倫理学入門 ナカニシヤ出版2004年 越智貢 編
- ・ミニマル・ミュージック-その展開と思考- 青土社2008年 小沼純一 著
- ・ピアソラ 河出書房新社 1997年 小沼純一 著
- ・東京大学のアルバート・アイラー〈東大ジャズ講義録・歴史編〉メディア総合研究所 2005年 菊地成孔/大谷能生 著
- ・東京大学のアルバート・アイラー〈東大ジャズ講義録・キーワード編〉メディア総合研究所 2006年 菊地成孔/大谷能生 著

【成績評価の方法と基準】

- (1) 質疑などを行うことで授業の理解度を確認する。
 - (2) 学期末にレポート提出を課すことで、授業における達成度を測る。
 - (3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。
※ 両者の結果から総合的に判断する。
- ちなみに、配分は下記の通り。
- (1) 期末レポート (60%)
 - (2) リアクションペーパーによる平常点 (40%)
- ※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

・本講義では、サブカルチャーを軸に「情報倫理」と「パブリック・リレーションズ」の構築について取り上げます。「文化＝カルチャー」は「社会」の鏡とも言えます。「倫理 (ethics)」というキーワードを軸に、文化がもたらす社会的影響や、逆に社会が文化にもたらす影響について、考察を深めていきましょう。

・インターネットやマスメディアで流通する情報とそれによって形成される価値観だけに頼らず、未知なるものや新たな価値の発見につながるきっかけとしてください。ゆえに本講義では、文化というフィルターを通して思考を巡らせ、既存の価値観に捉われることなく、変化や発見を探求できる学生の参加を望みます。

【注意点】

・議論は大いに推奨しますが「私語」は厳禁です。また居眠りも「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In today's information society, not only objects but also knowledge and information itself have value, and this trend is increasing with the spread of digital society and the Internet. This trend is increasing with the spread of digital society and the Internet. Accordingly, the handling of information not only in the real world but also in the digital world and the Internet has been recognized as an issue of "information ethics" and "public relations" (the construction of ideal relationships between subjects and the public). In this class, students will learn the basic concepts of "information ethics" and "public relations" related to the works and artists in the world and Japanese subcultures since the 20th century, such as popular music and movies, and their backgrounds, while also participating in discussions, debates, etc. Discussions and debates will also be held.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine information ethics and public relations.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 60%、in class contribution: 40%

FRI200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

情報産業論

今和泉 仁

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の概要】

現代生活において、情報産業やメディア産業は非常に重要な役割を担っている。また情報産業は、高度に技術革新することにより、常に変化し続けている。これらの構造や課題、将来を理解することは、消費者やビジネスマンとして、技術や市場トレンドの動向に対応して、より良い判断をするために重要である。本講座では、メディアを中心とする情報産業における産業構造、ビジネスモデル、問題点、未来の展望などを理解することを旨とする。授業の中では、業界トレンド、テクノロジーの進化、市場動向、企業戦略などについて学習することができる。

【授業の目的 (何を学ぶか)】

1. メディア産業の変遷と現状：過去から現在までのメディア産業の変遷を追う、現在のメディア産業の状況を理解する。
2. メディア技術の変革：情報技術の進歩によって、メディア産業にもたらされた影響と、それによって変革されたメディア技術、その光と影について理解する。
3. メディアビジネスモデル：新たなメディア技術に伴い、メディアビジネスモデルが変革していることを理解する。また、有料・無料・広告収入などのメディアビジネスモデルの種類と特徴について学ぶ。
4. メディア業界のグローバル化：メディア産業はグローバルな市場を持つようになっており、欧米におけるメディア産業の状況と、国内市場に与える影響、各国間でのメディアの共有・流通に関連する課題について理解する。

【到達目標】

下記の各項目についてデジタル技術がもたらしたメディア産業全体への変化を理解する

- 4K/8K、HDR、VoIP、クラウド・プロダクションなどの放送を変革する技術動向への理解
- CES、MWC、NAB、IBCなどの海外見本市からメディア関連産業がどのように変容しようとしているのかについての理解
- OTT、SVOD、AVOD、FAST、D2Cなどの新しいメディアビジネスモデルの理解
- NetflixやDisney+などの欧米のメジャープレイヤーとTVerやAbemaなど国内の事業者の現状への理解
- IoT、生成AIなどの技術が自動運転、スマートシティ等のメディア産業以外の業界に与える影響についての理解
- インターネットによるメディア産業への負の影響としての違法配信とその対策についての理解
- 地球温暖化対策が求められる中でメディア産業の対応の状況と将来の課題への理解
- 放送事業者にとってのdigital-firstとは何か、放送の将来像への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業については対面授業を基本とし、基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用してPCでのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介いたします。講師が参加するCES（米国ラスベガスで1月開催）、Mobile World Congress（スペイン・バルセロナで2月開催）、NAB（米国ラスベガスで4月開催）、IBC（オランダ・アムステルダムで9月開催）などのメディア系海外見本市で取材した最新動向、海外のスタートアップ企業への取材結果など、他では得られない生の情報を紹介いたします。一方的に情報を伝えるだけでなくできるだけアクティブな授業としたいので、毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次回の授業冒頭で答えていく形を基本とします。また、例年5月末に開催されているNHK放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開に各自参加してもらい、持ち出し授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル技術とメディアの変遷	自己紹介を兼ね、講師が担当した様々な放送・メディア関連事業からメディアの変遷やトレンドの全体像について触れる
第2回	放送事業を変革する最新技術の理解	4K/8K、HDR、VoIP (Video over IP)、クラウド・プロダクション等、今日の放送事業に大きな影響を与えている技術動向を紹介
第3回	コンテンツ販売ビジネスについて知っておくべきこと	放送コンテンツの二次利用としてのコンテンツ販売における著作権処理、メディア素材の管理、デリバリー方法などについて知る
第4回	NetflixとVOD事業の構造	Netflix、Amazon Prime Video等のVOD事業の構造、変遷、トレンド、Netflixがメディア産業に与えたインパクトについて理解する
第5回	海外のメディア関連見本市から①	最新エレクトロニクス展示のCES2024とモバイル技術展MWC2024から
第6回	NHK技研公開持ち出し授業	5月下旬に開催されるNHK技研公開に各自参加し、そこで見たものについてレポートを提出
第7回	IoTと自動運転、スマートシティ	モノのインターネット (IoT) 技術や自動運転技術などで未来の都市はどうか変わっていくのか
第8回	海外のメディア関連見本市から②	欧州の放送機器展 (IBC2023) と米国の放送機器展 (NAB2024) から
第9回	バーチャルプロダクションの世界	バーチャルプロダクションとは？その背景技術とトレンドを紹介
第10回	メディア産業のネットゼロ対策	コンテンツ制作時における温暖化ガス排出量削減を図るための諸外国の取り組みと日本の現状について紹介
第11回	メディアビジネスとAI	ChatGPTやBard、DALL-Eなどの生成AIがメディアビジネスに与える影響
第12回	Connected TVとFASTチャンネル	Connected TVとFASTが変える広告マーケット 放送はこれからどう変わっていくのか
第13回	ストリーミングによる負の影響・違法配信の実態と対策	日本の放送が海外でも視聴できてしまう・著作権を無視した違法配信の実態と、それに対する対策について紹介
第14回	前期授業のまとめとレポート課題の説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、国内の各メディア・サービスの状況について、実際に利用し、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。毎回パワーポイントのスライドや動画を活用します。

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。TVer、Abema TVなど国内で提供されているメディア関連サービスを実際に体験しておくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、期末レポート (30%) によって成績を評価します。レポート提出は必須です。期末レポートを提出しない場合は出席点があっても合格としません。期末レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解し自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果になったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成したと判断した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義終了後に、メモで授業の感想と質問を提出してもらいます。感想や質問については、基本的に次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、NetflixやAmazon Prime Videoなどの有料サービスに体験加入して見ることをオススメします。

【その他の重要事項】

パワーポイントのスライドや動画を多用し、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業とする予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The information and media industries play a very important role in modern life. In addition, the information industry is constantly changing due to high levels of technological innovation. Understanding their structure, challenges and future is important for making better decisions as consumers and business people in response to technological and market trends. This course aims to provide students with an understanding of the industrial structure, business models, issues and future prospects in the media and other information industries. During the course, students will learn about industry trends, technology evolution, market trends and corporate strategies.

Objectives of the class (what you will learn).

1.The evolution and current state of the media industry: to follow the evolution of the media industry from the past to the present and to understand the current state of the media industry.

2.Understanding the impact of advances in information technology on the media industry, and the ways in which media technology has been transformed by these advances, its lights and shadows.

3.Media business models: understand how media business models are being transformed by new media technologies. Also, learn about the types and characteristics of media business models such as paid, free and advertising revenue.

4.Globalisation of the media industry: the media industry has become a global marketplace, and students will understand the state of the media industry in Europe and the US, its impact on domestic markets, and issues related to the sharing and distribution of media between countries.

[Learning activities outside the classroom].

To deepen your understanding of the current development of media services on a daily basis by always being interested in newspaper, television and internet news sites. To deepen your understanding by revising the questions answered in class and the materials distributed. The standard study and revision time for each lesson is 2 hours.

[Grading Criteria / Guidelines]

Grades are determined by class attendance (40%), number of questions submitted per class session (10%), a short report on the NHK Science & Technology Lab Open House (10%), and an end-of-term report (40%).

FRI200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。

本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常生活に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、対面で行います。感染症の拡大などあった場合にはリアルタイムオンライン講義を実施することもあります。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介し、プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。

期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ECなどのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。

8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。
9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネット文化論のまとめ	12回までの講義のエッセンスをまとめて補足説明します。
14	ネットワーク時代の金融サービス	ネットワークやAIが金融サービスに与えた影響について講義します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介し、各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。ネット文化に関するニュースやWebサイト等を日頃から関心を持って読み聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末試験または期末レポート：70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。
2. 平常点：15%
講義への関心、参加度を評価し平常点とします。
3. ミニレポート15%
毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。
この成績評価をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面講義としますが、感染症の拡大などによりリアルタイムオンライン講義で実施する場合があります。そのためZoom等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】

本講義は原則として対面で行います。対面での参加ができない場合には各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半をPDFで配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。

【Outline (in English)】

-Course outline

This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of "information network society."

-Learning Objectives

In order to act rationally in the ever-changing Internet society, the goal of this course is to acquire the way of thinking to continuously construct criteria for selecting information that is important to oneself. The course also aims to enable students to logically explain their own opinions on the cases of the Internet society dealt with in the lecture, and to set up issues and consider solutions.

-Learning activities outside of classroom

In the first lecture, I will introduce the areas covered in this course and the lecture themes for each session. Students are expected to pay attention to events related to each lecture theme on a daily basis, and to prepare and review for the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read, listen to, and think about news and websites related to Internet culture with interest on a daily basis, and reflect them in the mini-report to be submitted at the end of each lecture and in the final assignment.

-Grading Criteria /Policy

Students will be required to take a final exam or submit a report to receive credit. Grades will be based on the following ratio:

1. Final exam or report: 70%.

Students are required to logically describe their own opinions on topics related to Internet culture through lectures. You will be informed during the lecture whether you will be given an exam or a report.

2. Ordinary points: 15%.

Students will be evaluated on their interest and participation in the lecture.

3. Mini-report: 15%.

Students are expected to understand the content of each lecture, and submit a mini-report describing their opinions on questions related to the lecture content.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

ART200GA (芸術学 / Art studies 200)

表象文化概論

岡村 民夫、林 志津江、甲 洋介、竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「表象文化」とは人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを指します。各講義では、演劇、音楽、非言語的コミュニケーション、建築などの領域を扱いますが、特定の分野にとらわれず芸術や文化、社会について横断的に検証していきます。それらの表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが「表象文化概論」です。

4人の教員による4分野の表象を扱いつつ、表象文化論の基本について学ぶことを目的とします。

【到達目標】

この講義は、入門科目「国際文化情報学入門・表象文化コース」からつながる学びのプロセスとなります。この講義を通じて表象文化に関する多様な考え方を理解し、各専門科目でさらに踏み込んだ研究を継続することが望ましいと考えます。各講義を通じて各自の関心のある領域で今後の専門研究が進められるように導きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回は、四名の担当教員が各自の講義について詳しく解説します。第2回～第13回までは、各担当教員が3回ずつ講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。第14回は応用編として、四名の担当教員がそれぞれの研究分野について紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の4名の担当教員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第2回	舞台表現論（1）：声 担当：竹内晶子	声が舞台上で持つ力について考察する
第3回	舞台表現論（2）：声 と日本演劇 担当：竹内晶子	日本演劇の特徴を、西洋演劇との比較を通じて考察する
第4回	舞台表現論（3）：所作 担当：竹内晶子	舞台上の所作と現実の所作は何か違うのか、記号学的に考察する
第5回	欲望の音楽（1）：「私が主人公」 担当：林志津江	合唱とフランス革命と「第九」、市民階級と啓蒙の世紀、「私の思いを音楽に託す」作曲家
第6回	欲望の音楽（2）：ヴィルトゥオーゾと国民学派的19世紀 担当：林志津江	芸術家か職人か？、作曲家と演奏家の分離、「『美しい』芸術が私の人生を充実させる？」

第7回	欲望の音楽（3）：アイデンティティあるいはプロパガンダ 担当：林志津江	ミニストレルショーからトーキーへ、録音術が決定的に変えたもの、戦争と近代オリンピックと音楽のゆくえ
第8回	非言語の豊かな世界 担当：甲洋介	言葉にならない、言葉にしない、言葉になる前のコミュニケーション
第9回	ダンス？ 身体による繊細なおしゃべり 担当：甲洋介	社会的相互的作用としての空間行動
第10回	主役は意識の中心から周辺へ… 担当：甲洋介	家族の非対称なつながりをさりげなく支える『周辺のコミュニケーション』
第11回	モダニズム建築の始まり 担当：岡村民夫	ル・コルビュジエとフランク・ロイド・ライト
第12回	日本のモダニズム建築 担当：岡村民夫	前川国男と丹下健三
第13回	ヴァナキュラーな建築 担当：岡村民夫	関東大震災後のバラックと看板建築
第14回	表象文化概論発展編 担当：全員	四人の教員が、それぞれの研究分野について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業全体を通して用いるテキストはありません。各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】

参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

各担当者が担当回の成績を25点満点で示し、合計で100点満点で成績をつける。

平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・初回のガイダンスにかならず出席してください。初回の授業の課題提出が選抜試験を兼ねるので、受講希望者の初回授業の出席は必須です（受講者数上限は今年度授業実施教室の収容可能人数と同数）。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: This is an introductory course of the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, music, nonverbal communication, and architecture. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

・ Learning Objectives: On the basis of the skills and perspectives acquired in the 'Introduction to Intercultural Communication', students will be expected to understand various ideas of representational culture to use for further study in the advanced courses. Four instructors will help students find interesting subjects they can explore in a more specific field.

・ Learning activities outside of the classroom: Follow the instructions provided by each instructor.

・ Grading Criteria/Policy: Four instructors will give students marks in their own way, and the sum of the marks will be the final. For a detailed scoring policy, ask each instructor.

DES200GA (デザイン学/Design science 200)

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次/単位：1～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下3点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性と問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持つるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この科目は、おおむね2回の授業で1つのテーマを扱い、各テーマについて対面授業による説明や解題、質疑、受講生のコメント紹介、映像の鑑賞、簡易なグループワークなどを行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

*

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNSなどの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第2回	メディアとは何か-1	メディアとは何か？ 何がメディアになるのか？
第3回	メディアとは何か-2	何がメディアになるのか？ メディアの類型（タイプ）
第4回	コミュニケーションとは何か-1	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（1） ：物理的環境/社会的制御など

第5回	コミュニケーションとは何か-2	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（2） ：多層性・文脈など
第6回	情報（ニュース）-1	情報とは何か？ どんな要件を満たせばニュースになるのか？ 社会におけるニュースの役割・機能
第7回	情報（ニュース）-2	マス・メディアの報道におけるニュースの要件
第8回	ふりかえりレポート-1	第1回～第7回のふりかえりレポート
第9回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR）/近年の推奨コミュニケーションの問題
第10回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第11回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第12回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第13回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実/フェイクニュースの拡散と影響など
第14回	まとめ ふりかえりレポート-2	1. 情報源＝メディアを識別して扱う 2. 「ファクトチェック」を行う 3. メディアと感情 4. メディアのはたらきをどう考えるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) インターネット、マスメディア、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の1回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・稲増一憲『マスメディアとは何か 影響力の正体』中公新書、中央公論社、2022年
- ・法政大学大学院メディア環境設計研究所編『アフターソーシャルメディア 多すぎる情報といかに付き合うか』日経BP、2020年
- ・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義——メディアロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論1』北樹出版、2005年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレットNo.982、岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約40%）、ふりかえりレポート（2回：約60%）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8割以上の小課題の提出、2回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

さまざまなメディアやコンテンツに興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、対面授業、授業内課題、ふりかえりレポートの3つで成り立つ。テーマについて高い関心を持ち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline (in English)】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

*

Learning Objectives

- (1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.
- (2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.
- (3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

*

Learning activities outside of classroom

- (1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.
- (2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).
- (3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

*

Grading Criteria/Policy

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

ART200GA (芸術学 / Art studies 200)

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選
を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡
しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーミング・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。

本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部 「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。

第二部 「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくことと回答します。

授業の方法

授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、 写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代 I フォービズム、表現主義、 キュビズム	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイデアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第4回	アバンギャルドの時代 II 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア 構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイデアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワーク ショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代 I、アバンギャルドの時代 II の復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ボーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。	第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ(性的少数者)を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パブニング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ボーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、パフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。	第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖化と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に對話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャルリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前後にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、「ヤング・プリティッシュ・アーティスト」(YBA)と「リレーショナルアート」についての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。	第13回	感染症パンデミックの時代	2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにあってはパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第9回	ワークショップ2 単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代/市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。	第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることとなります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。			

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimental and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

LIT200GA (文学 / Literature 200)

比較文化

岩下 弘史

配当年次 / 単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業 / Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ポストコロニアリズム、オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」にも目くばせをしながら、比較文学・比較文化に必要な基礎を学ぶとともに、それらの理論を文学や映像作品など実際の芸術作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】

文化を比較するにあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。

授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、様々な「理論」を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。

また「理論」は必ずしも文化を理解するのに万能ではありません。「理論」の限界とそれ以外の文化研究の手法についても学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎週、課題を読み、講義を聞いて講義についての課題を提出することが必須です。

次の授業冒頭では皆さんが提出した回答をとりあげて、様々な視点をまとめていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。
2	比較文学・比較文化研究の歴史・概要	比較文学・比較文化研究の歴史・概要について理解する
3	比較文学研究と関わる「理論」について①	比較文学研究と関わる「理論」、主にポストコロニアリズムについて学ぶ
4	比較文学研究と関わる「理論」について②	比較文学研究と関わる「理論」、主にフェミニズムについて学ぶ
5	文学と思想のかかわり①—夏目漱石の『こころ』と心霊研究との関わり	夏目漱石の『こころ』と心霊研究との関わりについて学ぶ
6	文学と思想のかかわり②—夏目漱石の『三四郎』とフェミニズムとの関わり	夏目漱石の『三四郎』と同時代思想ならびにフェミニズムとの関わりについて学ぶ
7	国境を越える芸術作品—翻訳研究① (谷崎潤一郎『痴人の愛』、吉本ばなな『キッチン』などについて)	翻訳研究の実践から学ぶ
8	国境を越える芸術作品—翻訳研究② (川端康成『雪国』の場合)	翻訳研究の実践から学ぶ
9	国境を越える芸術作品—翻訳研究③ (『雪国』フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』と村上春樹らによる翻訳の検討)	翻訳研究の実践から学ぶ
10	アダプテーション研究—ジャンルを越境する文化① (『グレート・ギャツビー』の映画化についての背景)	アダプテーション研究や理論の概要を学ぶ

11	アダプテーション研究—ジャンルを越境する文化② (『グレート・ギャツビー』原作と映画の比較)	アダプテーション研究の実際の例を見て学ぶ
12	アダプテーション研究—ジャンルを越境する文化③ (英米テレビドラマの比較)	アダプテーション研究の実際の例を見て学ぶ
13	比較文化研究の紹介—比較文化研究の実践に学ぶ	比較文化研究の実際の例を見て学ぶ
14	まとめ	授業のまとめをおこないつつ、期末レポートの書き方を指導する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・講義内容に関する毎週の課題を Hoppii に提出する。
- ・4回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
- ・本授業の準備・復習時間は、約4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になのですが、各回に用いる資料は Hoppii を通じて配布します。

【参考書】

松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』(世界思想社、1995)、佐々木英昭編『異文化への視線—新しい比較文学のために』(名古屋大学出版会、1996)、Ben Hutchinson, *Comparative Literature: A Very Short Introduction* (Oxford UP, 2018) など。その他適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎週の課題ならびに授業への参加 (平常点) : 40%
- ・期末レポート : 60%
- ・100点満点で60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

もう少しコメントを書く時間をとりたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業内に Hoppii にて課題を提出してもらうので、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを持参してください。

【その他の重要事項】

受講者の人数や進度によって扱う題材に若干の変更があるかもしれません。あらかじめご了承ください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, students will learn the basics of the comparative literature and culture and finally how to analyze literary works and movies.

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze literary works and movies in various viewpoints.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments and active participation in class discussion: 40%
Term paper: 60%

LIT200GA (文学 / Literature 200)

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つけ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接なかかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／イントロダクション	授業計画の説明＋4つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第1章）（リアルタイムオンラインで実施）
2	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
5	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第5章）
6	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
7	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
8	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
10	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）
11	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）

12	「人文知」のあり方の転換(1)	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
13	「人文知」のあり方の転換(2)	ポスト・ヒューマニズムをめぐって
14	学期授業の総括	学期末試験・振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）

※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】

・岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）

・石田英敬『記号論講義——日常生活批判のためのレッスン』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2020年）

※その他、授業で随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50％）をあわせて評価します。評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
 - 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
 - 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
 - 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。
- ※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者による自発的・主体的な問題発見や取り組みをさらに促すように努めたい。またクラス規模を考慮したうえで、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて授業支援システムを利用します。小テスト等で利用しますので、授業にデバイス端末（PCやタブレット）を持参してください。

【その他の重要事項】

・初回授業はリアルタイムオンラインで実施します（詳細は秋学期開始時に学習支援システムに掲示します）。万一受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづき選抜をおこないますので、履修希望者は初回授業に必ず出席してください。
・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

【Outline (in English)】

This course outlines the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called "linguistic turn" on the humanities. The goals of this course are to obtain basic knowledge of 20th-century cultural and social theories and theorists, to understand the inextricable relationship between language and culture, and to have a critical awareness toward the issues of the contemporary world. Students are expected to come to class well prepared by completing the required assignments; the required study time is more than four hours per class. The overall grade will be decided based on class participation (50%) and the final examination (50%).

PHL200GA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想

押山 詩緒里

サブタイトル：ハンナ・アーレントの政治哲学——想像力の可能性

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は「現代思想 (contemporary thought)」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代 (contemporary)」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること (philosophical thinking)」が「現代思想」という科目の目的である。

私たちの生きている世界は、多様な価値観、多様な文化、多様なアイデンティティ、多様な「意見」によって構成されている。多様さは、一方で人間存在の豊かな可能性の現れであるが、他方で異なる価値観の間で摩擦を生じさせ、誤解と対立を招く原因でもある。

こうした人間の多様さについて思索をしたのが、20世紀を代表する政治哲学者の一人であるハンナ・アーレント (Hannah Arendt, 1906-1975) である。本授業は、アーレントの『人間の条件』(1958)を基本的なテキストとして、「異質な他者と共に生きること」の意味について考える。

アーレントによれば、多様な人々の間で構成される公的空間は、自分とは異なる他者の立場について自分自身の頭で考える「想像力 (imagination) の働きによって構成されている。

なぜアーレントは、想像力と公的空間の重要性を主張したのだろうか。それは、「誰もが公の場所に姿を現し、声を発すること」ができなくなったとき、どれだけ悲惨で、非人間的な事態が起こるのかを、自身の体験とともに知っていたからである。その最も象徴的な事例は、20世紀のナチスドイツ政権下で行われた大量虐殺であり、絶滅収容所であった。

本授業では、政治的な想像力が、私たちの「生」にとってどのような意味をもっているのかを考えていく。アーレントのテキストを読み解くことによって、受講者一人ひとりが自分自身の問題に引きつけて思考する力を磨くことが授業の目的である。

【到達目標】

- 「哲学的に考えること (philosophical thinking)」ができるようになる。
- 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要説明 ・ハンナ・アーレントとは誰か？
2	想像力の政治哲学	・想像力の放棄と「悪の陳腐さ」について
3	『人間の条件』①	・人間存在の公共性と「かけがえのなさ」
4	『人間の条件』②	・政治 (politics) とはなにか？
5	『人間の条件』③	・労働 (labor) について
6	『人間の条件』④	・仕事・制作 (work) について
7	『人間の条件』⑤	・活動・行為 (action) について
8	『人間の条件』⑥	・「唯一であること」と「多様であること」の相互関係について
9	『人間の条件』⑦	・「現れの空間」の儼さについて
10	『人間の条件』⑧	・行為の不可逆性と赦しについて
11	『人間の条件』⑨	・行為の予測不可能性と約束について
12	「異質な他者」との共存は可能か？	・レッシング『賢者ナータン』とアーレント
13	現代的な意義と課題	・政治的想像力の可能性
14	授業のまとめ	・全体の総括と質疑応答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

- H・アーレント『人間の条件』志水速雄訳、筑摩書房、1994年
- Hannah Arendt, *The Human Condition*, 2nd ed., introduction by Margaret Canovan, University of Chicago Press, 1998. (2018年刊行のものでもよい)

【参考書】

- E・ヤング=ブルーエル『なぜアーレントが重要なのか』矢野久美子訳、みすず書房、2008年。
 - M・カノヴァン『アレント政治思想の再解釈』寺島俊徳・伊藤洋典訳、法政大学出版局、2004年
 - G・E・レッシング『賢者ナータン』丘沢静也訳、光文社、2020年
- ※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験・レポート (30%)、授業内レポート・レジュメ (30%)、平常点 (40%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に学習支援システムを利用することがあります。授業前後に確認してください。

【その他の重要事項】

- 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
- テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
- テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

【関連科目】

春学期の「文化情報の哲学」では、アーレントの政治哲学を「真実らしさと嘘」という観点から、より具体的に考察しています。可能であれば一緒に受講することを推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. Modern society is composed of plural values, plural cultures, plural identities, and plural opinions. Plurality, on the one hand, is a manifestation of the rich possibilities of human existence, but on the other hand, it gives rise to misunderstandings and conflicts between different values.

Hannah Arendt (1906-1975), one of the leading political philosophers of the 20th century, considered plurality of human being. This course aims to study meaning and problems of "living with other", using Arendt's *The Human Condition* (1958) as the basic text.

According to Arendt, the public space composed among plural people is constituted by imagination, the ability to think in one's own mind about the position of others who are different from oneself.

Why did Arendt insist on the importance of imagination and public space? Perhaps it is because she knew from her own experience that the loss of freedom of voice and public space causes tragic and dehumanizing situations. The most symbolic example of this was the genocide and extermination camps under the Nazi regime in the 20th century.

The purpose of this course is to consider what the imagination means for our political life. By reading Arendt's text, students will be expected to develop the ability to think for themselves about a variety of issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%.

GDR200GA (ジェンダー / Gender 200)

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次 / 単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業 / Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】 初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月10日(水)までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日(水)にアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月11日(木)の午前10時です。4月13日(土)に抽選結果をHOPPIIでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●ジェンダー研究において重要な諸概念(母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリティなど)を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。

●一次資料の簡単な分析を行ってまいります。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。

●毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形で提出してまいります。

●提出されたリアクションペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル (role model)」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①<男らしさ>を相互行為論(アーヴィング・ゴフマンのドラマトウルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャルティ)の概念から考察する。 ②ホモソーシャルティ(男同士の絆)と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。

4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー(ロマンティック・ラブ、母性、家庭)について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』(作品社、1996年)。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006年）。

千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。

江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・ステディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。

伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月10日（水）までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望する方は、4月10日（水）にアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月11日（木）の午前10時です。抽選結果は4月13日（土）にHOPPIIでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.

Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LIN200GA (言語学 / Linguistics 200)

異文化間コミュニケーション

副島 健作

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化背景の異なる個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築くというのは、人や情報の往来が加速度的に増す今日、もはや特別なことではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどういことが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どのような知識や心構えが必要だろうか。事例に基づくケーススタディを通して、この問いをコミュニケーションの観点から考えていく。

【到達目標】

1. コミュニケーション分野の主要な理論や概念を学び、文化が私たちのコミュニケーションに及ぼす影響について理解を深める
2. 実際の異文化接触場面で活用していけるような知識を修得する。
3. 多角的な視点を獲得し、「相手」とのインターアクションを通じて関係を改善する能力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本人と外国人がコミュニケーションをする上で、また、性別や年齢、地域性や社会的役割などの文化差が起因となる諸問題について、ケーススタディに取り組んでいく。学期末には、授業のまとめの活動として受講生自身で身近な異文化摩擦や誤解のケースを収集し、討論や考察をすすめていく。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について解説する 「文化とコミュニケーション」について「文化」をどうとらえるかについて講義する
2	判断保留・多面的思考の重要性について	現代社会を概観し、文化、コミュニケーション、異文化コミュニケーションの概念を整理する
3	事例研究① 海外旅行に関するケース	海外旅行で起きるすれ違いや摩擦
4	事例研究② 海外留学に関するケース	海外留学で起きるすれ違いや摩擦
5	事例研究③ 海外赴任に関するケース	海外赴任で起きるすれ違いや摩擦
6	事例研究④ 帰国日本人に関するケース	帰国日本人が経験する摩擦
7	事例研究⑤ 日本在住外国人に関するケース	日本在住外国人が経験する摩擦
8	事例研究⑥ 共文化に関するケース	共文化の違いによって起きるさまざまな問題
9	事例研究⑦ 国際協力に関するケース	国際協力における交流の諸相

10	事例研究⑧ 国際交渉に関するケース	国際交流における交流の諸相
11	事例研究⑨ マスメディアの影響に関するケース	メディア報道における交流の諸相
12	受講生による事例報告①	文化の体現者であるということ、異文化を理解するという点における問題点を考得ながら報告する
13	受講生による事例報告②	文化の体現者であるということ、異文化を理解するという点における問題点を考得ながら報告する
14	討論・議論（授業内の期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず教材の該当箇所を読んだ上で授業に参加し、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。また、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

石井敏・久米昭元(他)(2013)『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション-多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書

久米昭元・長谷川典子(2007)『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書

八代京子ほか(2001)『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社

【成績評価の方法と基準】

平常点20%

提出物20%

事例報告20%

期末試験またはレポート40%で評価します。

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業なので、学生への質問も活発に行い、グループワークも適宜取り入れます。コミュニケーションが苦手な学生でも積極的に参加しようとする姿勢を評価します。一方、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢が少しでも見られれば、その受講生は教室内に存在していないとみなします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's world, where the traffic of people and information is increasing at an accelerating pace, it is no longer unusual for individuals with different cultural backgrounds to meet and build mutually understandable relationships.

When people from different cultures meet, what happens because of the different cultures in their backgrounds? What kind of knowledge and preparation is necessary to avoid the worst communication break? Through case studies based on actual examples, we will consider these questions from the perspective of communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn the major theories and concepts in the field of communication and gain an understanding of how culture affects our communication
2. To acquire knowledge that can be applied in actual cross-cultural contact situations
3. To gain multiple perspectives and develop the ability to improve relationships through inter-action with the "others".

【Learning activities outside of classroom】

Be sure to read the relevant parts of the study materials before participating in the class, and be prepared to raise questions about the content, discuss related topics, and make comments. In addition, students are expected to collect information so that they can express their own opinions on the set topics.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 20%, Case study report: 20%, Assignments: 20, in class contribution: 40%

SOS200GA (その他の社会科学 / Social science 200)

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次/単位：1～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global, Transnational, International などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法論を学び、現代世界に対する理解や諸課題へのアプローチ、国際文化情報学の学びにつなげます。

対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学の方法論、国際関係に関する諸情報を批判的に考察する視点を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する。受講を希望する学生には、初回授業のリアクションペーパーを定められた方法と期限までに提出してもらう。教室収容人数を超えた場合は初回授業でリアクションペーパーを提出した学生を対象に抽選を行い、選抜された者のみに受講を認める。詳細は初回授業時に説明する。
2. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでおくことを前提に進める。
3. 毎回レジュメや資料を配布し、これに基づいて進める。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State Systemの特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。

3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家 (nation state)の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家 (nation state)及び nation という actorの登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
5	帝国主義と国際関係①	「つながる/つなげられる」
6	帝国主義と国際関係②	「へだてる/へだてられる」
7	帝国主義と国際関係③	国際関係研究への視座
8	近代国際関係と「民族」- 実態と概念①	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
11	第一次世界大戦と国際関係①	近代国際関係の再編
12	第一次世界大戦と国際関係②	国際組織と安全保障
13	第一次世界大戦と国際関係③	植民地支配体制の再編
14	春学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に準備をする（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末のレポートもしくは試験（いずれかを実施。別途説明する）50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに示された受講生の関心や質問を丁寧に紹介して、予定された授業内容に反映させたり、これら関心、質問や国際情勢に応じて授業計画を若干変更したことが好評であったため、本年度も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業には、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 授業で言及することに加え、学期中や期末にテキストから課題を出すことがあるので、テキストは常に手元に置くこと。
2. 授業の2回目以後は基本的に対面授業を行うが、予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。各自で安定的な接続環境、通信容量に制限がない状態で受講できる環境を準備すること。
3. Hoppiiの授業情報、通知は自主的に確認して下さい。
4. 本授業での提出物に関する生成AIツールの使用については別途指示する。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOS200GA (その他の社会科学 / Social science 200)

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global, Transnational, International などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、国際関係学の視点と方法論を学び、現代世界に対する理解や諸課題へのアプローチ、国際文化情報学の学びにつなげます。

対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点、学際的な捉え方）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学の方法論、国際関係に関する諸情報を批判的に考察する視点を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでおくことを前提に進める。
2. 毎回レジュメや資料を配布し、これに基づいて進める。
3. 毎回リアクションペーパーを提出してもらい。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
4. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。
5. 学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係	ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊から第二次世界大戦に至る過程、第二次世界大戦の特徴を学ぶ。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合、人権を重視する諸政策、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。

4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設、新植民地主義につながる国際関係の特徴を学ぶ。
5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT体制、冷戦的思考など冷戦体制の特徴、これらを対象とする戦後国際関係研究の特徴を学ぶ。
6	冷戦と国際関係②—核開発と管理	核管理をめぐる東西両陣営の対応、核抑止力を機能させた核実験の実態を学び、現在に続く核と「平和」の関係を考える。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した「熱戦」を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A会議、非同盟運動、新国際経済秩序など第三世界の動き、南北問題をめぐる「開発」と「発展」の問い直しを中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題の“解決”をめぐる	「南」から提起された「開発」、「発展」の問い直しと「平和」概念の変化を学び、現代国際関係にて多用されるようになった「グローバルサウス」概念との関係を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—米ソ関係及び東西両陣営内の変化	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	新冷戦から冷戦体制の崩壊過程を崩壊後に持ち越された問題を中心に学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバルバージョン	ポスト冷戦体制の国際関係を、新自由主義に基づく市場経済の拡大、世界各地で激化したかみ見える「紛争」、「9.11」と以後続くいくつもの「戦争」、安全保障体制の変化を事例に、現代国際関係の特徴を学ぶ。
13	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを取り上げ現代国際関係への理解を深める。
14	秋学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み込み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末のレポートもしくは試験（いずれかを実施。別途説明する）50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに示された受講生の関心や質問を丁寧に紹介して、予定された授業内容に反映させたり、これら関心、質問や国際情勢に応じて授業計画を若干変更したことが好評であったため、本年度も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、パソコンかタブレットを準備する。

【その他の重要事項】

1. 授業で言及することに加え、学期中や期末にテキストから課題を出すことがあるので、テキストは常に手元に置くこと。
2. 予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。各自で安定的な接続環境、通信容量に制限がない状態で受講できる環境を準備すること。
3. Hoppiiの授業情報、通知などは自主的に確認すること。
4. 「国際関係学概論Ⅰ」未受講者も受講可能であるが、「国際関係学概論Ⅰ」既習を前提に進める。未受講者はⅠのシラバスを参照し、テキストの関係箇所を読むことを強く推奨する。
5. 本授業での提出物に関する生成AIツールの使用については別途指示する。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

国家と民族

石森 大知

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人（あるいはご自身のルーツを踏まえて考えてみてください）とは何だろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれない。とはいえ、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもある。本授業では、日本を含むアジア太平洋地域の事例に基づき、主に国家と民族の枠組みが人びとの自己意識や社会関係をどのように変化させてきたのか考察する。

【到達目標】

- ・人種、民族や国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・アジア太平洋地域における脱植民地化過程を学ぶとともに、現代のナショナリズムの動向を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	人種と民族	近代における「人種」の生成
第3回	民族・エスニシティ・国家	その基本的な理論と概念を学ぶ
第4回	近代日本の国家形成	天皇主権と国家神道
第5回	国家のなかの家族	日本型「近代家族」の変遷
第6回	先住民としての権利	アジア太平洋の先住民運動
第7回	民族紛争を読み解く	ポスト植民地国家の新たな戦争
第8回	多文化主義と「多文化共生」	多文化主義の比較検討
第9回	王、チーフ、ビッグマン	多様なリーダーシップのあり方
第10回	植民地からの独立	太平洋の脱植民地化
第11回	国家から逃避する人びと	ゾミア（東南アジア山間地帯）への視点
第12回	観光・国家・先住民	ハワイにおける「楽園」の創造
第13回	開発・国家・先住民	グローバル化のなかの森林資源
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業内容の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 篠田謙一『日本人になった祖先たち—DNAが解明する多元主義』NHK出版、2021年。
 丹羽典生・石森大知編『現代オセアニアの〈紛争〉—脱植民地期以降のフィールドから』昭和堂、2013年。
 ジェームズ・C・スコット『ゾミア—脱国家の世界史』佐藤仁監訳、みすず書房、2013年。
 ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、2007年。
 小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第1回目授業で教室定員を超過する履修者がいた場合、定員を超えて入室はできません。そのような事態が発生した場合に限り、入室できなかった履修者を対象に追って授業内容を動画で配信致しますので、学習支援システムをご確認ください。
- ・学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine the theoretical perspectives with abundant empirical studies from Asia-Pacific regions, including Japan.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand how nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

HUM200GA (その他の人文学 / humanities 200)

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力和文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：2回に1回程度課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー 国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触(アカルチュレーション)から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助(ODA)と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力和想像力ー期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・最初の授業で具体的に指示する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関連している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著(2021)『国際協力和想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%
- ・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合減点となる(例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褃が合わない)
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教科書は春学期の前半(5月末頃)までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to;

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、事例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合是对面で実施する。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：2回に1度程度課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとする事について考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構 (ユニセフ)	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構 (世界銀行)	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和 (暴力) のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ (権力と暴力)	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業内討論への参加度、授業後課題) 50%、期末レポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個人々へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
- ・授業後課題は最初は大変だが、続けているうちに、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたとの声が多くなった。そのような授業だと思って取り組んで欲しい。
- ・学生から学びが大きいというフィードバックが多いので、毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名 (超えた場合は、選抜の可能性あり)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈G〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】 初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月11日(木)までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月11日(木)にアップロードされる希望登録 Google Form を記入してください。締切は4月12日(金)の午前10時です。4月13日(土)に抽選結果をHOPPIIでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。

●毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。

4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代/伝統あるいは普遍主義/相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼(供犠)、ケガレと差別、世俗化とグローバル化の視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル(霊的なもの)と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』(ミネルヴァ書房、2016年)。
- 伊藤雅之『現代スピリチュアリティ文化論：ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで』(明石書店、2021年)。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』(ミネルヴァ書房、2007年)。
- ロバート・D・パットナム、デイヴィッド・E・キャンベル『アメリカの恩寵—宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』(柏書房、2019年)。
- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』(北樹出版、2009年)。

- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福島信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
- ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月11日（木）までにHOPPIIに登録してください。

●受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月11日（木）にアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月12日（金）の午前10時です。4月13日（土）に抽選結果をHOPPIIでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

PSY200GA (心理学 / Psychology 200)

異文化適応論

浅川 希洋志

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えてとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考えられる傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD等があれば適宜紹介する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第2回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第3回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第4回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第5回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第6回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第7回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像はそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第8回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第9回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第10回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。

第11回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第12回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第13回	生息環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ITを過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとにITの本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義はPowerPointと教科書を用いて行う。PowerPointの資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自学習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化
2回	情報の伝達	デジタルの利点と欠点 インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4回	安全な通信と暗号その1	安全な通信の要件(機密性と安全性) 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5回	安全な通信と暗号その2	安全な通信の要件(認証と否認防止) 電子署名 認証局と公証局
6回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTMLとXML

7回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12回	3次元CG、デジタルマップとGIS	3次元GC デジタルマップとGIS
13回	サイバービジネス、ユビキタスコンピューティング	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタスID
14回	人工知能、データサイエンス	人工知能、データサイエンス

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業で使用するPowerPointの資料(学習支援システムで配布する)

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版(2000)、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点10%、期末試験50%、レポート40%

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り(冬休み明けの最初の授業の日)までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPointを使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.

Grading Criteria

Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.

Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.

The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

FRI200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

文化情報学概論

前田 圭蔵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】 / Outline and Objectives

現代の情報社会では、物だけでなく知識や情報そのものが価値をもち、この傾向はデジタル化した社会やインターネットの普及などでますます増大している。それにとともに、現実世界だけでなく、デジタルワールドやインターネット上での情報の取り扱い、「情報倫理」(information ethics) や「パブリック・リレーションズ」(主体と公衆の理想的な関係構築)の問題としても認知されている。

本授業では、ポピュラー音楽や映画など、主に20世紀以降のサブカルチャーにおける作品やアーティストとその背景などを解説しつつ、それに関連した「情報倫理」や「パブリック・リレーションズ」の基本的な考え方について学び、ディスカッションやディベートなども行う。

【授業の意義】

音楽や映画、演劇やダンス、美術や写真、果ては文学など、ほぼすべてのアートアンドカルチャーが、“文化情報”として生産され、流通し、消費されている現代社会。さらに、インターネット・メディアの発達で、芸術文化を取り巻く環境に大きな変化が生じている。複製や流通が飛躍的に容易になった今、いかなる「情報倫理」が求められているのか。また、いかなる「パブリック・リレーションズ」の構築が可能なのか？ プライバシー侵害や著作権処理の問題、相互監視社会の強靱化などに晒される昨今、サブカルチャーの具体例を学びながら、同時に、問題解決に必要な「情報倫理」や「メディア・リテラシー」「パブリック・リレーションズ」についての基礎的な考え方を身につける。

【到達目標】

- (1) 主に1960年代以降のサブカルチャーにおける具体的事例を取り上げながら、21世紀の現在に至るまでの歴史のトピックスを検証し、それらの「情報倫理」の在り方を学習する。
- (2) 「情報倫理」と「パブリック・リレーションズ」の構築について具体的事例と共に考え、視覚文化や聴覚文化を含む情報文化領域への新しいアプローチの糸口を発見する。
- (3) 身近にあるサブカルチャーの歴史の一端を一般教養として身につけ、それらの社会や個々の価値観への影響やその未来について研究する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。

- (1) 基本的には「講義形式」で行いますが、AV機器を使用した音楽鑑賞や、受講生との対話や討議も行います。
- (2) 具体的なアーティストや、アーティストの表現事例について、音源や映像、図版や書籍なども使用します。また、諸作品についてさまざまな解釈や背景の説明などを行い、また受講者と議論もしていきます。
- (3) 必要に応じて、課外授業としてのフィールドワークや観劇体験なども行う可能性があります。(自由参加型)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第2回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ①	・ポピュラリティ／大衆性

第3回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ②	・テクノロジー／ミニマリズム
第4回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ③	・アナログとデジタル
第5回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ④	・コマーシャルリズム／キャピタルリズム
第6回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑤	・ポエジー／詩 I (続編としてIIあり)
第7回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑥	・ポエジー／詩 II
第8回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑦	・ジェンダー／セクシュアリティ
第9回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑧	・コロナリズム／ポスト・コロナリズム I アフリカの事例
第10回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑨	・コロナリズム／ポスト・コロナリズム II ラテンアメリカの事例
第11回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑩	・レイス／民族
第12回	サブカルチャーにおける情報倫理とパブリック・リレーションズ⑪	・ダンス／身体
第13回	まとめ	・「情報倫理」の現在と未来 (ディスカッション形式)
第14回	まとめ	・「パブリック・リレーションズ」の可能性 (ディスカッション形式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがありますので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に、特定のテキストは用いませんが、講師が用意したテキストの抜粋などを事前に読んできてもらう、もしくは授業内で配布してその場で読んでもらうことがあります。

【参考書】

- ・情報倫理学入門 ナカニシヤ出版2004年 越智貢 編
- ・ミニマル・ミュージック-その展開と思考- 青土社2008年 小沼純一 著
- ・ピアソラ 河出書房新社 1997年 小沼純一 著
- ・東京大学のアルバート・アイラー〈東大ジャズ講義録・歴史編〉メディア総合研究所 2005年 菊地成孔/大谷能生 著
- ・東京大学のアルバート・アイラー〈東大ジャズ講義録・キーワード編〉メディア総合研究所 2006年 菊地成孔/大谷能生 著

【成績評価の方法と基準】

- (1) 質疑などを行うことで授業の理解度を確認する。
 - (2) 学期末にレポート提出を課すことで、授業における達成度を測る。
 - (3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。
- ※ 両者の結果から総合的に判断する。

ちなみに、配分は下記の通り。

- (1) 期末レポート (60%)
- (2) リアクションペーパーによる平常点 (40%)。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

・本講義では、サブカルチャーを軸に「情報倫理」と「パブリック・リレーションズ」の構築について取り上げます。「文化=カルチャー」は「社会」の鏡とも言えます。「倫理 (ethics)」というキーワードを軸に、文化がもたらす社会的影響や、逆に社会が文化にもたらす影響について、考察を深めていきましょう。

・インターネットやマスメディアで流通する情報とそれによって形成される価値観だけに頼らず、未知なるものや新たな価値の発見につながるきっかけとしてみてください。ゆえに本講義では、文化というフィルターを通して思考を巡らせ、既存の価値観に捉われることなく、変化や発見を探求できる学生の参加を望みます。

【注意点】

・議論は大いに推奨しますが「私語」は厳禁です。また居眠りも「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In today's information society, not only objects but also knowledge and information itself have value, and this trend is increasing with the spread of digital society and the Internet. This trend is increasing with the spread of digital society and the Internet. Accordingly, the handling of information not only in the real world but also in the digital world and the Internet has been recognized as an issue of "information ethics" and "public relations" (the construction of ideal relationships between subjects and the public). In this class, students will learn the basic concepts of "information ethics" and "public relations" related to the works and artists in the world and Japanese subcultures since the 20th century, such as popular music and movies, and their backgrounds, while also participating in discussions, debates, etc. Discussions and debates will also be held.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine information ethics and public relations.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 60%、in class contribution: 40%

POL100HA (政治学 / Politics 100)

国際関係論

岡松 暁子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。前半は、「戦争と平和」をテーマとし、世界史、冷戦期の国際関係、冷戦後の国際秩序、を中心に学ぶ。後半は、戦争がなくても平和ではない、という認識の下、よりよい国際社会の構築をめざした国際社会の取り組みについて学ぶ。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第2回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第3回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第4回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第5回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第6回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第7回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第8回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第9回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第10回	南北問題の歴史的変遷	南北問題と南南問題
第11回	貧困と開発	途上国問題
第12回	人権	国際人権保障の困難性
第13回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で行った範囲をよく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

The course provides an introduction to international peace studies. The themes of this course are; “War and Peace”and “Human Security”.

【Learning Objectives】 Understand the events in the international societies based on the theory of international relations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on term-end examination(100%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コ7：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsやパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業経営は何か	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供 ケーススタディ①サントリー	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ②本田技研工業]	株式会社は誰のものか ケーススタディ：ステーションワゴン開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ③キヤノン	所有と経営の分離 ケーススタディ：デジタルカメラ開発
第5回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ④スズキ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：原付自転車開発
第6回	日本的経営の構造 ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	日本的経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生

第7回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥日清食品	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：カップめん開発
第8回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル革命と企業経営 ケーススタディ⑦ミツカン	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：食品開発
第10回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑧ユニクロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第11回	製品開発戦略 ケーススタディ⑨ジブリ	製品開発のコンセプトとプロセス ケーススタディ：創造力の源泉とは
第12回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑩ビール業界の企業間競争	企業価値の源泉とは何か ケーススタディ：アサヒが業界トップになった要因
第13回	SDGsとESG投資	SDGsの概要 非財務情報を反映した企業評価のあり方
第14回	シェアリングエコノミー時代の企業経営とは 日経ストックリーグへの挑戦	リーフドリブン消費者の台頭と共感を呼ぶ経営とは何か 学生が選ぶサステナビリティ企業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15%

期末レポート：85%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (15%) and the final report (85%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

経営学入門

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コ7：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴や課題について、履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。
- ・授業または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 企業と経営－経営学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	企業の種類－企業と何か－	企業の種類とその種類を説明する。
第3回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第4回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第5回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第6回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第7回	経営組織－形態と特徴－	経営戦略の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第8回	経営組織－新たな組織の展開－	第5回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第9回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の2つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。

第10回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第11回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第12回	経営管理－新たな経営管理の方法－	第5回と第8回の講義内容も踏まえ、新たな経営管理の方法（環境マネジメント、マネジメント・コントロール）を説明する。
第13回	ケーススタディ	第12回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（例えば、ゼミナール活動）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50%）
- ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭または 구글フォームで説明（回答）してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

② Learning Objectives

Though this lecture, students are able to logically understand the basis of business management system.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

環境経済論 I

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論を理解するのに必要なミクロ経済学などの事項を学び、具体的な環境政策、特に環境税や排出量取引などの経済的手段の仕組みや課題を志向できる力を涵養することを目標とする。

【到達目標】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。この授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。具体的には、「市場の失敗」が発生するメカニズムおよびどのような対策があるのかを考える。またこの授業では、以下の2つを最終目的とする。①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。②排出量取引制度を疑似体験し、制度設計に必要な思考力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済とは何か	環境経済学の位置づけ
第2回	消費者と生産者の理論	ミクロ経済学の基礎的な概念の紹介
第3回	市場均衡と市場の万能性	市場の役割と市場の効率性の理解
第4回	公共財と外部性	市場の失敗と政府の介入根拠の理解
第5回	環境政策の種類	外部不経済への対処方法の理解
第6回	コースの定理	当事者間の直接交渉による解決方法の理解
第7回	排出量取引	排出量取引制度の制度設計とその効果の紹介
第8回	政策手段の比較	環境税と排出量取引を比較検討
第9回	不確実性下の政策選択	不確実性が存在する際の環境政策の効率性
第10回	排出量取引制度の制度設計	世界の排出量制度の比較および国内の議論を紹介
第11回	ゲームで学ぶ環境政策①	コースの定理および排出量取引の制度設計を理解
第12回	ゲームで学ぶ環境政策②	時間的要素（世代間）を入れた場合の排出量取引の制度設計を理解
第13回	地球温暖化問題①	地球温暖化問題に対する各国の取り組みの理解
第14回	地球温暖化問題②	ポスト京都議定書の各国の取り組みの理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に、配布資料および関連する文献に目を通しておくこと。また、時間外の課題を提出期限内に行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
一方井誠治（2018）『コア・テキスト 環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、授業後に課す練習問題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト以外の練習問題を増やし、考え方を確認できるようにします。

【その他の重要事項】

対面形式の授業を予定しているため、オンライン授業での対応は原則行いません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces key concepts in environmental economic theory and policies to tackle environmental issues to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental issues and 2) propose economically efficient environmental policies.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

環境経済論Ⅱ

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、様々な環境問題に焦点をあて、どの様な政策が必要であるか、経済学の視点から考える。また、実際の環境政策を概観・比較を行う。その際、経済学がどのように役立っているのかを明確にしながら、授業を進める。

この授業では、以下の2つを最終目的とする。

- ①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。
- ②環境政策を立案するために必要な思考力を身に付ける。

【到達目標】

経済学の基礎的な知識と環境問題に対する理解を深めることができる。

また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の全体像および環境経済論Ⅱの内容と環境経済論Ⅰの復習
第2回	気候変動問題①	地球温暖化の基礎知識
第3回	気候変動問題②	京都議定書とは何だったのか。
第4回	気候変動問題③	ポスト京都における各国の対策と日本：中期目標を中心に
第5回	気候変動問題④	パリ協定と今後の気候変動対策
第6回	廃棄物の経済学①	ゴミの有料化とは、どの程度の料金に設定するべきか
第7回	廃棄物の経済学②	有料化の方法とそれらの経済的インセンティブ
第8回	廃棄物の経済学③	自治体のゴミの有料化とレジ袋有料化
第9回	廃棄物の経済学④	放射性廃棄物をどのように処理するのか
第10回	都市の環境問題①	コースの定理と日本の公害病
第11回	都市の環境問題②	固定排出源における環境対策
第12回	都市の環境問題③	交通部門に対する環境規制
第13回	都市の環境問題④	道路混雑とロードプライシング
第14回	自主的な取り組み	日本経団連の自主行動計画と自主的取り組みの有効性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料および関連する文献を読むこと。また、グループディスカッションの内容を事前によりサーチし、準備すること。

【テキスト（教科書）】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。

【参考書】

有村・片山・松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社。

細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。

一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）に加え、グループディスカッション（40%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者同士のディスカッションを増やす要望があり、毎回実施できるように努めます。

【その他の重要事項】

対面形式での授業を予定しています。そのため、オンライン授業での対応を原則いたしません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Environmental issues are becoming severe as well as diverse as economies grow. This course introduces three major environmental issues (climate change, waste and air pollution) and policies implemented to tackle these issues to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) understand the nature of environmental issues and, 2) propose environmental policies need to tackle these issues.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts and relevant chapter from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, assignment/homework 20%, in class contribution: 10%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

環境経営論 I

金藤 正直

配当年次 / 単位：2～4年 / 2単位

開講semester：春学期授業 / Spring | 曜日・時限：金2 / Fri.2

備考 (履修条件等)：環7：経

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業や自治体などの組織は、地球環境の保全、地域の経済環境の改革、組織内の労働環境改善のための戦略あるいは政策を策定し、また、それを実現するための組織を編成し、管理していく経営を行っている。このような経営を「環境経営」と定義づけ、本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業の環境経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて持続的に経済的価値を維持・向上させていく方針(戦略)をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み(組織)を作り、その仕組みの中でどのように運営(管理)しているのか、という一連の経営活動の基礎基本(本質)を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面で実施する。

・本講義では、企業で実践されている環境経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取り組みへの理解をさらに深める。

・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の内容・進め方と、企業における環境経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	海外や国内の企業の実践例をもとに、環境経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	企業の経営戦略やその実践例をもとに、環境経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	CSRやSDGsなどへの関心の高まりにより、企業が今後策定すべき環境経営戦略を説明する。
第6回	経営組織①	企業の経営組織やその実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。

第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織(企業間関係や組織間関係)を説明する。
第8回	経営管理①	企業の経営管理の基礎構造を説明し、その後環境に関する国際規格(ISO14001)などを用いたマネジメントシステムを取り上げる。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格(ISO26000)や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム(サプライチェーン・マネジメント(SCM))を説明する。
第10回	経営管理③	産業クラスター・マネジメント(ICM)の研究や企業の実践例をもとに、環境保全のためのICMの概念と仕組みを説明する。
第11回	環境経営と会計	環境経営を支援する会計システムを説明する。
第12回	ケーススタディ	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。またこの検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第13回	新たな環境経営	現在注目されている新たな環境経営(再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、地域循環共生圏、地域再生、ソーシャル・ビジネスなど)を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本講義は、印刷物(配布資料)を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型(双方向型)形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料(配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など)を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動(ゼミナール活動や企業分析など)で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出(50%)
- ②期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、授業に開する内容や質問について口頭またはGoogleフォームで説明(回答)してもらおう場合があります。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of environmental and social management system in companies.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境経営論Ⅰの内容を踏まえて、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営の取組事例（地域循環共生圏、地方創生、地域経営、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、人的資本経営、ソーシャル・ビジネスなど）を取り上げ、その考察をもとに新たなビジネスモデルを検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的また実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面で実施する。
 ・本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。
 ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 新たな環境経営の視点	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営の取組事例を分析するための視点を説明する。
第2回	新たな環境経営と意義と方法①	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境経営の意味と意義を説明する。
第3回	新たな環境経営と意義と方法②	第2回で説明した各種概念に基づいて、企業間の環境経営の実現方法（アライアンス、サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第4回	新たな環境経営と意義と方法③	第3回で説明した各種概念に基づいて、組織間の環境経営の実現方法（産業クラスター・マネジメント（ICM）、エコシステム）を説明する。
第5回	地域循環共生圏-地方創生も考慮に入れて-	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。

第6回	地域経営	第5回の講義内容を加味しながら、地方で特徴的な事業（例えば、北海道池田町や青森県板柳町）を説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業	経済産業省または資源エネルギー庁によるカーボンニュートラルなどの関連政策や事業計画をもとに、再生可能エネルギーの現状と事業化の意義を説明する。また、第5回や第6回の講義内容も加味しながら、海外や国内の企業や地域で実施されている先進事例とその特徴を説明する。
第8回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010運動など）とその特徴を説明する。
第9回	サステナブルファッション	環境省の政策的特徴とともに、企業の調査結果や実践例をもとに、サステナブルファッションの実態を説明する。
第10回	健康経営	経済産業省や厚生労働省の政策的取り組みや現状調査の結果、また、企業の調査結果をもとに、健康経営の取組状況や意義を説明する。
第11回	人的資本経営	健康経営とともに、日本企業（大企業、中小企業）の動向や、先進事例とその特徴も説明する。
第12回	ソーシャル・ビジネス	途上国で展開されているソーシャル・ビジネス（例えば、ボーダレスジャパンの取り組み）やBOP（Base of the Pyramid）の実践例やその課題を説明する。
第13回	新たなビジネスモデルの構想	第12回までの講義をもとに、国内で新たな事業内容を検討しつつ、ビジネスモデルも提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考えだけでなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50%）
- ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらおう場合があります。。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand a new environmental and social management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論 I

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コ7：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくのかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業の本質とは何か	講義の全体像と進め方 企業と社会の関係
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって社会経済システムはどのように変化するのか
第3回	SDGs（持続可能な開発目標性）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変化していくのか
第4回	脱炭素革命（パリ協定）の意義	パリ協定の本質とは何か 脱炭素革命は経営構造をどのように変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則とESG投資	責任投資原則が機関投資家の投資行動と企業経営に及ぼす影響
第9回	サステナブルマネーの動向①	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について
第10回	サステナブルマネーの動向②	経営構造の変革を迫るアクティビストの狙い

第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	コーポレートガバナンスコードの改訂と東証市場再編の意義
第13回	企業経営とサステナビリティの相克	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	サステナブルストーリーの構築	ビリーブドリブン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート： 30%（2社分）

期末試験： 70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.

This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コア：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）やBusiness Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

【到達目標】

SDGsが求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
	社会構造の変化と企業が直面する課題	現代企業が直面する事業環境の変化について
第2回	近代産業の勃興と経済倫理 [1] 「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理 [2] 「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J.ベンサム・J.ミル「功利主義思想」とM.ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第4回	企業社会の変容とCSR・SDGsの登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第5回	日本社会における企業倫理の形成 [1]	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第6回	日本社会における企業倫理の形成 [2]	戦後日本における企業責任の生成と展開
第7回	外部講師による特別講義 [1]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成
第9回	ESG経営の最新動向「ガバナンス編」	コーポレートガバナンスコード&東証市場再編とガバナンス構造の変革

第10回	ESG経営の最新動向「環境編」	脱炭素時代の企業評価のあり方（炭素利益率）
第11回	ESG経営の最新動向「社会編」	ダイバーシティ、人権、働き方改革の実態
第12回	外部講師による特別講義 [2]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第13回	シェアリング・エコノミーの台頭と企業経営	大量消費時代の終焉とサブスクリプションビジネスの台頭
第14回	SDGs時代に求められるパーパス経営	パーパス（存在意義）を起点にした経営構造改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景にSDGsに取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%（2社分）

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.

This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論 I

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンドで講義ビデオを配信し、小課題を出します。学習支援システムにおいて、提出されたコメントシートや課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第2回	「社会を社会的に考える」とは	社会学的想像力
第3回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第5回	資本主義と労働	労働、階級、搾取
第6回	格差の再生産	ハビトゥス、文化資本、教育、文化的再生産
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第8回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第9回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクショナリティ
第10回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第11回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論
第12回	テクノロジー	格差、ジェンダー、人種、権力の理論を使って検討
第13回	現代日本社会と社会学理論	理論を使って社会を分析するとは
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史 I』有斐閣

クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎週の小課題を含む）50%、試験50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間での学びの共有や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include modernization, inequality, identity, education, and diversity. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%; Exams 50%

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論することから主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	性別と性差、ジェンダーの規範、家父長制、グラデーションとしての性
第3回	家族の歴史と現在	家族とジェンダー、異性愛規範、母性イデオロギー、婚姻制度
第4回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか、社会化
第5回	学校教育、スポーツ	学校教育の歴史、機会の平等と結果の平等、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、スポーツとジェンダー
第6回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第7回	科学、知識、医療	科学史の中の女性、ジェンダーイノベーション
第8回	賃金労働	少子化問題と労働問題、雇用体系、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	リプロダクティブ・ライツ	生殖、性教育、セクシュアリティ
第10回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第11回	表象と言葉	構築物としてのメディア
第12回	政治	民主主義、政治参画
第13回	フェミニズム	社会変革、持続可能な社会の構築
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015 『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013 『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge and skills that enable them to examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender.

【Course outline】

Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることのできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることのできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要とねらい、身体を社会的に分析する意義
第2回	身体社会学とは何か、階級と身体	労働、貧困、食、健康格差
第3回	人種	植民地主義、レイシズム、人種に関するカテゴリーの歴史の変遷
第4回	現代日本社会と人種	人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体、身体の客体化、ステレオタイプ
第6回	ボディ・イメージ	身体の表象、「美」とされる姿の変遷、摂食障害、美容整形
第7回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体、異性愛規範

第8回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第9回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい、医療化、障がいの社会モデル
第10回	優生思想	優生政策、優生思想は過去のものか、日本におけるハンセン病の歴史
第11回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ、生殖補助医療
第12回	いのちの終わりと生命倫理	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植
第13回	身体と未来	機械と人間の融合、ナラティブを変える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版(2012年)
磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社(2015年)
谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社(2008年)
マーゴ・デメット『ボディ・スタディーズ—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』(2017年)
アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の未来』緑風出版(2004年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. By completing this course, students are expected to be able to identify social issues pertaining to the theme of this class in their everyday lives and analyze them critically using sociological perspectives.

【Course outline】

We will consider topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics. After each lecture, students are expected to reflect on the contents and outline their thoughts on their comment sheets.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

ADE300HA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

地域形成論

小島 聡

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コ7：口,文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の持続可能性に関する高度な学習への入門として、様々な視角から地域について検討する。特に、地域学のイメージ、地域に関する近現代史と現在の課題、ローカルキャリアとローカルプロジェクト、21世紀の都市コミュニティ、新たな実践としてのソーシャルイノベーションやソーシャルデザインについて取り上げる。この授業の目的は、学生が地域学の基礎について学びながら、自分のキャリアを考えることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・地域社会に関する高度な専門学習に必要な基礎知識を習得する。
- ・現代日本における多様な地域問題と解決策のケースを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイント、映像等に基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパーや中間レポートの提出と応答・講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用し、授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「地域」の解剖学～「地域」のとらえかた	講義のプロローグとして、地域を空間スケールと時間スケールから多角的に俯瞰する。
第2回	地域の解剖学～「地域」「地域社会」の構造	環境、経済、社会、文化、政治など、人間活動の総体としての「地域」「地域社会」を構造的にとらえる。
第3回	地域と記憶～原風景から始まるライフヒストリーとパブリックヒストリー	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の関係性について検討し、オーラルヒストリーによる地域づくりについても言及する。
第4回	地域形成の近現代史 150年～明治の近代化から戦前期	19世紀後半から20世紀初頭の日本における地域形成史について検討する。
第5回	地域形成の近現代史 150年～敗戦から高度経済成長期	20世紀半ばの日本における地域形成史について検討する。
第6回	地域形成の近現代史 150年～20世紀後半から世紀転換期・21世紀前半	20世紀後半から21世紀前半の日本における地域形成史について検討する。特に「東京一極集中」とその行方について考える。
第7回	郊外と住宅からみた都市の軌跡と現代	地域形成の近現代史の各論として、郊外と住宅の変遷に焦点をあて、さらに、21世紀前半の逆都市化・郊外の危機について検討する。
第8回	ローカルキャリアを生きる	地域にコミットする人々のローカルキャリアについて考える。

第9回	現代都市のキーワードとしてのコミュニティ	高齢社会、格差社会、多文化共生社会など、いくつかの視点から、21世紀の都市コミュニティ問題について多角的に検討する。
第10回	都市コミュニティを耕す	ソーシャルキャピタルやサードプレイス、プレイスメイキング、コミュニティデザインなどの概念とともに、コミュニティカフェやこども食堂をはじめとする「居場所」づくりなどの地域実践について検討し、さらにコミュニティの拠点としての商店街の再生にも言及する。
第11回	ローカルプロジェクトとソーシャルイノベーション	地域の課題解決に関する実践について、ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザインの視角から検討する。
第12回	持続可能な過疎地域と内発的發展	持続可能な過疎地域・農山漁村に内発的発展 1970年代から21世紀前半に至る内発的發展論の展開について検討する。
第13回	過疎地域の挑戦～「懐かしい未来」に向けて	過疎地域の内発的發展・持続可能な発展に向けた挑戦の動向と可能性について検討する。
第14回	あらためて地域に向きあうということ	講義のエピローグとして、「定住人口」「交流人口」「関係人口」など、地域との多様なかかわりについて考えながら、地域と向きあうライフキャリアについて問い直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（65%）+積極的な参加姿勢（15%）+中間レポート（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・日々、報道される地域に関する出来事は、現代社会の様々な課題と関係しているため、地域に関する学習を通して、時事問題に関するリテラシーを身につける機会になるようです。
- ・ゲストスピーカーの話は、地域人の取り組みをリアルに理解し、自分自身のローカルキャリアや学部での学びを考える機会になるようです。
- ・さらに、地域をめぐって考え、対話し、ワークする方法と機会を模索していきたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・ローカル・サステナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目・基幹科目として、コース履修の導入的かつ基盤的な位置にあるため、2つのコース登録者または履修予定者の履修を強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースと人間文化コース以外にもサステナブル経済・経営コースなどでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。
- ・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide an introduction to the advanced studies about “Sustainable community”. Especially, we will examine the various themes, such as the image of local studies, “Local career” and “Local project”, the modern history and the present agenda of community, the urban community in the 21st century, “Social innovation” and “Social design” as new practice. The purpose of this course is for students to consider one’s career while learning about the foundation of local studies.

The goals of this course are to acquire basic knowledge required for advanced studies about local community, and to understand various regional issues and the cases of solution over them in modern japan.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination:65%, Active class participation:15%, Mid-term reports:20%

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論 I

藤田 研二郎

配当年次/単位：2~4年/2単位
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2
 備考（履修条件等）：環コア：口
 その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかわりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジーの近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。

第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	ブラックバス問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥/まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。
 鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+定期試験（70%）、を想定。
 平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったため、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
 (Course Outline)

This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions to solve them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives)

- Students should be able to do the followings:
- To explain the history of environmental problems and policies in Japan.
 - To point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.
 - To propose actions for solving environmental problems.
- (Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コ7：口

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直交流について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。

第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is not the government or business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.

- To propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅲ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会の環境問題を概観しながら、関連する環境社会学の研究動向を紹介する。とくに生物多様性と地球温暖化の2つをテーマとして、また環境問題解決での「多様な主体による連携」を中心的な論点とする。それらを通じて、今日的な環境問題解決のあり方を検討するとともに、問題解決に向けた課題を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題の特徴を説明できるようになる。今日的な環境問題解決のあり方を提案できるようになる。問題解決に向けた課題を整理できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、現代社会の環境問題を生物多様性と地球温暖化に大別したうえで、関連する環境社会学の研究動向を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、生物多様性、地球温暖化の問題の特徴、多様な主体の連携による問題解決について学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史について、それぞれの時期の問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	生物多様性①	生物多様性の概念と4つの危機、昆明・モントリオール枠組までの対策の展開について学ぶ。
第4回	生物多様性②	白神山地の保全を事例に森林政策の展開と、里山保全について学ぶ。
第5回	生物多様性③	東京湾三番瀬、名古屋港藤前干潟などを事例に干潟保全の展開と、藻場保全活動について学ぶ。
第6回	生物多様性④	佐渡のトキ認証米を事例に、環境保全型農業の展開と環境アイコンの役割について学ぶ。
第7回	生物多様性⑤	環境保全米を事例に農業協同組合（農協）の事業と、農政のグリーン化の動向を学ぶ。
第8回	生物多様性⑥	獣害対策を事例に、コミュニティ・ビジネスの視点と、内発的発展論について学ぶ。
第9回	地球温暖化①	温暖化対策とエネルギー政策との関係、原子力政策の歴史について学ぶ。

第10回	地球温暖化②	温暖化対策の展開と、再生可能エネルギーの促進、パリ協定以降の流れを学ぶ。
第11回	地球温暖化③	海外の原子力政策と、再生可能エネルギーの促進、エネルギー協同組合の取組みについて学ぶ。
第12回	地球温暖化④	日本の太陽光発電、風力発電をめぐる地域トラブル、環境正義の視点について学ぶ。
第13回	地球温暖化⑤	環境経営とESG投資の展開、気候変動に関する情報開示枠組とNGOの役割について学ぶ。
第14回	地球温暖化⑥／まとめ	自然関連情報開示の流れ、グリーンウォッシュの課題について学ぶ。 今日的な環境問題解決における多様な主体の連携という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+定期試験（70%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったため、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will review environmental problems in contemporary society and introduce related research trends in environmental sociology. In particular, biodiversity and global warming are the two main themes, and partnership among various actors in the process of environmental problems is one of the most important points of discussion. Students will learn contemporary ways and issues of solving environmental problems

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the characteristics of environmental problems in contemporary society.
- To propose contemporary ways of solving environmental problems.
- To identify issues for solving environmental problems.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

労働環境論 I

櫻井 洋介

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、雇用や労働に関する基本的な知識の習得を目指します。企業等に就職した後、昇進や転職等を通じてキャリアを形成し、退職や定年等でキャリアを終えるまでのライフステージの変遷に沿って、時事的事象も紹介しながら、現代における雇用現場の変化や課題を学んでいきます。

【到達目標】

労働者・職業人として自らの意思でキャリアを形成していくための基本的な知識を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、採用から労働条件決定における基本的なルール、多様な働き方に関する制度や雇用・労働分野の現代的課題等、労働環境に関する様々なトピックを取り上げます。基礎的な法律や制度の解説のみならず、ニュース記事や時事的なトピックを取り上げることで、現代の労働環境において実際に起きている諸課題への理解を深めていきます。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論概要	本講義の概要と目的 (何を学ぶのか、何故学ぶのか) について考える。
第2回	企業の募集・採用と就職活動	募集や採用に関する諸制度について概観するとともに、現代社会における学生の就職活動に関する問題について考える。
第3回	賃金に関する諸課題	賃金に関する日本の諸制度の概要と諸外国の賃金システムとの異同、近年の動向や変化等を学ぶ。
第4回	労働時間管理とワークライフバランス	労働時間管理の基礎を学ぶとともに、労働時間に関する諸外国との比較や日本の特色、近年の動向や変化等を学ぶ。
第5回	多様な働き方とキャリア形成①	諸外国との比較を踏まえた日本における多様な働き方に関する基本的な制度と、それらが企業においてどのように活用されているかを学ぶ。
第6回	多様な働き方とキャリア形成②	多様な働き方に関する現代のトレンドやキャリア観の変遷等について考える。
第7回	ジェンダー平等	女性活躍推進法やLGBTQ等、ジェンダーダイバーシティの基礎について学ぶ。
第8回	雇用における平等原則 (年齢・国籍・障害等)	雇用における平等原則や雇用差別の禁止、各種の法令 (障害者雇用促進法等) について学ぶ。

第9回	非典型雇用 (派遣・パート・ギグワーカー等)	非典型雇用の現状や制度的な変遷等をたどり、問題点等を考える。
第10回	労働安全衛生とメンタルヘルス・ハラスメント	労働安全衛生の基礎知識を学ぶとともに、職場のメンタルヘルスやハラスメント等の問題を取り上げる。
第11回	労働組合の役割と意義	労働組合の役割や意義について学ぶ。
第12回	労働契約の終了 (解雇・定年・再就職)	解雇規制や定年制、退職後再雇用等について、人口動態やキャリア観の変化に伴う課題を考える。
第13回	労働環境における現代的課題 (DX・AI・人的資本投資等)	DX・AI・人的資本投資等といった、現代社会の労働環境における諸課題を考える。
第14回	まとめ：日本における労働環境の現在と未来	これまでの講義で取り扱ってきた日本の現代的な雇用システムを総括しつつ、今後の展望等を考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から参考書や新聞記事等を読んで理解を深めること。②インターンシップやアルバイトなど、仕事や企業と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、仕事と雇用をめぐる実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

自主学習用の教材として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』(有斐閣アルマ、2023年)、②小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充『働くこと』を社会学する 産業・労働社会学』(有斐閣アルマ、2015)を挙げておきます。①は労働法の学習用に、②は日本の労働環境における諸課題の学習用に使用して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (80%) により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点 (20%、出席を含む) を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

担当教員は実務家教員 (現役のサステナビリティコンサルタント) であり、企業や官公庁向けのコンサルティング業務にも従事しています。本講義では、それらの経験を踏まえて具体的な事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture aims to acquire basic knowledge of employment and labor laws. The lecture will introduce the latest issues and changes in the employment field in the modern society, following the transition of life stages from entering a company and developing your career through promotions and job changes, to ending your career.

【Learning Objectives】

Students will acquire the basic knowledge for developing their own careers independently.

【Learning activities outside of classroom】

(1) Deepen students' understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a daily basis. (2) Deepen students' understanding of the contents studied in lectures by considering the actual conditions and issues surrounding work and employment through internships, part-time jobs, and other opportunities. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

労働環境論Ⅱ

櫻井 洋介

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースとしつつ、特に、現代社会において企業に求められるサステナビリティ経営の観点から、雇用や労働に関する諸課題を深掘します。企業経営における「人的資本投資」や「人権尊重」の重要性、「労働CSR」の意義・役割等について学ぶとともに、企業の実践事例を通じてその理解を深め、サステナビリティの視点から労働環境の今日的課題をとらえるための知識の習得を目指します。

【到達目標】

サステナビリティ経営の観点から、現代の企業に求められる雇用や労働に関する取り組みの全体像を知識として習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、日本の雇用慣行やキャリア観の変遷、それに伴い企業に対して求められる取り組み等について取り上げていきます。必要に応じて、企業関係者等をゲストスピーカーとして招聘することも検討します。ゲストスピーカーが講演した回は、リアクションペーパーの提出を求めます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論の概要	労働環境論Ⅰの内容を概括するとともに、本講義の目的やゴールを共有する。
第2回	日本の雇用慣行の特色と変化	職務非限定型の雇用 (いわゆるメンバーシップ型雇用) や年功序列型賃金制度といった日本の雇用慣行が、現代社会においてどのように変化しつつあるかを学ぶ。
第3回	キャリア観の変遷と求められる人材像の変化	学生の就職観やキャリア観の変遷に伴い、労働市場がどのように変わってきたか、当該変化に対して企業がどのように対応してきたかについて学ぶ。
第4回	ポストコロナ時代の働き方	コロナ禍において、テレワークの導入等、ニューノーマルの働き方が浸透した一方で、一部には揺り戻しの動きもある中、コロナ前後で働き方がどのように変わったのかを学ぶ。
第5回	労働時間に関する現代的課題	長時間労働の規制強化の流れや柔軟な勤務制度の導入等、現代における労働時間の諸課題を学ぶ。
第6回	DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)経営	企業に求められるDE&Iとは何か、それぞれの定義やメリット、取組事例等を学ぶとともに、ジェンダー平等や性的マイノリティの問題について考える。

第7回	日本における障害者雇用制度と障害を持つ労働者の権利	障害者差別解消法や障害者雇用促進法において、企業に求められる合理的配慮等について学ぶ。
第8回	外国人労働者に関する問題	現在、見直しが進んでいる技能実習制度や特定技能制度等、外国人労働者の受入に伴う諸課題を学ぶ。
第9回	「ビジネスと人権」 - 企業に要請される人権尊重の経営	サステナビリティ経営の観点から企業に求められる人権尊重の責任について学ぶ。
第10回	グローバルサプライチェーン上の労働課題	サプライチェーン上に存在する人権・労働問題に対して、企業がどのように取り組みを進めているかを具体例を通じて学ぶ。
第11回	健康経営とウェルビーイング	健康経営の重要性やメリット等について具体例を交えて理解を深めるとともに、近年注目されているウェルビーイングの概念について学ぶ。
第12回	無形資産としての「人材」の重要性と人的資本経営	人材版伊藤レポートや人的資本可視化方針等の策定により人材価値の重要性が見直される中で、企業に問われる人材戦略や情報開示について学ぶ。
第13回	新しい技術の発展と労働環境への影響	AIによって奪われる仕事があると言われる一方で、DXの推進は少子高齢化へのソリューションとなり得るとされている等、新しい技術の導入が労働環境に与える影響や功罪について考える。
第14回	まとめ：サステナビリティ経営からみた労働環境	これまでの講義内容を概観し、今後の労働環境について学生とともに考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業は、労働環境論Ⅰを受講済であることを前提に進めますので、事前の学習と事後の復習を必須とします。毎回、取り扱うテーマが異なるので、次回講義までに予習として目を通しておいていただきたい資料等は、講義の中で都度ご紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

労働環境論Ⅰで紹介した参考書の他、①濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か: 正社員体制の矛盾と転機』(岩波書店, 2021)、②櫻井洋介『人権尊重の経営 SDGs時代の新たなリスクへの対応』(日本経済新聞出版, 2022)を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (80%) により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点 (20%、出席を含む) を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

担当教員は実務家教員 (現役のサステナビリティコンサルタント) であり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門に企業や官公庁向けのコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、「サステナビリティ×労働」の視点から、具体的な企業事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the content learned in Working Conditions I, the program aims to deepen various issues related to employment, especially from the perspective of sustainable management required of companies in modern society. Students learn about the importance of "human capital investment" and "respect for human rights" for corporate management and labor issues in CSR and deepen their understanding of these issues through practical examples from companies, aiming to acquire knowledge to understand today's labor environment issues from the perspective of sustainability.

【Learning Objectives】

To acquire knowledge of the overall employment and labor initiatives required of modern companies from the perspective of sustainability management.

【Learning activities outside of classroom】

The lecture will proceed on the assumption that students have already taken "Working Conditions I," so preparation and review for the lecture will be required. Since the topics covered in each class are different, materials that you should read through in preparation for the next class will be introduced in each class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

HIS300HA (史学/History 300)

日本環境史論 I

芳賀 和樹

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コ7：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世日本の人びとは、資源の開発を通じて自然をつくり変え、さまざまなサービスを獲得しようとしてきました。過剰な自然の改変が“ひずみ”を生み、災害などが頻発するようになると、今度は開発を抑制し、自然資源の持続的利用により人と自然の共存を目指すようになりました。本授業では、縦軸に時間の流れを置き、横軸に「人と自然の関係」、自然をめぐる「人と人の関係」、人の生業を通じた「人と自然の関係」を置き、それらの関係がどのように変化したのかを講義します。本授業の目的は、「近世日本の人と自然の関係史」について基礎的な知識を習得し、その関係の変化について歴史的に考察する力を身につけることです。

【到達目標】

本授業では、「近世日本の人と自然の関係史」について、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②「近世日本」という時間・空間を意識しつつも、時間の流れによる変化、全国的な動向だけでなく地域性にも注目し、豊かな歴史像を構築できるようにすること、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに進めます。レポート等提出後の授業においては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに—近世日本の人と自然の関係史	「人と自然の関係史」において、「近世日本」がどのような時間・空間であったのかを考える。
第2回	近世日本の社会のしくみ—自然は誰のものか？	近世日本の社会のしくみについて、基礎的な歴史知識を習得する。耕地や山野河海の所有と利益について理解する。
第3回	開発による自然の改変（1）—鉱石を掘る	第3回～第5回では、17世紀前半の資源開発の様子と、それによる自然のつくり変えについて学習する。第3回では、金銀銅を産出した鉱山開発と、これによる自然の改変について理解する。
第4回	開発による自然の改変（2）—水を引く耕地を拓く	鉱山開発を通じて得られた土木技術を用い、幕府や藩が河川の治水に取り組んだことを学習する。治水により洪水を回避できた場所で、村人による耕地開発が進んだことを理解する。
第5回	開発による自然の改変（3）—木材を伐り出す	城や城下町の建設などで建築用材の需要が高まり、各地で森林の伐採が進んだことを学習する。

第6回	人の生業を通じた自然と自然の結びつき	地下の鉱物資源の開発を支えたのは、地上の森林資源であったことを学習する。耕地資源を維持したのは、森林資源であったことを学習する。
第7回	自然の連鎖的改変による“ひずみ”	開発によって森林が荒廃し、災害が頻発したことを学習する。開発の進展により、水と山をめぐる争いが増加したことを理解する。人の生活圏の拡大により、「鳥獣害」が問題となった点について考える。
第8回	開発の促進から抑制へ（1）—治山治水の思想	第8回と第9回では、災害の頻発を背景にして、17世紀後半に、開発の促進から抑制への転換が起こったことを学習する。第8回では、経験に基づく治山治水の思想について理解する。
第9回	開発の促進から抑制へ（2）—開墾の抑制と山地保全	幕府が耕地の開発、草木の掘り採りを抑制し、植林を命じた意味を考える。17世紀後半以降、農業政策の方針が、耕地の拡大から生産性向上に転換したことを理解する。
第10回	水と山をめぐる人と人の争いと合意形成	第7回に関連して、水と山をめぐる人と人の争いの実際を学習する。争論の過程を通じて、人と人がどのように合意を形成したのかについて考える。
第11回	村の暮らしと動物—「鳥獣害」の防除と水田生態系	第7回に関連して、当時の「鳥獣害」の防除方法について学習する。水田という人工的な環境において、豊かな生態系が作り出された意味を考える。
第12回	人と自然の共存（1）—森林資源の持続的利用	第12回と第13回では、自然資源の持続的利用による人と自然の共存について考える。第12回では、17世紀後半から19世紀にかけて、森林資源の持続的利用が目指されたことを学習する。
第13回	人と自然の共存（2）—水産資源の持続的利用	17世紀後半から19世紀にかけて、水産資源の持続的利用が目指されたことを学習する。
第14回	まとめと試験	授業を総括し、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

芳賀和樹「日本近世社会の発展から近代社会へ」（高橋美由紀編『現代社会を考えるための経済史』創成社、2023年、32-156ページに所収）

徳川林政史研究所編『徳川の歴史再発見 森林の江戸学』東京堂出版、2012年

平野哲也「近世」（木村茂光編『日本農業史』吉川弘文館、2010年、143-253ページに所収）

高橋美貴『資源繁殖の時代』と日本の漁業』山川出版社、2007年

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（60%）、レポート等（40%）により行います。期末試験は授業内容の理解度に応じて、レポート等は課題に対する内容の充実度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In early modern Japan, people sought to transform nature and obtain various services through the development of natural resources. However, excessive modification of nature created "distortions" that led to frequent disasters, and people began to curb development and aim for coexistence between people and nature through sustainable use of natural resources. In this course, the flow of time is placed on the vertical axis, and "the relationship between people and nature," "the relationship between people and people," and "the relationship between nature and nature through people's livelihood" are placed on the horizontal axis, and how these relationships have changed is lectured. The purpose of this class is to acquire a basic knowledge of "the history of the relationship between people and nature in early modern Japan" and to acquire the ability to historically examine the changes in this relationship.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, taking up "the history of the relationship between people and nature in early modern Japan," the objectives are 1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and 2) to be able to construct a rich historical picture by focusing on changes over time and regional as well as national trends while being aware of time and space as "early modern Japan."

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to prepare and review using handouts, reference books related to the theme, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on the final exam (60%) and reports, etc. (40%). The final exam will be evaluated based on the level of understanding of the course content, and the reports, etc. will be evaluated based on the richness of the responses to the assignments.

HIS300HA (史学/History 300)

日本環境史論Ⅱ

芳賀 和樹

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世の日本列島では、さまざまな災害が発生しました。こうした自然の脅威に対し、人びとは、ただ手をこまねいていたわけではありません。経験から、森林が土砂流出や渇水・洪水、飛砂、津波等の被害を防止する機能をもつことを発見し、その機能の発揮を期待して各地で“暮らしを守る森林”を保護・育成したのです。この“暮らしを守る森林”は、近代における保安林制度成立の基礎となり、現在まで受け継がれてきました。本授業では、空間として日本列島の北から南までを広範に取りあげ、近世から近代への時間の流れのなかで、“暮らしを守る森林”がどのように保護・育成されてきたのかを講義します。本授業の目的は、災害をキーワードにして、近世・近代日本の「人と自然の関係史」について考察することです。

【到達目標】

本授業では、災害をキーワードに、近世・近代日本の「人と自然の関係史」について学習し、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②「近世・近代日本」という時間と空間を意識しつつも、時間の流れによる変化、全国的な動向だけでなく地域性にも注目し、豊かな歴史像を構築できるようにすること、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配布プリントにより、シラバス通りに進めます。レポート等提出後の授業においては、いくつかポイントを上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに—災害からみた人と自然の関係史	今、災害をキーワードにして、「人と自然の関係史」を学習する意義について考える。
第2回	近世日本の“暮らしを守る森林”	近世日本の人びとが、経験に基づき、“暮らしを守る森林”を保護・育成したことを学習する。
第3回	山を治める	草木の掘り採りが森林を荒廃させ、河川への土砂流出の原因となったことを理解する。土砂災害に対し、植林などが進められたことを学習する。
第4回	水源を育む	渇水・洪水を受けて、水源涵養林が保護・育成されたことを学習する。
第5回	強風に備える	強風を防ぐため、平野部の屋敷の周囲で防風林（屋敷林）が植栽されたことを学習する。
第6回	飛砂に備える	内陸部の森林荒廃による土砂流出が、海岸部での飛砂の被害を助長したことを理解する。主に日本海側で、飛砂の被害を防ぐため、海岸砂防林が植栽されたことを学習する。

第7回	潮風と高潮に備える	主に太平洋側で、潮風や高潮の被害を防ぐため、防潮林が植栽されたことを学習する。
第8回	地震と津波からの復興	地震とそれともなう津波の被害からの復興について学習する。被災経験に基づき、堤防の建設と海岸林の植栽が進められたことを理解する。
第9回	飢饉への対応	凶作による飢饉が起こったことを理解する。飢饉の際、森林から得られる食料が人びとの命を繋いだことを学習する。「御救山」と呼ばれる制度が、飢饉からの復興に果たした意味を考える。
第10回	火災からの復興	明暦年間の大火後における、都市江戸の復興過程と防火林の植栽について学習する。
第11回	近代日本の国土保安 (1) 一国土保安の思想	第11回～第13回では、近代日本における国土保安の思想と実践について学習する。第11回では、森林行政の展開と、国土保安の思想について考える。
第12回	近代日本の国土保安 (2) 一旧規旧慣の再発見	明治政府が、近世の“暮らしを守る森林”の歴史について調査・収集したことの意味を考える。
第13回	近代日本の国土保安 (3) 一保安林制度の成立	森林に関する日本初の体系的な法令「森林法」が制定され、そのなかで近世の“暮らしを守る森林”を基礎とする「保安林制度」が定められたことを学習する。
第14回	まとめと試験	授業を総括し、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

芳賀和樹「総説“暮らしを守る森林”—江戸時代からのメッセージ—」（徳川林政史研究所編『徳川の歴史再発見 森林の江戸学』Ⅱ、東京堂出版、2015年、1-48ページに所収）
北原糸子編『日本災害史』吉川弘文館、2016年

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（60%）、レポート等（40%）により行います。期末試験は授業内容の理解度に応じて、レポート等は課題に対する内容の充実度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The Japanese archipelago in the early modern period has experienced a variety of disasters. People have not simply stood idly by and let nature's threats be ignored. Through experience, they discovered that forests have the ability to prevent damage from landslides, droughts, floods, flying sand, tsunamis, and other disasters, and they protected and nurtured "forests that protect people's lives" in various regions in the hope that they would fulfill this function. These "forests to protect people's lives" became the basis for the establishment of the safety forest system in the modern period, which has been handed down to the present. This course will cover a wide area from the north to the south of the Japanese archipelago, and will explain how "forests that protect people's lives" have been protected and nurtured in the passage of time from the early modern period to the modern period. The purpose of this course is to examine the "history of the relationship between people and nature" in early modern and modern period Japan, using disasters as a key word.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, students will learn about the "history of the relationship between people and nature" in early modern and modern Japan, with disaster as the key word. The objectives of this course are (1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and (2) to be able to construct a rich historical picture by focusing on changes over time and regional as well as national trends while being aware of time and space as "early modern and modern Japan.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to prepare and review using handouts, reference books related to the theme, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on the final exam (60%) and reports, etc. (40%). The final exam will be evaluated based on the level of understanding of the course content, and the reports, etc. will be evaluated based on the richness of the responses to the assignments.

CUA200HA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

環境人類学 I

高橋 五月

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考 (履修条件等)：環コア：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境人類学 I は、人間と環境の関係についての文化的側面を探究する学問である環境人類学の基礎を学ぶ講義科目です。文化人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。本授業の目的は、文化人類学的な視点を用いて身近な環境問題における文化的側面についての理解を深めることです。

【到達目標】

本授業では、文化人類学的な視点について基礎的な知識を身につけること、また身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係の文化的側面についての知識とクリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながらオンデマンド形式で行います。また、クリティカルシンキングを育てることを目的とし、ディスカッションコメントを課題とします。この課題では、講義内で出題する講義内容に関連する「お題」に対して、学生が各自ディスカッションコメントとして回答を Hoppii にて提出します。この課題を通して学生は「お題」に対する自らの考えを言語化するスキルを向上するだけでなく、他学生の回答を通して多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。講義はオンデマンド形式ですが、中間・期末試験は対面で実施予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方、課題、成績評価の方法について説明します。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第3回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介します。
第4回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第5回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第6回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第7回	中間試験	試験・まとめと解説
第8回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第9回	地下環境	鉱物採取 (石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド) と環境問題との接点を講義します。
第10回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。

第11回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第12回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第13回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。(準備学習) 詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献がある場合は授業前までに読んでおきましょう。

(復習) 中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業内に紹介します

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションコメント (30%)、中間・期末筆記試験 (70%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義で使用するスライドを「ハンドアウト」として支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモを取り、自分なりの授業ノートを完成させてください。

映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

ディスカッションコメントの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を知ることができるので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学 I では、資料配布、お知らせ配信、ディスカッションコメントの提出は全て Hoppii (学習支援システム) を通じて行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn about environmental anthropology and related discussions on human-environment relations. The main goal of this course is to help students obtain basic knowledge of environmental anthropology and develop critical thinking skills by asking questions that require them to apply course materials and lectures for their thoughts on human-environment relations and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams and post discussion commentaries on Hoppii. A study time for a class, on average, is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and discussion commentaries (30%).

CUA300HA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考 (履修条件等)：環コア：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境人類学Ⅱは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と文化人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。本授業の目的は、講義で紹介する文化人類学的アプローチを参考にしながら、学生たちが自ら「サステナビリティ」とは何かという問いに向き合い、理解を深めることです。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライズメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します
第2回	サステナビリティとは？ (1)	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します
第3回	サステナビリティとは？ (2)	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義します
第4回	コモンズ (1)	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します
第5回	コモンズ (2)	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します
第7回	中間試験	中間試験を行います
第8回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続可能な水産業について講義・議論します

第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第11回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論します
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します
第14回	期末試験	期末試験を行います

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(準備学習) 詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

(復習) 中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出 (30%)、中間・期末筆記試験 (70%)。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後もできるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、リアクションペーパー提出は全て Hoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability." The main goal of this course is to help students to obtain basic knowledge of environmental anthropology and also to develop critical thinking skills by asking questions which require them to apply course materials and lectures for their own thoughts on sustainability and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams in addition to submit weekly commentaries by the deadline. A study time for a class on average is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and weekly commentaries (30%).

TRS200HA (観光学 / Tourism Studies 200)

環境表象論 I

概 裕 史

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考 (履修条件等)：環コア: 口, 文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にとどめられるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業(農林水産業や鉱工業)を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であります。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。
・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながるが多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。(小テストは時間制限なし、参照可)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説(「文化的景観」導入の経緯)	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	ユネスコの「世界遺産」概説 その2	前回の補充(授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など)
第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較(1)	日本の文化財の種類、内容

第5回	文化財保護法の既存の文化財との比較(2)	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第6回	文化的景観の多面的効用(1)	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第7回	文化的景観の多面的効用(2)	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材/「原風景」
第8回	近江八幡の文化的景観とまちづくり(1)	重要文化的景観第1号のまちの市民活動の歴史、特色
第9回	近江八幡の文化的景観とまちづくり(2)	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第10回	精神文化と一体の景観(1)	熊野三山(世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」)
第11回	精神文化と一体の景観(2)	沖縄の御嶽、富士山
第12回	精神文化と一体の景観(3)	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第13回	精神文化と一体の景観(4)	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第14回	総集編	初回~13回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』(小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』(第2版)第I部第6章、ミネルヴァ書房、2021)ほか、授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、毎回の小テスト40%。小テストを1回も受けていないと、期末試験を受けても満点でない限りは単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習することへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる(実際に行ってみたくなる)といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サステイナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.
Goal

・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 60%, each quiz 40%

TRS300HA (観光学 / Tourism Studies 300)

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位
 開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3
 備考（履修条件等）：環コア：口、文
 その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景

「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特徴ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する自然に即した生活文化の遺産
第2回	有機的に進化する景観（1）	文化的景観
第3回	有機的に進化する景観（2）—うつぐみの島・竹富島（前編）	ユネスコの定義の意味／、「観光文化」／四万十川の事例
第4回	有機的に進化する景観（3）—うつぐみの島・竹富島（後編1）	景観の有形部分の真正性
第5回	有機的に進化する景観（4）—うつぐみの島・竹富島（後編2）	景観の有形部分を支える無形文化の厚み（伝統祭事等）
第6回	伝統継承の階層的発想、無形文化尊重の潮流	鳥の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第7回	「五感」のエコロジーと文化的景観（前）	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第8回	「五感」のエコロジーと文化的景観（後）	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例
第9回	光と影・闇（前）	触覚、味覚の事例

第9回	光と影・闇（前）	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第10回	光と影・闇（後）	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第11回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第12回	「残したい日本の音風景100選」から（1）	「自然・生き物」の音風景と伝統文化
第13回	「残したい日本の音風景100選」から（2）	その他 伝統的な生業に関わる音風景
第14回	総括一人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第Ⅰ部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（レポート形式）と期末試験（教室筆記）65%、毎回の小テスト35%。小テストを1回も受けていない場合や、中間試験（レポート）未提出の場合は、期末筆記試験を受けても単位取得できません。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、紹介された場所に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"

For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

- ・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"
- ・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").

・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

mid-term exam & final exam 65%, each quiz 35%

BLS200HA (生物科学 / Biological science 200)

サイエンスカフェ II

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞

第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚 ビデオ鑑賞
第13回	発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・
第14回	まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

Learning Objectives

Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.

The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.

Learning activities outside of classroom

Be curious about and observe your own body on a daily basis. Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

INE200HA (総合工学 / Integrated engineering 200)

エネルギー論 I

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. エネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。また、レポート課題のフィードバックについては授業最終回に時間を設けたり、動画配信などにより実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーと環境、エネルギーの姿
第2回	エネルギーの量を表すもの、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第3回	電力の需要と供給	電力事業の歴史、発電・送電・配電のネットワークと電力消費
第4回	電力システムの安定	電力需給のバランスとコントロール、電力供給の事故
第5回	電力供給の源	三相発電機と送電線
第6回	電力供給のさらなる源	熱力学の基礎、サイクルとは何か
第7回	運動のエネルギー	ピストン（サイクルの一例）における仕事
第8回	エントロピー	エントロピーとはどのようなものか
第9回	熱エネルギーの移動と出入り	エントロピーと熱との関係、カルノーサイクル、エネルギー効率
第10回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義での資料などを用いて予習・復習をすること。

次の内容を事前に学習して授業に臨むと良い。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実験、第5～9回：前回の講義内容の見直し、第10回：水の性質、第11～14回：火力発電と原子力発電
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100%）：各種エネルギーの特性に関する課題により、到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲の内容を含み、楽しく学べます。わからないところは質問してください。メールなどで質問しても構いません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity power generations using the heat produced by fossil and nuclear fuels.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about the energy supply and consumption in our society,

B. to understand the characteristics of various resources and the energy conversion systems from the view points of thermodynamics, and

C. to obtain the knowledge on the international and domestic trends of energy development and trading.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

PLN200HA (地球惑星科学 / Earth and planetary science 200)

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことからを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（1）気候変動科学のこれまでの経緯、（2）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（3）温暖化予測の概要、（4）大気と海洋の循環と熱収支、（5）炭素循環、（6）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要（4）	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。

第11回 温室効果

温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。

第12回 放射平衡

大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。

第13回 炭素循環

二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。

第14回 まとめ

授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

EAE200HA (環境解析学 / Environmental analyses and evaluation 200)

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体には（1）気温の変化とその測定方法、（2）温室効果ガスの増加とその原因、（3）エアロゾルの影響、（4）降水・積雪への影響、（5）海洋への影響、（6）気候変動の予測と不確実性、（7）適応策・緩和策、（8）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。

第12回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を紹介する。
第13回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第14回	まとめ	講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Advanced knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

環境科学 I

藤倉 良

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考 (履修条件等)：環コ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染 (ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト)
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁 (富栄養化のメカニズム、工場排水の処理)
- ・土壌汚染 (原因、対策技術)
- ・廃棄物 (法律上の定義と現状)
- ・リサイクル (意義と現状)
- ・基準の決め方 (リスク論と基準の決定方法)
- ・環境アセスメント (法制度、具体例)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト (下記参照) とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (序章)	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1 (第1章)	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第3回	大気汚染・その2 (第1章)	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道 (第2章)	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽 (第2章)	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁 (第3章)	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染 (第3章)	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭 (第4章)	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音 (第4章)	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1 (第5章)	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2 (第5章)	産業廃棄物

第12回	リサイクル・(第5章)	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方 (第6章)	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	環境アセスメント (第12章)	法制度、手続き、事例

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良 (2015) 環境学は総合格闘技? 人間環境論集, 第16巻, 第1号, pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、期末試験70%です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁 (現環境省) で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will acquire the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環ア：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・プラスチックごみ対策
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第8回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第9回	気候変動・6（第8章）	適応策
第10回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第11回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と期末試験(70%)で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環Ⅱ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・ 資源の意味
- ・ 淡水
- ・ エネルギー
- ・ 土壌とリン、窒素
- ・ 遺伝資源
- ・ ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、期末試験70%です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

備考（履修条件等）：環コ7：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起るのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に付けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～III の内容は若干重複することがある。授業において感想文などの提出を求めた場合には授業内でコメントをするなどのフィードバックを適宜行う。

対面とオンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第2回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第3回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第4回	ライフスタイルと生活習慣病③	活性酸素と水素生活習慣病各論
第5回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第6回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会的取り組み
第7回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第8回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について

第9回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第10回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第11回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第12回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第13回	感染症	性感染症・食中毒
第14回	まとめ	まとめ、レポート提出、または授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に付けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に付けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。映画の視聴に際し、感想文の提出を求めた際には講義の中でコメントを行う。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。対面と、オンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるので、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康

第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務
第11回	生命倫理②	安楽死・尊厳死 医療訴訟
第12回	生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第13回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第14回	まとめ	講義のまとめ、授業内試験、またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルへするケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を考えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防止、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンライン、オンデマンドによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア ①	生涯にわたる精神保健の必要性 について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア ②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア ③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと

第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第8回	精神障害④	摂食障害について
第9回	精神障害⑤	不安障害
第10回	精神障害⑥	統合失調症
第11回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第12回	精神障害の栄養療法 ①	精神障害に対する栄養療法の実 際について（有効な疾患）
第13回	精神障害の栄養療法 ②	精神障害に対する栄養療法の実 際について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

INE300HA (総合工学 / Integrated engineering 300)

エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという再生循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	再生可能エネルギーによる電力供給
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、再生可能エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、落差、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車のタイプと性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量子測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電、海洋温度差発電
第14回	エコカーなど	(B)EVとFC(E)Vなどのエコカーのバラエティ、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の資料などを使用して予習・復習をすること。

次の内容を事前に学習して授業に臨むと良い。第1回：再生可能エネルギーの売電、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100%）：各種再生可能エネルギーの利用に関する課題により、到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。わからないことがあれば、メールでも構いませんので質問しましょう。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations. Special attention is paid to the electricity generations using renewable resources such as hydropower, wind power, solar power, biomass fuel and geothermal power.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn about the relationship between the energy consumption and the environmental problems,
- B. to understand the characteristics of the renewable energy systems and
- C. to obtain the knowledge on the efficiency of the renewable energy systems as well as on the problems of the renewable resources.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

PHY200HA (物理学 / Physics 200)

サイエンスカフェⅣ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題などの考察へ
 本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1)我々の生活に密接に関連していること、そして(2)環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような(難しい?)式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について学習する。物理学的な知識の修得は環境問題をはじめとして様々な社会的課題を考察するために必須であることが理解できるようになることをめざしている。具体的な目標としては次に示すとおりである。

- ・物理学の基礎事項を修得する。
- ・様々な自然科学的な単位について説明できる。
- ・エントロピーの概念について説明できる。
- ・物理学と環境問題などの関係性について説明できる。

なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。視覚的教材をできるだけ多く取り入れながら授業を進めていく。授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか?
第2回	物体の運動とエネルギー (力学の法則、エネルギーの概念と様々な単位、エネルギーの保存と散逸など)	物体の運動、力学について。エネルギー保存則とは何か? ジュール(J)、ワット(W)などの基本的単位の超入門。
第3回	熱とエネルギーを理解しよう (エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る)	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは? 比熱とは? calとJについて。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。

第4回	熱とエネルギーを理解しよう (気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する)	気体の圧力、体積、温度などの関係(ボイル・シャルルの法則)を理解する。気象現象の考察。熱機関(熱から仕事への変換)と熱効率について。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう (熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱+空気の流れにより伝わる熱+電気ストーブによる加熱)	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は? 人間活動と熱との関係は? ヒートアイランド現象とどのように関係しているのか?
第6回	物質の三態と状態変化を調べよう (氷の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について)	物質の三態(液体、固体、気体)と相転移を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は? 生命体維持における水の役割は?
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう (水の密度と膨張率+氷の密度と浮力、氷の融解現象について)	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇と海面水位の上昇との関係は? 氷山が融解すると海面水位は上昇するのか?
第8回	波の性質を知ろう (横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる)	横波と縦波、周期と振動数(周波数)、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波などの理解。
第9回	電気回路の性質を知ろう (電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通れる電流による熱発生(ジュール熱)について)	乾電池、導線、抵抗などによる電気回路とオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。電力系統網における送電ロスとは何か?
第10回	磁石を使って電気を作ろう&電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、発電機とモーターの原理を知る)	発電機とモーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か? 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線などは電磁波の仲間。
第11回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq(ベクレル)とSv(シーベルト)などについて。原子力発電、ウラン、プルトニウムなどに関する入門的解説。
第12回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう (水と湯の間の熱移動+水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第13回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう (エントロピー論)	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか? エネルギー変換にはロス(損失)が伴われる。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動をエントロピーから解釈する。
第14回	総括	講義内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本科目では期末試験を行う予定です。また授業内においてレポートを提出してもらうことがあります。成績は期末試験の結果80%、提出されたレポートの充実度20%によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

この科目は「環境モデル論I」「環境モデル論II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Physical fundamentals for energy and materials In this course we learn fundamentals of physics. Features concerning energy and materials will be clarified with relation to environmental problems on the earth. The following themes will mainly be examined: the law of motion, the concept of energy, the units of energy and power, energy conversion, energy balance on the earth, heat and its capacity, the three states of substances, molecular dynamics for gases and liquids, thermal engine and the heat efficiency, thermal expansion of liquids and solids, the mechanism of thermal transference (conduction, convection, and radiation), phase transition among three states (melting, boiling, and sublimation), fundamentals of wave phenomena, electric circuit, magnetism and electricity, the structure of atomic nuclear and energy, the fission and radioactivity, the first and the second law of thermodynamics, etc. They are instances lectured in this course. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the knowledge of fundamentals of physics. The concept of energy and materials is expected to be acquired in class. We will explain the meaning of units appearing in nature. The concept of entropy is necessary to be understood. Students will learn the mechanism of environmental problems from the viewpoint of physics. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with the term-end examination 80% and reports presented in class 20%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

発達・教育キャリア入門A 基幹科目

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中でしかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。

【到達目標】

発達・教育に関する10のトピックをめぐる基礎的な知識を身につける。

自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。

自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は原則を対面としつつ、対面での授業に参加できない学生には、6回まで、オンラインでの参加を認めます。

本授業では10の教育問題(トピック)を取り上げます。各自教科書の第1節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストを実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える視点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、課題の設定、テキスト、オンライン受講の方法等について説明する。授業実施の詳細(オンラインへのアクセスの仕方など)はHoppiiに記載する。
2	枠組みとしてのあたりまえ テキスト序章	「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
3	家族の形 テキスト第1章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。
4	家庭教育 テキスト第2章	教育が家庭でなされるようになった歴史的経緯を理解し、家計と学力など家庭教育を制約する要因について学ぶ。
5	児童虐待 テキスト第3章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。虐待された子どもへの心理的影響や、発生要因、親の抱える孤独について考える。虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という常識の見方を超えて、虐待の発生過程を学ぶ。

6	つながり孤独 テキスト第4章	若者のSNSの問題を考え、人間関係とは何かを捉えなおす
7	いじめ テキスト第5章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。
8	恋愛 テキスト第6章	恋愛について、近年の傾向を学び、成長における意味を考える。
9	カウンセリング テキスト第7章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
10	不登校 テキスト第8章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
11	発達障害 テキスト第9章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
12	キャリア教育 テキスト第10章	おとなになることは与えられる側から与える側になること。可能性の中から選択すること、その選択に責任をとることという観点からキャリア形成の必要性を考える。
13	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ
14	授業全体のふりかえり・評価	本講義を通して何を考えてきたのかを再検討し、学んだ内容の確認、今後の課題の設定を行う。また習得状況の確認を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストはすべて1章が3節構成になっています。各章の第1節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

遠藤野ゆり・大塚類 (2020)『さらにあたりまえを疑え! 臨床教育学2』新曜社

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題50%、期末レポート50%(受講生の状況に合わせて変更する可能性があります。変更は必ず事前に学習支援システムを通じて受講生にお知らせします。)

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで参加した場合に音声聞き取りにくいとのことでしたので、マイクの使用など、音声システムを工夫するようにします。ただし、対面授業を原則としており、オンラインで受講した場合の音質等には一定の限界があることを了解してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業内でログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンやPCなどの機器を持参してください(事前に連絡します)

原則対面の授業ですが、半数まで、オンラインでも受講可能とします。その場合にオンライン環境は学生さん自身で整えてください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて内容の調整をすることがあります。

【Outline (in English)】

Outline and objectives : We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.

Goal: The goal is to acquire basic knowledge about 10 topics related to development and education and, also, to understand how they usually think within the "natural framework" and explore their roots.

Methods: This class will cover 10 educational issues (topics). Students are required to prepare for the basic knowledge in Section 1 of each textbook before attending the class. Every class a quiz to measure the acquisition rate of basic knowledge is held. In the class, a viewpoint that overcomes the natural framework and reconsider the knowledge that we have prepared is showed.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) :all textbook chapters are composed of three chapters. Section 1 of each chapter contains all the basic knowledge for learning that unit. Due to class time, basic knowledge is a preparatory task and a weekly test is conducted. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria: 50%=quiz in each class, 50 %=term-end exam. (The grading criteria way may be changed according to the student's request)

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

発達・教育キャリア入門B 基幹科目

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

個人の学びや発達に視点を置く事柄について基礎的な内容を学ぶ。
個人の生き方や社会の在り方について考察する。

【到達目標】

- ・キャリアデザインに関わる社会現象についてデータに基づいて説明できる。
- ・発達および教育に関連するキャリアデザインにかかわる各トピックについての基礎的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義の初めに、前回の講義で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また授業内ではグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の枠組や評価方法等を説明する。
第2回	選択肢を拡げる／絞る	「複数の選択肢があればそこから何を選ぶのか」は個人が生き方を選ぶことと関連する。心理学の観点からキャリア発達、意思決定モデルについて説明する。
第3回	大学へ進学する	日本の高校卒業者の進路の内訳、学生生活で重視する事柄等の時系列的な変化を概観する。これらの変化と現代社会における青年期の諸問題との関連を説明する。
第4回	企業に就職する	日本の大学卒業者の進路の内訳や時系列的な変化を概観する。民間企業への就職を例に取り上げ、大学での学びが与える影響について説明する。
第5回	地域を移動する	日本では、高校卒業後および大学卒業後に都道府県間移動をする若者が多いことが知られている。このような地理的な移動を題材に、個人の生き方と社会の在り方の関連を考える。
第6回	地域で支える	学校という空間の外側には家庭や地域社会がある。地域の支えを得ながら社会へ移行する若者の事例を紹介し、包括的な若者支援について説明する。
第7回	体験から学ぶ	経験学習について説明する。自らの経験から学びを得るプロセスだけでなく、社会人講話などから学びを得るプロセスについて考える。

第8回	コミュニケーションする	個人の生き方を考える際に、他者とのコミュニケーションは不可欠である。情報の発信と受信、メリットとデメリットの比較から、その多様性を説明する。
第9回	自信を持つ	個人の行動の原動力を考える。自己効力、学習性無力感、自尊感情について説明する。
第10回	将来を見通す	個人の生き方や社会の在り方を考える際に、将来を見通すことは不可欠である。個人の見通しに関連した概念について説明する。
第11回	知識を紡ぐ	ワークショップによる学びに注目する。共に参加したメンバー間で知識はいかにして紡がれていくのか、ワークショップに関連した学習理論を説明する。
第12回	家族を形成する	近年では、個人が仕事役割と家族役割のバランスをどのように取るのかが注目されることがある。このことについて成人期の発達課題との関連を説明する。
第13回	次世代に伝える	「発達」の概念は、個人の人生の始まりから終わりまでを指し示すこともあるが、世代を超えたサイクルも含むことがある。住民による防災情報の伝達を事例にして、「次世代に伝える」ことの効果について考える。
第14回	2つ以上のものをつなげる	上記までに扱ったトピックの関連について考えるための補足を加える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

なし。レジュメを配布する。

【参考書】

e-Stat (日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト)
<https://www.e-stat.go.jp>

【成績評価の方法と基準】

平常点40% レポート課題60%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の感想およびレポートを参考にして、一部、授業の順番を昨年とは変更した。

【Outline (in English)】

This class will teach students the basics of individual learning and development. By the end of the course, students should be able to: ・ Explain social phenomena related to lifelong learning and career studies using data, ・ Gain a basic understanding of topics related to lifelong learning and career studies, including development and education. After each class meeting, students must complete assignments. Students are expected to dedicate over four hours per class. Grading will be based on 60% reports and 40% of in-class contributions.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**発達・教育キャリア入門C (生 基幹科目
涯学習入門 I)**

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(授業の概要)

生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。
(授業の目的・意義)

授業内容とおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】

生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動(多様なノンフォーマル教育)の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「社会教育」「生涯学習」とは何か?	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第2回	市町村は社会教育にどう関わっているか?	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第3回	社会教育の学習テーマはどうあるべきか?	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第4回	学校以外にどのような場で学べるか?	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設(社会教育施設)の基本的役割と実態について解説する。
第5回	社会教育に関わる人はどのように働いているのか?	ゲストスピーカー(現役の社会教育施設の職員)から、地域住民の学びを支援する仕事の実際について情報提供していただき、学生と質疑応答を行う。
第6回	「成人式」はなぜ行われているのか?	社会教育施設以外で展開される社会教育行政事業について解説する。
第7回	民間企業はおとなの学びにどう関わっているか?	カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間の社会教育事業の歴史的展開と現状について解説する。

第8回 なぜ人々は趣味を学ぶのか?

ゲストスピーカー(シリアスホビーの研究者)に、趣味の学びを現代人がどのように意味づけしているのかについて情報提供いただき、学生と質疑応答を行う。
「子ども、若者対象」という観点から、行政、民間の社会教育事業の現在における動向を整理して解説する。

第9回 子どもや若者は学校以外にどこで学んでいるか?

学校教育と社会教育はどのように連携すべきか?

第10回 学校教育と社会教育はどのように連携すべきか?

日本における近代以降(第二次世界大戦まで)の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。

第11回 社会教育という概念はどのように成立したか?

戦後、社会教育はどのように変化してきたか?

第12回 戦後、社会教育はどのように変化してきたか?

社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。

第13回 社会教育は国によってどのように違うのか?

前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

第14回 授業の振り返り

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・準備学習は特に必要ない。
- ・各回の授業後、授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
- ・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

香川正弘他編『よくわかる生涯学習(改訂版)』ミネルヴァ書房、2016年
松岡広路、松橋義樹、鈴木真理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメントシート 60%
期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

各回に提出してもらったコメント(リアクションペーパー)については、これまで授業日の深夜までに学習支援システムで提出していたが、授業内で完結するほうが望ましいという学生の声があり、また欠席者がその回のコメントを提出してしまうという例も見られた。そのため、2024年度は基本的に、紙媒体でのコメント提出を授業時間内で求めることとした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士(養成課程)の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもある。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to read document of lecture again after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (60%), final report (40%).

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**発達・教育キャリア入門C (生 基幹科目
涯学習入門 I)**

朝岡 幸彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門I)では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。また、毎時間グループワークもしくは質疑応答を求めるため、2/3以上の出席を前提とする。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して講評や解説を行うことがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第2回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約①	教育基本法及び教育勅語などの教育基本法令の原理について学ぶ。
第3回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約②	教育無償化論の理解を通して、社会教育施設(図書館・公民館など)の無償制原則について理解する。
第4回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約③	社会教育法等の解釈を通じて、戦後社会教育法制と制度の特徴を理解する。
第5回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約④	社会教育法に関わる訴訟の論点を通して、学習権と「表現の自由」について理解する。
第6回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑤	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について、公民館を中心に理解する。
第7回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑥	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。

第8回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育における四つのテーゼの特徴の理解を通して、戦後社会教育の理念の発展を学ぶ。
第9回	社会教育・生涯学習の政策と制度①	教育委員会制度の特徴を通して、社会教育・生涯学習を支える仕組みについて理解する。
第10回	社会教育・生涯学習の政策と制度②	学校と社会教育施設の関係を通して、社会教育・生涯学習の行財政の特徴について学ぶ。
第11回	社会教育・生涯学習の政策と制度③	長野県飯田市を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の課題と可能性を学ぶ。
第12回	社会教育・生涯学習の政策と制度④	長野県飯田市及び伊那地方を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の特徴と課題を学ぶ。
第13回	社会教育・生涯学習の課題と可能性	SDGs及びESDの時代における社会教育・生涯学習の課題と可能性を考える。
第14回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時ごとの簡単なレポート(ワークシートを含む)を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習入門』人言洞、2023年 (ISBN978-4-910917-03-0)

【参考書】

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所 2017年

【成績評価の方法と基準】

テキストを中心に課題レポート(ワークシートを含む) 80%
平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

原則として、資料等を学習支援システムに掲載します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認下さい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline (in English)】

Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding of basics in home education, school education and social education.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ビジネスキャリア入門A 基幹科目**妹尾 渉**

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「一国の経済活動」について、マクロ経済学の理論に基づいて理解する。まず最初に、一国の経済活動を測るための指標 (GDP、物価、失業率) について学ぶ。次に、それらが、消費・投資活動、財・サービス市場、労働市場、金融 (資金) 市場、貿易、政府の介入、などを通じて決定される仕組みについて学ぶ。最後に、最近の世界経済、日本経済が直面している課題について考える。

【到達目標】

①一国の経済活動について、マクロ経済学の理論に基づいて理解できること。②①で学んだ理論を通して、日本経済の現状についての解説ができること。③①②の作業を通して、社会科学の思考法 (仮説の立案→データ・実例による仮説検証→仮説の再考) を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

指定するテキストに沿って授業を行い、課題を掲示する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のガイダンス
2	マクロ経済学とは	マクロ経済学とは何か 企業、家計、政府
3	マクロ経済を観察する I	マクロ経済のパフォーマンスを測る GDP、名目と実質
4	マクロ経済を観察する II	物価と労働に関する尺度
5	マクロ経済を支える金融市場	金融の重要性、金利
6	貨幣の機能と中央銀行の役割	貨幣とは、中央銀行とは
7	財政の仕組みと機能	財政の機能 政府の予算、税制、国際
8	GDPと金利の決まり方	消費関数、投資・貨幣市場と金利、財市場・貨幣市場の同時均衡、IS-LM分析
9	総需要・総供給分析	物価とGDPの同時決定、完全雇用下での経済政策
10	インフレとデフレ	インフレ・デフレ発生の原因
11	国際収支・為替レートとマクロ経済	外国との取引を測る
12	経済が成長するメカニズム	経済成長とは何か
13	資産価格の決まり方	日本経済のバブルとその崩壊
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

平口良司・稲葉大 (2023) 『マクロ経済学 [第3版]』有斐閣ストゥディア

【参考書】

講義中に適時紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト (50%)、期末テストで評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーの導入

【その他の重要事項】

・本授業は、対面とオンラインを併用する予定です。

詳細な日程については初回の授業ガイダンス時にアナウンスします。

【Outline (in English)】

Understand "economic activities of one country" based on the theory of macroeconomics. First of all, we learn about indices (GDP, price, unemployment rate) to measure the economic activity of a country. Next, we learn about the mechanisms that are determined through consumption and investment activities, goods and services markets, labor markets, financial markets, trade, government intervention. Finally, we think about the recent world economy.

The goals of this course are to understand the economic activities of a country based on macroeconomic theory.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 50%、Term-end examination: 50%

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ビジネスキャリア入門B 基幹科目

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ビジネスキャリアデザインと関連付けてミクロ経済学の基礎について学びます。キャリアは個人の選択により形成されますが、その選択のメカニズムを「経済学」の視点でとらえます。経済学は、完全に競争的な市場の中で、個人や企業が合理的に行動するという前提に議論がなされ、基本的なメカニズムを理解することは重要です。しかし、理論通りの完全競争的な市場になることは稀です。また人間の行動は不合理と思えることの方が多く、なぜ合理的でない行動をとってしまうのか、に関しても最近注目されている「行動経済学」で解釈することができます。経済学という「お金」の側面を思い浮かべがちですが、恋愛や家族形成、職場での男女差別など身近なトピックも取り上げながら議論を進めます。

【到達目標】

キャリアデザインについてミクロ経済学と関連付けながら総合的に理解するとともに、ビジネスキャリアへの関心を持つことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントのスライドを用いた授業を行います。学習支援システムで資料を配布するので、この資料を必ずプリントアウトして出席してください。資料がないと授業の理解が難しくなります。また、欠席した場合には、学習支援システムで内容を確認しておいてください。

授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡するので、随時学習支援システムでの確認をお願いします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、ミクロ経済学の導入	授業概要の説明、ミクロ経済とは何か。
第2回	市場のメカニズム① 分業と市場	経済学的に考える基礎である「競争的な市場」とは何か。市場の前提としての分業の構造について。
第3回	市場のメカニズム② 消費者の行動を考える	経済学では、市場の中で、個人は合理的に行動すると考えます。つまり個人は損得を判断して行動するわけですが、そこには個人の好み(選好)も関わります。個人が商品やサービスを求める行動について考えます。
第4回	市場のメカニズム③ 企業の行動を考える	利潤を追求するのが企業の目的です。企業は資本設備をそろえ、労働者を雇用して生産活動を行う経済主体ですが、どのようなメカニズムで企業の行動が決まっているのかを考えます。

第5回	市場のメカニズム④ 価格について考える	需要曲線と供給曲線を用いて、商品の価格や取引量がどのように決定するかについて解説します。オークション、価格弾力性、「タダ」の意味など、価格について掘り下げます。
第6回	市場のメカニズム⑤ コストとインセンティブについて考える	「損をした」「得をした」と考えますが、それはどのようなメカニズムによるのでしょうか。「恋人と別れた方がいいのか?」というテーマにも「損得」という視点からアプローチします。経済学では、完全に競争的な市場で合理的な行動がとられる、ということ的前提にモデルが考えられますが、実際には市場は不完全なことの方が多いです。不完全な市場について、独占・寡占、情報の非対称性といった点から考えます。
第7回	市場のメカニズム⑥ 不完全な市場	成功確率が70%の手術を受けますか?。不確実な状況においてどのような意思決定が行われるのかについて、行動経済学による解釈を紹介します。
第8回	人間の行動を読み解く①「プロスペクト」	「10万円のバッグが安い!」と思って購入してしまう。損得を考えずに直感で意思決定(ヒューリスティック)をする場面は多いですが、なぜそのような行動をとってしまうのかについて考えます。
第9回	人間の行動を読み解く②「ヒューリスティック」	行動経済学では、「肘をつつく」という意味の「ナッジ」が重視されます。ある行動をとってもらい、あるいはある行動をしないようにしてもらいするための仕掛けとして「ナッジ理論」について例を挙げて説明します。
第10回	人間の行動を読み解く③「ナッジ」	結婚、離婚という意思決定について経済学の視点で考えます。
第11回	意思決定の実際①結婚、離婚の経済学	出産、子育てという意思決定について経済学の視点で考えます。少子化の原因にも触れます。
第12回	意思決定の実際②出産、子育ての経済学	授業内容の理解度を確認するため、授業内試験を実施する。
第13回	授業内試験	試験の解説を行い、授業のまとめを行う。
第14回	試験の解説、授業のまとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習と復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】
小島寛之『世界一わかりやすいミクロ経済学入門』講談社

【参考書】
ティモシー・テイラー[著]、高橋璃子[訳]『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 ミクロ編』かんき出版。
吉本 佳生[著]『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会。
大竹文雄[著]『行動経済学の使い方』岩波新書。

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験結果と授業への出席内容で行います。試験50%、授業出席内容(ミニレポート、その内容も重視)50%。

【学生の意見等からの気づき】
授業の最初の時間を使って、前回の復習を行うことで学生の講義内容への理解を深めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】

ビジネスキャリアを理解するという観点で、ミクロ経済の入門をベースにした授業を展開します。人間の行動や意思決定のメカニズムを、経済学的の観点で解釈するとどのようにとらえることができるのか、について考えます。結婚や出産などのライフキャリアも具体例として取り上げて議論を進めていきますので、積極的に授業に参加してください。わからないことはいつでも質問して下さい。

なお、受講者の状況を見て、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn the basics of microeconomics in relation to business career design. Careers are formed by individual choices, and the mechanism of those choices is understood from the perspective of "economics."

【Learning Objectives】 The goal of this course is to gain a comprehensive understanding of career design in relation to microeconomics.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process.

Term-end examination (50%) and in-class contribution(50%).

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ビジネスキャリア入門C 基幹科目

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、ビジネスキャリア入門として、キャリアデザインと関連付けながら経営学の基礎を学んでいきます。ビジネスが行われる主な場は、「株式会社」といわれる組織です。この講義では、株式会社の歴史、意義および課題等について、人々のキャリアと関連付けながら平易に講義してまいります。

【到達目標】

株式会社をはじめ企業に関する基礎知識について、キャリアデザインと関連付けながら総合的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本講義は、対面の講義形式で実施します。授業への動機付けの向上や理解度の確認のため授業内レポートを執筆してもらいます。その結果は授業中にフィードバックし、問題意識が深められていくように進めていきます。なお、COVID-19の感染拡大によりオンライン授業を行う必要がある場合など、適宜、Hoppiにより連絡します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	キャリアデザインの基礎	本学部の主題である「キャリアデザイン」について考察します。
3	人間の分析	ビジネスを織りなす「人間」とは何かについて考えます。
4	株式会社の基礎①	企業分析の方法 (ケーススタディ) について学びます。
5	株式会社の基礎②	株式会社の起源と発展について歴史を踏まえながら学びます。
6	株式会社の基礎③	資本市場、労働市場、生産要素市場の関係性について学びます。
7	株式会社の基礎④	株価形成の仕組みについて学びます。
8	中間レビュー	第2回～第7回の講義内容をレビューします。
9	株式会社の基礎⑤	今日のビジネスモデルにおける「非財務資本」の意義について学びます。
10	企業社会とキャリア①	産業構造、労働市場、人々のキャリア形成の関係性について学びます。
11	企業社会とキャリア②	人的資本の理論について学びます。
12	企業社会とキャリア③	人的資本の形成について考えます。
13	企業社会とキャリア④	日本企業をめぐる課題について考えます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞記事を読むなど、企業をめぐる動向に関心をもってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は次のとおりです。

- ①平常点10% (授業内のQuiz、レポートの得点)
- ②定期試験90%

【学生の意見等からの気づき】

良いレポートをより積極的に紹介して、受講者のレポート作成に役立つ情報を提供します。

【Outline (in English)】***Course outline**

The purpose of this course is to understand the history, significance, and challenges of stock companies in relation to people's careers.

***Learning Objectives**

The goal of this class is to provide students with a comprehensive understanding of basic knowledge about corporations such as the listed companies, while relating it to career studies.

***Learning activities outside of classroom**

Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding companies, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

***Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Quiz and short reports: 10%, Term-end examination: 90%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ビジネスキャリア入門D 基幹科目

酒井 理

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。

本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。

【到達目標】

本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。

- ①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点を持つこと
- ②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解すること
- ③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができること以上、3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

14回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく3つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート(1-1～1-4)、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート(2-1～2-4)、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート(3-1～3-4)、です。

受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、配布資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムーズに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。

課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をきいてアドバイスや相談を行って、講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。

楽しみながら（わくわくしながら）ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのかについて話します。 学びに先行して、まず体験から始める意義について説明します。

2	(1-1) キャリアデザインを考えるセッション	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをテーマにディスカッションします。
3	(1-2) ビジネスアイデアの創出	やりたいことをビジネスにすることを考えます。 課題の提示：学生生活をもっと楽しく、エキサイティングなものにするサービスを考えます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
4	(1-3) ビジネスアイデアのブラッシュアップ	課題の途中経過をみながらいくつかのアイデアを取り上げてアドバイスをとおこします。 学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
5	(1-4) ビジネスアイデアに関するアドバイスを	ビジネスアイデアの課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。 提出されたビジネスアイデア課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
6	(2-1)アントレプレナーシップを考えるセッション	日本におけるスタートアップ企業、アントレプレナーシップをテーマに、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。 起業の実際、経営の実際を知る機会を提供します。
7	(2-2) ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート1で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。 競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略について解説します。
8	(2-3) ビジネスモデルと戦略に関するブラッシュアップ	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをとおこします。 学生がお互いに協力して自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
9	(2-4) ビジネスモデルと戦略に関するアドバイスを	ビジネスモデルと戦略の課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。 相談された課題の改善点などの解説を行います。
10	(3-1) ビジネスプランの考え方を知る	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み（ビジネスモデル）を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。 ビジネスプランをどのようにつくっていくかを解説します。
11	(3-2) ビジネスプランを作る	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをとおこします。
12	(3-3) ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。

- 13 (3-4) ビジネスプランの講評 パート1のアイデア創出、パート2のビジネスモデルと進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。
提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
- 14 web試験・まとめと解説 ここまでの総括としてweb試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。

【参考書】

特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらいたいと思います。

フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。（『Principles of Marketing 14th edition』）

和田充夫他『マーケティング戦略 第4版（有斐閣アルマ）』2012、有斐閣。

石井淳蔵他『1からのマーケティング（第4版）』2019、碩学舎。
スタンフォード大学ハッソ・ブラッドナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の38の技法』2018、アイリーニマネジメントスクール。

デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済。

沼上幹『新版わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣、2000年。

伊丹敬之『経営戦略の論理3版』日本経済新聞社、2003年。

エーベル『事業の定義』千倉書房、1992年。

H. ミンツバーグ『戦略計画 創造的破壊の時代』産業能率大学出版部、1997年。

梶井厚志『戦略的思考の技術 ゲーム理論を実践する』中公新書、2002年。

森岡毅、今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA、2016年。

【成績評価の方法と基準】

①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点が備わったか

②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解できたか

③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができたか

以上3点について、Web試験とビジネスプラン課題によって評価します。

web定期試験40%、ビジネスプラン課題60%の割合で評価します。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム（Hoppii）、googleclassroomなどを使用します。

クリッカー、webでの小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.

In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.

[Learning Objectives]

The objective of the class is to acquire the basic knowledge necessary to understand management. Specifically, the following three goals will be pursued

(1) To understand the many frameworks related to management strategy and to acquire a perspective that enables us to analyze the various actions of a company

(2) Understanding business systems

(3) To be able to apply original ideas to business

Throughout the course of the class, students will work on an assignment to create a plan for their own business. The 14 lessons will be divided into three parts.

(1) Idea generation part

(2) Strategy building part

(3) Business plan preparation part

[Learning activities outside of classroom]

Think about how companies operate, what it means for a company to compete, and with what intentions new products are launched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The following three points will be evaluated through a web-based examination and business plan assignment.

(1) Understanding of frameworks related to business strategy

(2) Understanding of business systems

(3) To turn your idea into a business.

The evaluation ratio is 40% for the web-based periodic exam and 60% for the business plan assignment. The total score is 100 points, and a score of 60 points or higher is required to pass the course.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ライフキャリア入門A

基幹科目

八田 益之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人生100年時代におけるライフキャリア論について、特に、コミュニティとキャリアの視点から理解を深める。毎週、現代社会におけるコミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げ理論的蓄積と適宜検証作業を行う。*理論的蓄積としてはプロティアンキャリア論の基礎枠組みを把握する。

【到達目標】

- ①ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する理論的理解と具体的事例の洞察的分析を行う能力を養うことができる
- ②自身のライフキャリアプランを、社会動向の変化の中で考えることができる
- ③少人数でのグループワーク時に、理論的見解を自分の言葉で述べるることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する基礎理論を把握し、現代社会におけるコミュニティの多様性・多層性を分析する視点を養う。毎週、コミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げて理論的蓄積と適宜検証作業を行う。

*コミュニティとキャリアに関する外部講師を招聘し、特別講演会を開催することもある。これにより全体の進行、各回の内容が変わるため、更新したシラバス概要は適宜提示する。

フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義のガイダンス：ライフキャリア論の射程	ライフキャリア論の学問的特性を学ぶ
第2回	人生100年時代のライフキャリア：プロティアン・キャリアの基礎	人生100年時代のライフキャリアについて、プロティアン・キャリア論の基礎に分析視座を学ぶ
第3回	人生100年時代のライフキャリア：大学の学び	人生100年時代のライフキャリアについて、特に大学での学びについて考える
第4回	人生100年時代のライフキャリア：大学の<外>の学びについて考える	人生100年時代のライフキャリアについて、特に大学の<外>の学びについて考える
第5回	人生100年時代のライフキャリア：大学から社会へ	人生100年時代のライフキャリアについて、大学から社会への移行について理解を深める
第6回	人生100年時代のライフキャリア：コミュニティの多様性	人生100年時代のコミュニティの多様性を確認する
第7回	人生100年時代のライフキャリア：デジタル・コミュニティの現在	人生100年時代のライフキャリアについて、デジタル・コミュニティの理解を深め、社会問題を分析する

第8回	人生100年時代のライフキャリア：シリアスレジャーの価値	人生100年時代のライフキャリアの視点から、趣味の追求はどのような意味を持つのかを学ぶ
第9回	人生100年時代のライフキャリア：シリアスレジャーとコミュニティ	人生100年時代のライフキャリアの視点から、個人的趣味とは、どのような仕組みによって支えられているのか、コミュニティの視点から学ぶ
第10回	人生100年時代のライフキャリア：物語構造	人生100年時代のライフキャリアの視点から、物語の普遍的構造、そのシリアスレジャーなどへの応用について学ぶ
第11回	人生100年時代のライフキャリア：シリアスレジャーにみる達成感・中毒性・幸福	人生100年時代のライフキャリアの視点から、成功、達成感、その限界、真の幸福について考える
第12回	人生100年時代のライフキャリア理論：プロティアンキャリアの射程	人生100年時代のライフキャリア理論のなかで、各事例を読みとく、プロティアン・キャリアの視点を習得する
第13回	人生100年時代のライフキャリア戦略：キャリア資本論	人生100年時代のライフキャリア戦略についてキャリア資本論を学ぶ
第14回	人生100年時代のライフキャリア：コミュニティとキャリア	人生100年時代のライフキャリアの視点からコミュニティとキャリアの現代的洞察を深める

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各講義のポイントを復習しておく本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

田中研之輔『プロティアン』(2020 日経BP)

田中研之輔『先生は教えてくれない就活のトリセツ』(2018 ちくまプリマー新書)

田中研之輔『先生は教えてくれない大学のトリセツ』(2017 ちくまプリマー新書)

【成績評価の方法と基準】

① 授業時の感想メモと平常点 50%

② 期末レポート (もしくは期末試験) 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため、ありません。

【その他の重要事項】

例年、大人数での受講となりますが、受講者の意見や見識をいかしていけるように可能な限りアクティブラーニング形式をとっていきます。本講義での問いかけに、「正解」はありません。自分の考えを伝える機会として積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to deepen students' understanding of life-career theory in the age of 100 years of life, especially from the perspective of community and career. Each week, specific cases related to communities and careers in contemporary society will be discussed to accumulate theoretical background and to conduct verification work as appropriate.

Grading criteria: Term-end examination (or report)50%, in class contribution: 50%

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ライフキャリア入門B 基幹科目

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生活におけるキャリアについて。とりわけ家族生活と関係した夫婦や親子の関係性に関するキャリアを扱う。夫婦になる前の男女の関係性や経験も視野に入れる。それらが、時代背景や社会文化背景のなかからいかに個人のキャリアの形成と関係しているかを学ぶ。

【到達目標】

履修前までに意識したことのなかった側面を含めて、家族生活に関わるキャリアを考えることができるようになることを目標とする。職業や業績達成だけでなく部分において、家族やパートナーとの関係においても、自己の将来について考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

基本的に、10代後半から20～30代ぐらいの年齢段階を、授業で扱う対象とする。履修者にとっての現在のステージや近未来的なライフキャリアに注目することで、より現実的・実践的・当事者的な内容になると考えられる。各回においては、PPTを用いた講義や事例紹介と、それに対する履修者の発言やリアクションペーパーによって進められる。また、必要に応じて映像資料等も利用する。くわえて、私自身の実施した学生調査の結果なども含め、具体的なデータも示し、そうすることで同時期に生活する人たちが実際にどう考え、行動しているか(してきたか)をより実感してほしい。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。なお社会情勢等によりオンライン形式もありえるが、その際は追ってアナウンスするので、初回から学習支援システムを確認すること(リモートの場合はオンデマンドとリアルタイムの併用)。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	交際と結婚①	交際の現状、時代の変遷
3	交際と結婚②	交際と結婚の違いに関する意識、国際比較、男女差等
4	結婚生活①	意識や現状に関する統計・事例
5	結婚生活②	かつてと現在、近代家族
6	結婚生活③	夫婦の生活、働くということ、国際比較等
7	実家との関係①	量的・質的側面、同居・隣居・近居・遠居
8	実家との関係②	嫁姑、自立、親離れ/子離れ、昨今の親役割
9	妊娠・出産①	妊娠生活、その現状
10	妊娠・出産②	里帰り出産、立ち会い出産
11	妊娠・出産③	男性の役割
12	浮気	現状、意識、別居、影響等
13	婚前の男女関係	でき婚、その影響等
14	まとめ	キャリアと家族生活について考えること

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

適宜、指定された課題を遂行すること(例：読書課題によるレポート、等)。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『親になれない親たち』(齋藤嘉孝、2009年、新曜社)

【参考書】

必要に応じて適宜解説する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と小レポート(50%)、期末試験(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【Outline (in English)】

This course deals with people's careers in everyday life, especially, family life and marital relationship and parent-children relationship. Relationship between men and women before marriage is also discussed. Students think of how these relationships are related with individuals' careers in historical contexts and social and cultural backgrounds. Learning objective of this course is to consider career design about family life. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 4 hours per class). Grading criteria are composed of class participation and reports 50% and final exam 50%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ライフキャリア入門C

基幹科目

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ライフキャリアは、集合的には、職業キャリア以外のすべてであるため、学びや研究の幅が広がる。一方、多様なライフキャリアの学びの最終ゴールは、より良く生きる、つまりウェルビーイング (well-being) を高めるという点で一致している。この授業では、コミュニティ心理学 (community psychology) における教育研究の視座に基づきライフキャリアの考え方や質向上の方法について考える。

【到達目標】

- ・現代社会を生きるうえでのライフキャリアについて、幅広い視点から捉えることが出来る。
- ・コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの理論や方法について知り、ウェルビーイング向上のために必要な行動や支援について理解する。
- ・ライフキャリア支援のためのプログラムを計画・評価することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代社会で「よく生きる」、即ちウェルビーイング (well-being) を高めることの意義やそのような生き方を下支えする社会のあり方についてコミュニティ心理学の理論と方法に基づいて考える。生活観やライフスタイルは人それぞれ違い、今後その違いはより一層強まると予想される。そこで、自分自身にフィットする人間・社会環境 (コミュニティ) や価値観、アイデンティティの多様性を踏まえたライフキャリアのあり方を学ぶ。この授業では特にコミュニティ心理学 (community psychology) の理論と方法をライフキャリアの学びの柱とする。

まずウェルビーイングの考え方を確認し、よく生きるとは何か、どう定義・測定されるのか、さらにウェルビーイングの規定要因は何かなどについて理論や実証研究の知見をもとに考える。そのうえで、コミュニティ心理学における鍵概念とされるエンパワメント (empowerment) や心理的コミュニティ感覚 (psychological sense of community) の役割や効果をライフキャリアの質向上の観点から掘り下げていく。さらに予防科学 (prevention science) の考え方をもち、様々な生活場面や社会的環境におけるストレスやリスクを予防・回避することの重要性について学ぶ。

またグループ演習として、ライフキャリア支援のあり方について考え、組織やコミュニティといったメゾ・マクロレベルでの実施を想定した介入プログラムを設計する。授業全体を通して、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活かすことにする。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要、成績評価等に関する説明を行う。
第2回	ウェルビーイング①	よく生きる、在る (being well) とはどのようなことを指しているのか。理論的背景を確認する。
第3回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングの測定方法や規定要因について学ぶ。

第4回	ウェルビーイング③	ウェルビーイングの効果について研究結果・事例をもとに学ぶ。
第5回	コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの学びとは何か	コミュニティ心理学の理論と方法に基づき、現代社会でよく生きることを考える。
第6回	コミュニティ心理学の価値観	ライフキャリアの質向上に関連するコミュニティ心理学の概念や価値観について学ぶ。
第7回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚の定義や理論的背景を確認し、コミュニティを心理学的に掘り下げるとはどのようなことかを学ぶ。
第8回	エンパワメント	エンパワメントの定義および役割を考える。事例として高齢者の社会参加を挙げる。
第9回	多様性・ダイバーシティ	大学における組織における多様性・ダイバーシティについて考える。
第10回	予防科学①	予防とは何かについて、構造および効果の側面から考える。
第11回	予防科学②	コミュニティ心理学における予防研究について知り、予防的介入の実践方法について考える。
第12回	ライフキャリアの質向上①	ライフキャリア支援の考え方と方法について学ぶ。
第13回	ライフキャリアの質向上②	ライフキャリア支援プログラムのあり方を事例を通して考える。
第14回	まとめ	授業での学びの総括および課題の提出。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

※授業内のディスカッションのため、配布資料の指定箇所を必ず読んで授業に参加してください。本授業の準備学習(3時間)・復習時間(1時間)を標準とします。特に事前学習 (配布資料の通読) に時間を費やしてください。

【テキスト (教科書)】

テキストは用いず、配布プリント、関連資料、演習用ワークシートを使用する。

【参考書】

授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、グループワーク (演習参加・発表・レポート作成) (30%)、授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(20%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

継続的に分かり易い授業を行う。大教室内のグループワークにおけるより効率的な運営方法を検討する。

【Outline (in English)】

Life-designing processes and outcomes are involved with many aspects of one's lives, and as such there is a whole spectrum of relevant research and training relating to the fields. Nevertheless, the goal of the fields is one thing in common – maximizing one's well-being. In this class, students will learn how to manage issues about their life-designing processes, so that their well-being can be maximized. We accomplish this goal by learning about theories and methods of community psychology.

Goal

・ Obtain broader perspectives concerning how to live a good life in modern society

・ Gain Knowledge about a series of life-designing programs that are based on the theories and methods of community psychology

・ Know how to evaluate those life-designing programs

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for finals (paper-and-pencil test and/or a reflection paper)

30 points (%) for group assignments and activities

20 points (%) for class participation and presentations

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ライフキャリア入門D

基幹科目

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、マスコミなどでも「地域の衰退化」「都市の空洞化」などが話題になる。地域や都市を活性化するためには、そこで生活や仕事をする人たちが、生きがいを持ち、その土地の一員としての役割を果たすことが大切である。人の生き方(ライフキャリア)は、地域と密接に関係している。そのことを理解し考えるために、地域において個人が市民としてキャリア形成をはかることをテーマにする。

【到達目標】

具体的には、「まちづくり」や「市民のキャリアデザイン」の考え方や、各々の実情を理解するとともに、そのあり方について具体的にみる。将来、文化、教育、福祉、ビジネス方面から「まちづくり」に関心のある人たちにとって基礎的知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

「まちづくり」に関する基礎的な知識を習得することをはじめ、各地の「まちづくり」の実例をみることや、さらに文化をもちいた取り組みについても紹介する。授業は、講義・ワークショップなどからなる。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する
2	民主主義と市民のキャリアデザイン	地域コミュニティや市民のキャリアデザインの考え方を説明する
3	市民活動とまちづくり	NPOについて取り上げる
4	市町村合併とまちづくり	平成大合併について取り上げる
5	都市の経営とまちづくり	急速な少子高齢現象が進む地方の現状と取り組みをみる
6	行政改革とまちづくり	現職市長の講演(映像)
7	エコミュージアムとまちづくり	山形県朝日町、長野県大鹿村を事例に説明する
8	観光とまちづくり	住民と行政の協働による地域の活性化(大分県湯布院町を事例にする)を説明する
9	世界遺産とまちづくり	特に石見銀山を事例に取り上げる
10	市民による公立博物館の運営とまちづくり	指定管理者制度の考え方や仕組みとともに、市民が公共施設を運営する特性について説明する
11	「まちづくりとキャリアデザイン」	外部講師講演
12	市民のキャリアデザイン I	文化資源を活用した市民による「まちづくり」説明する

13 市民のキャリアデザイン II 文化資源を活用した市民による「まちづくり」説明する

14 試験(総括を含む) 試験(総括を含む)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各地のまちづくりの事例や文化施設を見学する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

金山 喜昭『公立博物館をNPOに任せたら-市民、自治体、地域の連携-』(同成社、2012年)

【参考書】

適宜授業内にて資料を配布。

【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)

課題レポート(20%)

試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

テーマにもとづき系統的に授業を展開する。

【Outline (in English)】

(Outline)

A person's way of life (life career) is closely related to the region. The aim of this course is to help students acquire the theme of career development for individuals as citizens in the community.

(Learning Objectives)

The goals of this course are designed to provide basic knowledge and skills for those who are interested in "urban development" from the cultural, educational, welfare, and business perspectives.

(Learning activities outside of classroom)

The students will visit examples of community development and cultural facilities in various regions. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following

Normal score (20%), Assignment reports (20%), Examination (60%)

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

ファシリテーション論 基幹科目

徳田 太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第14回：まとめの講義と、授業内試験(レポート)を行う。
- *第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる(毎回提出のこと)。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての(また参加者としての)言動については、その都度フィードバックを行う。
- *大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する(講義)
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ(講義・演習)
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ(講義・演習)
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ(講義・演習)
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ(講義・演習)

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ(講義・演習)
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ(講義・演習)
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
13	ファシリテーション実践	参加型の場(ワークショップ)の運営を体験する(演習)
14	まとめ	まとめ(講義)および授業内試験(レポート)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
 ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)
 ・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)
 ・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法(改訂版)』(2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』(岩波書店、2009年)
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシック：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約60%)、レポート課題(授業内試験)(約20%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約20%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム(Hoppi)を使用します。

【その他の重要事項】

グループでの話しあいを中心とした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください(第1回授業はオンラインで実施します)。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

若者の自立支援

基幹科目

大山 宏

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土2/Sat.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。

この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。

ただし授業の進行度に応じてアクティブラーニング(ディスカッション等)を実施する可能性がある。

また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。

提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。

この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。

その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認をしておくことを求める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第2回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第3回	「就業」と生きづらさ	「就業」を基盤とした自立についての検討
第4回	若者の生きづらさ	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第5回	支援対象の設定	支援の対象をどのように設定するか
第6回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第7回	重層的な支援の構造	互いに支援し合える構造の重要性について
第8回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第9回	若者と社会	「社会」の検討と若者支援との関係性

第10回	社会への参画	若者と社会の関係性について
第11回	若者と社会をつなぐ取り組み	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第12回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第13回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第14回	総括	自立の要件
	若者の自立支援とは	若者支援の課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロン/フレッド・カートメル・大月書店
など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクションペーパー・オンライン授業での様子) : 40%
レポート : 60%

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。

また、前年度は毎回の授業で提出してもらったリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

reports : 60%, in class contribution: 40%

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目
イ

なかむら アサミ

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることには有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々を教壇にお呼びして、仕事経験(キャリアヒストリー)を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネスなど様々な分野で活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。課題等の配布は「学習支援システム」、提出は授業内で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。ゲスト講師の回以外の授業では参加受講者同士で、簡単なワークを行うと認識しておいてください。現在、対面での授業を予定していますが、コロナの感染状況やゲスト講師の方の基礎疾患などを踏まえてオンラインで講義することもあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第2回	聴く力とは？	キャリアの語りを聞き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第3回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第4回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第5回	聴く力、下調べ、インタビュー術の実践	これまでの学びを、デモ講義を通して実践し、次回以降のゲスト講師授業準備等に活かす
第6回	ゲスト講師①	NPO分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第7回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第8回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第9回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。

第10回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う
第11回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第12回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第13回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第14回	ゲスト講師⑤⑥の振り返りとまとめ	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ→インタビュー→解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし。レジュメを配布する。

【参考書】

特になし。必要な場合は適宜知らせる。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度(50%)と最終講義日に提出するレポート(50%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

振り返りなど、業界や職業知識の解説を適宜行い、理解を深められるようにする。ゲスト間の仕事観の違いなどを説明する。授業中のリアクションペーパーを通じて学生の要望を反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PCの持ち込みは可能です。

【その他の重要事項】

履修希望者はなるべく初回から出席すること。特に2回～4回目までは授業の基本的な進め方について説明及び実習を行うので、2回～4回までに欠席した場合は、単位の取得は不利となる

【Outline (in English)】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

多文化教育 I

展開科目

村田 晶子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、受講者の多文化理解力、多文化協働力を高めることを目的とします。受講者は、本科目を通じて、自己の異文化体験を振り返って分析することができるようになります。また、言語文化的に多様な背景をもつ人々と協働し、学び合うことがなぜ大切なのか理解し、自らイニシアティブをとって、文化紹介、国際交流、学習支援を実践することができるようになります。

【到達目標】

本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。

- ・自分の異文化体験を批判的に省察し、言語化することができるようになる
- ・在日外国人が抱える問題を理解し、どのような解決方法があるのかアイデアを出せるようになる。
- ・多文化協働力を高められる
- ・交流活動を企画し、実践することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・本授業は履修学生をグループに分け、毎回の授業で課題を提示し、グループ内でディスカッションを行い、全体に対して発表します。

【課題等に対するフィードバック方法】

・リアクションペーパー等におけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなるディスカッションに活かします。

・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (4/11)	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第 2 回 (4/18)	留学・英語神話	大学のグローバル化、留学、英語学習について考える。
第 3 回 (4/25)	日本で学ぶ留学生の視点	留学生の来日動機、来日して抱える問題点について学ぶ。
第 4 回 (5/9)	異文化適応	様々な異文化適応の理論を学ぶ。学内の留学生交流を始める。
第 5 回 (5/16)	「やさしい日本語」は必要か	「やさしい日本語」が提唱されるようになった背景、社会的な意義、具体的な使い方を学ぶ。
第 6 回 (5/23)	外国人労働者をめぐる問題	外国人労働者の在留資格、受け入れの実態、受け入れ制度の問題点について学ぶ。
第 7 回 (5/30)	ステレオタイプについて考える	ステレオタイプのメカニズムを理解し、自分のステレオタイプについて掘り下げる。
第 8 回 (6/6)	「ハーフ」	「ハーフ」という呼び方について考える。当事者の多様な経験を理解する。

第 9 回 「日本人論」
(6/13)

・過去の「日本人論」を知るとともに、現代のメディアによる「日本人」「●●人」の描き方を考える。

・プロジェクトのトピックをグループで選ぶ。

第 10 回 ヘイトスピーチ、マ
(6/20) ジョリティー特権、
マイクロアグレ
ッション

・ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッションについて考える。

・プロジェクトの企画書を作成する。

第 11 回 文化紹介プロジェ
(6/27) ットの準備

グループに分かれてプロジェットの準備

第 12 回 プロジェクトの発表
(7/4) 1

発表とディスカッション (グループ1～3)

第 13 回 プロジェクトの発表
(7/11) 2

発表とディスカッション (グループ4～6)

第 14 回 教場試験
(7/18)

最終レポートを作成、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業は2単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合1回につき4時間以上の授業時間外の学習が必要となります。

学生は授業で指示されたテキストをあらかじめ読んできてください。また、課外活動として、留学生との国際交流を行ないます (毎週1時間程度)。

【テキスト (教科書)】

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄 (編) (2019) 『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版 (2200円+税)

【参考書】

参加者の理解状況に応じて参考書の情報を知らせます。

【成績評価の方法と基準】

- ・積極的な授業の参加度 25%
- ・課題 35%
- ・最終発表 20%
- ・最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

後半の文化紹介プロジェクトの準備の時間が足りなかったというコメントがあったので、プロジェクトの予告と準備時間をもう少し取りたい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに2回目の授業までに登録してください (クラスコードは初回の授業で伝えます)。

・授業の出席のチェックにGoogle Classroomを用いるため、授業には毎回携帯端末かPCを持参すること。

【その他の重要事項】

・第1回のオリエンテーション、第2回のグループ分けに必ず参加すること。1回目、2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育Ⅱ」をペアで履修することが単位取得の条件となります。

・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】

毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

The course seeks to enhance students' multicultural awareness and understanding of linguistically and culturally diverse groups of people living in Japan. It also aims to develop students' multicultural collaboration skills.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to 1) critically reflect upon their own multicultural experiences; 2) understand the social issues impacting foreign residents; 3) enhance multicultural communication skills; and 4) conduct cultural exchanges.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

Grading will be decided on the basis of the following:

In-class Contribution: 25%

Assignments: 35%

Final Presentation: 20%

Final Paper: 20%

· Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

多文化教育Ⅱ

展開科目

村田 晶子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は春学期に学んだことを踏まえて、学内や学外の国際交流や支援活動にボランティアとして参加し、その実践を振り返ります。そして文化の多様性を社会の豊かさにつなげる「多文化共生」の在り方を考えます。

【到達目標】

本科目でボランティア活動に参加することを通じて、学生は多様な背景をもつ人々と協働するためのスキルを高めることができます (例：傾聴力、発信力、文化分析力、偏見やステレオタイプに気づく力、関係性の構築力、対立への対応力、自己省察力、柔軟な態度、自己管理能力、積極的に働きかける力等)。そして、多文化共生社会に貢献するために何が必要なかを理解し、自ら行動することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

* 授業は以下の流れで進めます。

1. 課題の説明

2. グループディスカッションを行なう。

3. Google Classroomから課題を提出する。

* 体験学習期間は参加者の活動→振り返り→ディスカッション→次への応用というサイクルが中心になります。

【課題等に対するフィードバック方法】

・よい振り返りのコメントは全員に紹介し、ボランティア活動に活かします。

・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティアプロジェクトの説明	授業内容提示、履修の有無判断、ボランティアプロジェクトの選
第2回	交流活動計画を立てる	国際交流ボランティアの活動計画の作成
第3回	海外大学とのオンライン交流の開始	海外大学との交流班は、オンライン合同オリエンテーションに参加
第4回	チュートリアル1	小グループに分かれてボランティア活動の初回の振り返りを行う
第5回	チュートリアル2	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりと、計画の調整を行う。
第6回	チュートリアル3	小グループに分かれてボランティア活動の課題を検討し、改善のための目標を設定する。
第7回	チュートリアル4	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりのサイクルか機能しているかチェックする

第8回	チュートリアル5	小グループに分かれてボランティア活動の最終成果物のテーマを決める。
第9回	チュートリアル6	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション①
第10回	チュートリアル7	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション②
第11回	チュートリアル8	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション③
第12回	ボランティアのまとめと発表準備	各グループにわかれて成果発表会の準備を行う
第13回	成果発表1	グループの活動報告 (グループ1～3)
第14回	成果発表2	グループの活動報告 (グループ4～6)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業は2単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合1回につき4時間以上の授業時間外の学習が必要となります。

授業時間外で、学内の留学生との国際交流、そして各自が選んだボランティア活動をします。

【テキスト (教科書)】

自主作成教材を配布

【参考書】

村田晶子 (編) (2022)『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』くろしお出版

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄 (編) (2019)『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

・積極的な授業の参加度 25%

・課題 35%

・最終発表 15%

・最終成果物 25%

【学生の意見等からの気づき】

学生からはこのクラスの履修を通じて積極的に外国籍の人々と交流できるようになった、自分のステレオタイプに気づき、以前よりも柔軟な態度で他者に接することができるようになった、以前は内向き志向だったが外に目を向けるきっかけになった、広い意味でのコミュニケーション能力の大切さを理解した、交流や協働学習を今後地域ボランティアとして続け、社会貢献をしたい、など様々なコメントが聞かれた。この経験を今後の生活、勉学、キャリア、社会貢献に生かしてもらえたらと考える。そのために、学生が主体的に取り組めるような授業の方法を今後も検討していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに第1週目の授業までに登録してください。

・ハンドアウトが見られるように教室にPCか通信端末を持ってきてください。

【その他の重要事項】

・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、2024年度の春学期「多文化教育Ⅰ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。それ以外で履修できる学生は2024年4月の段階で秋学期の履修を許可している学生のみです。

・第1回のオリエンテーション、第2回のグループ分けに必ず参加すること。第1回目、第2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

【その他】

ボランティア活動は相手あつての活動です。遅刻やキャンセルは相手に失礼です。きちんと活動に取り組む時間が取れない学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「多文化教育Ⅰ」を習得 (S~C-) した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

The course aims to enhance students' multicultural collaboration skills and their awareness of social contributions through international exchange and volunteer activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to apply their collaborative skills to promote social diversity and inclusion.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

Grading will be decided on the basis of the following:

In-class Contribution: 25%

Assignments: 35%

Final Presentation: 20%

Final Papers: 20%

· Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念と視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費化社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト(教科書)】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第1、2章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は、講義部分と考察部分とからなる。講義部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、オンライン配信する。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。

授業形態は対面式であるが、内容に合わせてオンラインのみの授業を複数回実施する。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマや進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第2回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第3回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第4回	対抗文化	対抗文化(カウンターカルチャー)の概念について学習する。
第5回	「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。

第6回	ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第7回	沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第8回	「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第9回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第10回	流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的变化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習する。
第11回	ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディア化」の視点から各自で分析する。
第12回	「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、現代社会における自己意識について考察する。
第13回	経済・政治構造の変化と政治社会学(前半)	高度成長期の政治構造を、太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に考える。
第14回	経済・政治構造の変化と政治社会学(後半)	高度成長後に起こった政治構造の変化について学習する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書 2009年)

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019年)

・ニッポン戦後サブカルチャー史

(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容(85%)、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献(15%)、で評価する。

※この授業での課題は複数回、課され、小テスト的な位置を占める。※課題での不正行為には、大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できるPCないしタブレット。

・学習支援システムへの登録(授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出を、学習支援システムでおこなうため)。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 現代日本社会のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、家族、社会に対するパーソナル情報端末の影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動の両面から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は講義部分と考察部分からなる。講義部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、オンライン配信する。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。

授業形態は対面式であるが、内容に合わせてオンラインのみの授業を複数回実施する（具体的には、下記の「授業計画」を参照のこと）。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概容、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回	郊外化	郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。
第5回	個室化・「リアリティ」の反転	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第6回	犯罪社会学	見田宗介『まなごしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第7回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第8回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第9回	地域開発と産業・自然・地域の人びと	1960年代～70年代前半の地域開発（第一・二次全国総合開発計画）が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第10回	三全総の「定住圏」構想	1977年に国が策定した第三次全国総合開発計画（三全総）が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第11回	「自然」とは	NHKの戦後証言史映像を視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第12回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第13回	「限界集落」	中山間地域の現状について、マクロとミクロの両面から考える。
第14回	地域自治	地域自治について歴史と事例を踏まえて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

【参考書】

- ・NHK 戦後証言「日本人は何を目指してきたのか」
- ・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)
- ・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapps.gsi.go.jp/>)
- ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019年）
- その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※この授業での課題は複数回、課され、小テスト的な位置を占める。※課題での不正行為には、大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネットに接続できるPCないしタブレット。
- ・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出を、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念と視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費化社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第1、2章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は、講義部分と考察部分とからなる。講義部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、オンライン配信する。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。

授業形態は対面式であるが、内容に合わせてオンラインのみの授業を複数回実施する。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマや進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第2回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第3回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第4回	対抗文化	対抗文化（カウンターカルチャー）の概念について学習する。
第5回	「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。

第6回	ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第7回	沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第8回	「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第9回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第10回	流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的变化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習する。
第11回	ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディア化」の視点から各自で分析する。
第12回	「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、現代社会における自己意識について考察する。
第13回	経済・政治構造の変化と政治社会学（前半）	高度成長期の政治構造を、太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に考える。
第14回	経済・政治構造の変化と政治社会学（後半）	高度成長後に起こった政治構造の変化について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009年）

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019年）

・ニッポン戦後サブカルチャー史

(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※この授業での課題は複数回、課され、小テスト的な位置を占める。※課題での不正行為には、大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できるPCないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出を、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 現代日本社会のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、家族、社会に対するパーソナル情報端末の影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動の両面から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト(教科書)】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は講義部分と考察部分からなる。講義部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、オンライン配信する。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。

授業形態は対面式であるが、内容に合わせてオンラインのみの授業を複数回実施する(具体的には、下記の「授業計画」を参照のこと)。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回	郊外化	郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。
第5回	個室化・「リアリティ」の反転	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第6回	犯罪社会学	見田宗介『まなごしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第7回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第8回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第9回	地域開発と産業・自然・地域の人びと	1960年代～70年代前半の地域開発(第一・二次全国総合開発計画)が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第10回	三全総の「定住圏」構想	1977年に国が策定した第三次全国総合開発計画(三全総)が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第11回	「自然」とは	NHKの戦後証言史映像を視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第12回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第13回	「限界集落」	中山間地域の現状について、マクロとミクロの両面から考える。
第14回	地域自治	地域自治について歴史と事例を踏まえて考える。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書、2009年)

【参考書】

- ・NHK 戦後証言「日本人は何を目指してきたのか」
- ・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)
- ・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapps.gsi.go.jp/>)
- ・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019年)
- その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容(85%)、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献(15%)、で評価する。

※この授業での課題は複数回、課され、小テスト的な位置を占める。※課題での不正行為には、大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネットに接続できるPCないしタブレット。
- ・学習支援システムへの登録(授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出を、学習支援システムでおこなうため)。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：経済学の歴史から現代をみる

小峯 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近する。前期LAでは「経済学の歴史から現代をみる」を取り上げる。過去から現在にかけて、世の中には経済問題が溢れている。同時に、その原因や解決策を模索する学問的営みも多い。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、この問題をどのように考えられてきたか／考えるべきかを学ぶ。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とする。その題材として、本授業では、「経済学の歴史から現代をみる」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることを目標としたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進む。適宜、映像教材を用いて理解を進める。基本的には過去から現在へと説明が進むが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（授業料無償化問題、環境と脱成長、LGBTQなど）を含めて説明を補う。適宜、簡単なクイズを授業内に行い（あるいは授業の小さな課題として出し）、理解の助けとする。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合がある。学生の希望によって、グループ討議や発表タイムを混ぜても良い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から現代の経済問題を扱う	なぜ経済問題の把握に、経済学の歴史が必要か（教科書・第1章）
3	経済の発見（1）～古代から中世へ	プラトン、アリストテレス、ポリス社会（教科書・第2章）
4	経済の発見（2）～古代から中世へ	トマス・アクイナス、利子と利潤、市場の発展（教科書・第2章）
5	近代とは何か（1）～民主主義から資本主義へ	価格革命、商業革命、農業革命、産業革命（教科書・第3章）
6	近代とは何か（2）～民主主義から資本主義へ	社会契約説の三巨人、ホッブズ、ロック、ルソー（教科書・第3章）
7	なぜ商業や農業が重要なのか～富の再発見	重商主義、重農主義（教科書・第4章）

8	経済学の生誕～スミスの登場	共感、利己心、そしてアダム・スミス、見えざる手（教科書・第5章）
9	経済論争の時代～マルサスとリカード	経済論争と現代、物価・為替・分業・協業（教科書・第6章）
10	社会改良と経済学～ミルの苦悩と挑戦	古典派経済学の完成と現実、ジェンダー、植民地（教科書・第7章）
11	社会主義の勃興～マルクスとエンゲルス	経済学批判、唯物史観、疎外、剰余価値（教科書・第9章）
12	19世紀後半の消費者革命	限界革命、効用、欲望、一般均衡（教科書・第10章）
13	20世紀前半のケインズ革命	失業、雇用、効率と公平（教科書・第12章）
14	孤高の経済学者	ヴェブレン、シュンペーター、ガルブレイス、（教科書・第13章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

【参考書】

・小峯敦編（2010）『福祉の経済思想家たち【増補改訂版】』ナカニシヤ出版。
<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html>
・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。
<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点：40％
(2) 期末試験：60％
(1) 平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、グループ討議への参加度合い等によって定める。
(2) 期末試験に関しては、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、理解度チェックテストとする。自筆メモ（A4オモテ1枚）を持ち込み可能とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努める。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもある。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良い。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利である。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしい。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、教職課程の学生にも有用であろう。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がる。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "Current Problems in the Light of the History of Economic Thought." From the past to the present, the world is full of economic issues. At the same time, there are many academic endeavors that search for their causes and solutions. In this class, students will learn how this issue has been/should be considered from the standpoint of economics and the economy.

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：戦争と平和の経済思想

小峯 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近する。後期LBでは「戦争と平和の経済思想」を取り上げる。過去から現在にかけて、世の中には戦争・紛争が溢れている。同時に、その原因や解決策を模索する学問的営みも多い。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、この問題をどのように考えられてきたか/考えるべきかを学ぶ。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とする。その題材として、本授業では、「戦争と平和」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度理解を深めることを目標としたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進む。適宜、映像教材を用いて理解を進める。基本的には過去から現在へと説明が進むが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（露ウ戦争、パレスチナ紛争）を含めて説明を補う。適宜、簡単なクイズを授業内に行い（あるいは授業の小さな課題として出し）、理解の助けとする。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合がある。学生の希望によって、グループ討議や発表タイムを混ぜても良い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・序章）
3	近代国家と戦争	重商主義、主権国家、経済学の生成（教科書・第1章）
4	アダム・スミスにおける国防と経済	『国富論』、商業の発展、自由の確立（教科書・第2章）
5	古典派経済学と戦争～リカード、マルサス、ミル	平和的な分業（比較生産費説）、植民地経営（人口問題）、黒人問題
6	エッジワースの契約モデルと戦争	限界革命による経済学の左心、価格交渉（教科書・第3章）
7	ヴェブレンの平和連盟構想	アメリカ異端派の現状分析、国際連盟の誕生（教科書・第4章）
8	戦後構想における経済助言者の役割（1）	ケインズ～ベヴァリッジ体制とは何か、伝記的アプローチ（教科書・第5章）

9	戦後構想における経済助言者の役割（2）	福祉国家の誕生、連邦主義、国際連合の誕生（教科書・第5章）
10	ミュルダールにおける戦争と平和（1）	福祉国家から福祉社会へ、累積的因果関係、南北問題（教科書・第6章）
11	ミュルダールにおける戦争と平和（2）	スウェーデンモデルとは何か、国際平和研究所（教科書・第6章）
12	冷戦期以降の戦争と経済思想	シュエマツハー、ガルブレイス、ボールディング（教科書・第7章）
13	帝国主義・総力戦と日本の経済学者	石橋湛山、新渡戸稲造（教科書・第8章）
14	全体のまとめ～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・終章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。
<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【参考書】

・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【増補三訂版】』ナカニシヤ出版。
<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html>
・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点：40％
(2) 期末試験：60％
(1) 平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、グループ討議への参加度合い等によって定める。
(2) 期末試験に関しては、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、理解度チェックテストとする。自筆メモ（A4オモテ1枚）を持ち込み可能とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努める。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもある。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良い。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利である。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしい。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、教職課程の学生にも有用であろう。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がる。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "War and Peace in the History of Economic Thought". From the past to the present, the world is full of wars and conflicts. At the same time, there are many academic endeavors that search for their causes and solutions. In this class, students will learn how this issue has been/should be considered from the standpoint of economics and the economy.

POL200LA (政治学 / Politics 200)

政治学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：音楽と政治：ボブ・ディランを中心に

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：ボブ・ディランと政治

ボブ・ディランとUS政治の関係について考察する。

ボブ・ディランとUS政治の関係について考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

WW I 以降のUSの政治と社会についての基本的知識を得ること。

音楽を通して政治について考えるようになること。

ボブ・ディランの信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識を得ることと、宗教と政治の関係について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	戦間期のフォークミュージック	フォークミュージックと政治の交錯
# 3	本当のフォークミュージックの追求	ローマックス親子とレッド・ベリ
# 4	プロテスト・フォークミュージックの登場	ウディ・ガスリーを中心に
# 5	マッカーシズムとフォーク・リヴァイバル	ピート・シガーを中心に
# 6	古くて奇妙なアメリカ	ハリー・スミスとコラーージュの政治学
# 7	ボブ・ディランの登場	プロテスト・フォークミュージックの政治学
# 8	1965年	USのニュー・レフトとボブ・ディラン
# 9	ピート・ジュネレーション	文学による政治の変容
# 10	カウンターカルチャー	カウンターカルチャーの時代とその後
# 11	The Basement Tapes	Bob Dylan の「古くて奇妙なアメリカ」あるいは「見えない共和国」

12 Slow Train Coming Bob Dylan の改宗とUSの政治と社会

13 Things Have Changed. 終末論とUSの政治と社会

#14 Outro. 秋学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントを授業の前に目を通し、授業後に復習する。紹介された参考文献を読む。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013年）

北中中和『ボブ・ディラン』（新潮新書、2023年）

他の文献・音源・映像は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

小レポート 20%、期末レポート 80%

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラー・ミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

洋楽についての知識がなくてもかまいませんが、興味・関心を持っていることは必要です。

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別にZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器。

映像・音楽を視聴できる機器。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

Theme: Bob Dylan and Politics

【Course outline】

This course deals with the political world of Bob Dylan.

【Learning Objectives】

The fundamental aim of this course is to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering the political world of Bob Dylan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire basic knowledge of politics and society of the United States since the Second World War

To acquire basic knowledge of Judaism and Christianity and to understand relationships between politics and religion by considering the religious belief of Bob Dylan.

【Learning activities outside of classroom】

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Read references.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to short reports(20%) and term-end report(80%).

